

史上特異の光彩を放つて居る、久里濱にはヘルリ上陸記念碑がある。浦賀海峡は即ち古の走水の渡で弟橋の入り水せられた處、走水の山丘走水神社がある。浦賀より南すれば、五里にして三崎半島の一角三崎に至る、城ヶ島が其前面に横はりて風光甚佳、町の北方半里、三浦氏の新井城址もある。

武豊線 大府—武豊

●新川 ●乾坤院、十三町、●龜崎 ●高根公園、醫術の高丘、知多渡の眺望佳、一洲崎海水浴場、東十五町、附近神社あり、●牛田 ●龜崎と共に酒、醬油、酢の醸造が盛である、●入水神社、五町、●常楽寺、廿町、●阿久比神社、北一里、●英比城址、北一里半、●武豊 ●知多渡の埠頭で開港場である、最近の貿易額四百七十六萬圓に上る、●觀兵堂、西南五町、●鹿野佳、●大倉堂寺、西南三里半、馬車賃二十七錢、

西成線 大阪—櫻島

●福島 ●逆橋の松の址、南四町、●義經、景時義経の墓、●福島天神、南二町、●五百羅漢寺南二町、●浦江の聖天、西三

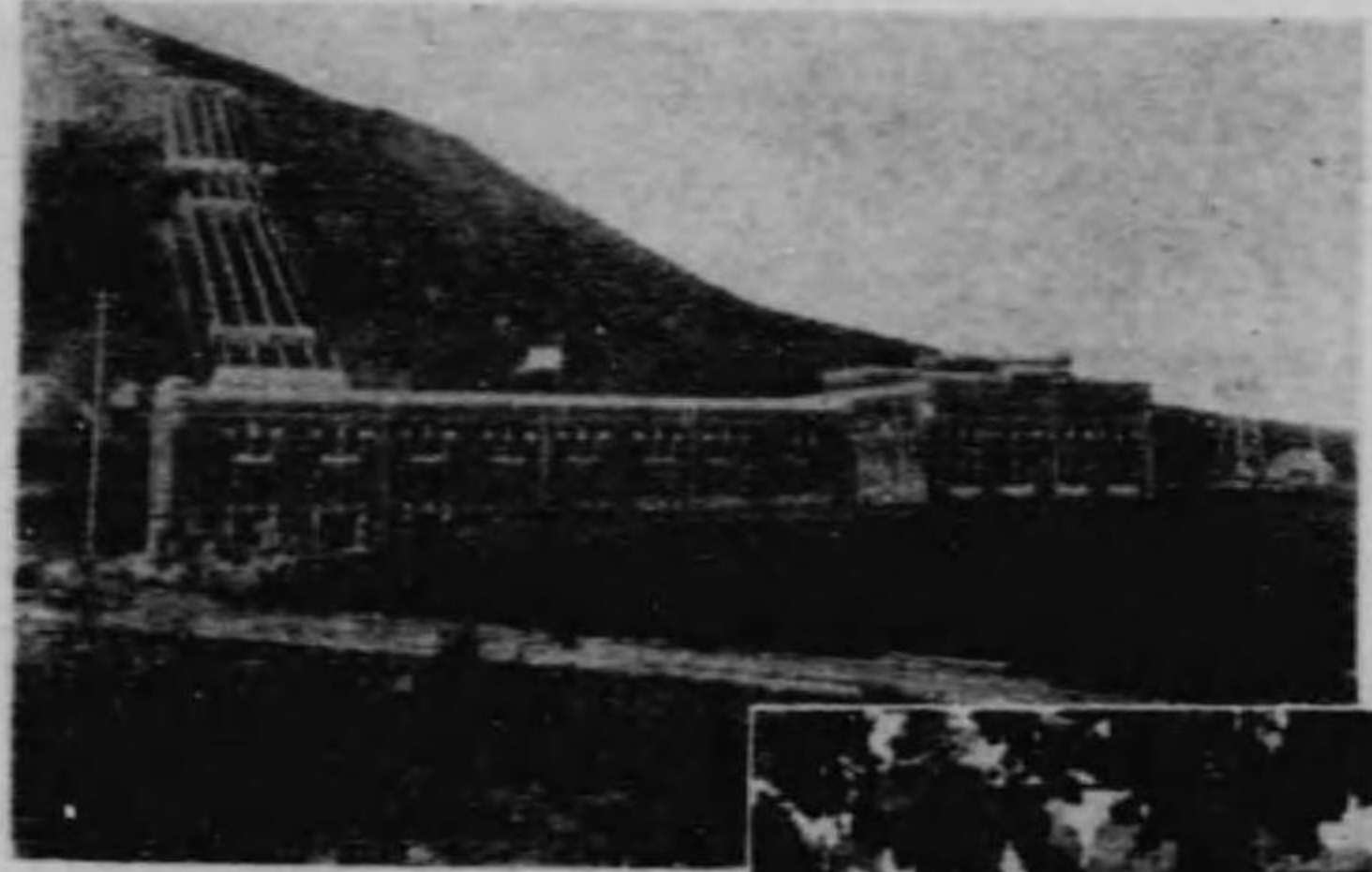
野間に在り、源義朝、織田信孝の墓あり、此附近義朝に關する古跡が多い、●武豊海水浴場、南四町、●師崎海水浴場、南四里半、馬車賃四十二錢、知多半島の最南端で風光がよい、船頭に羽豆神社がある、奇岩巖背の如く浪海の上に浮びて、四里の江山眺望廣大である。●櫻島、日間賀島、佐久島其東南海上に横はりて景勝に富んで居る、島運りも船が多い。

町、●野田 ●春日神社、藤花あり、東二町、●關滿寺、東一町、●西九條 ●天住吉神社、南十町、●正大寺、十三町、

猿 橋



鹿留發電所



勝沼葡萄園



御嶽新道石門



御嶽新道長湖



大泉寺内武田氏木像

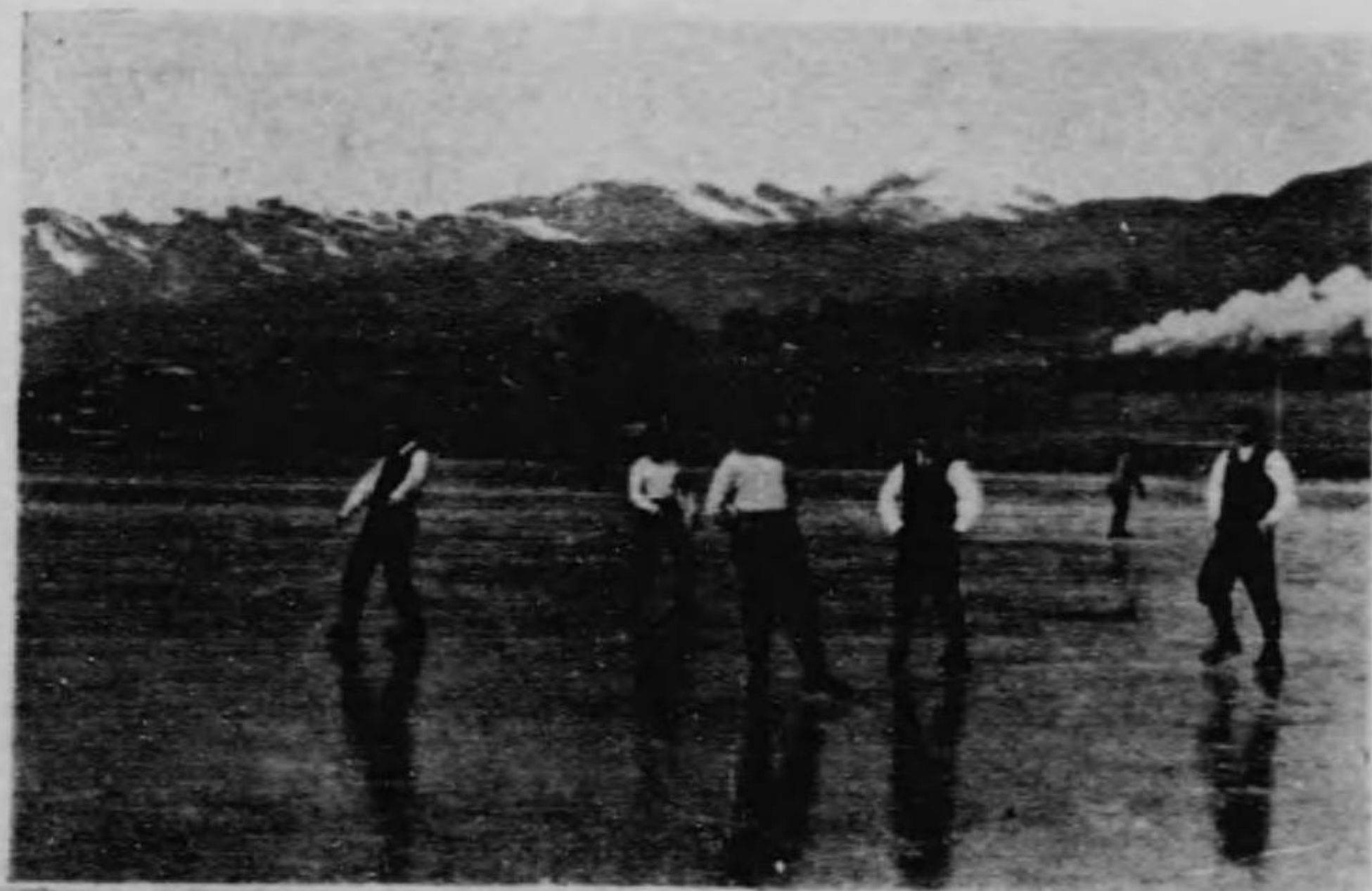


國分寺舊址



高尾山麓

滑 水 湖 訪 譚



峽 龍 天



近 附 山 銅 根 久 流 下 龍 天

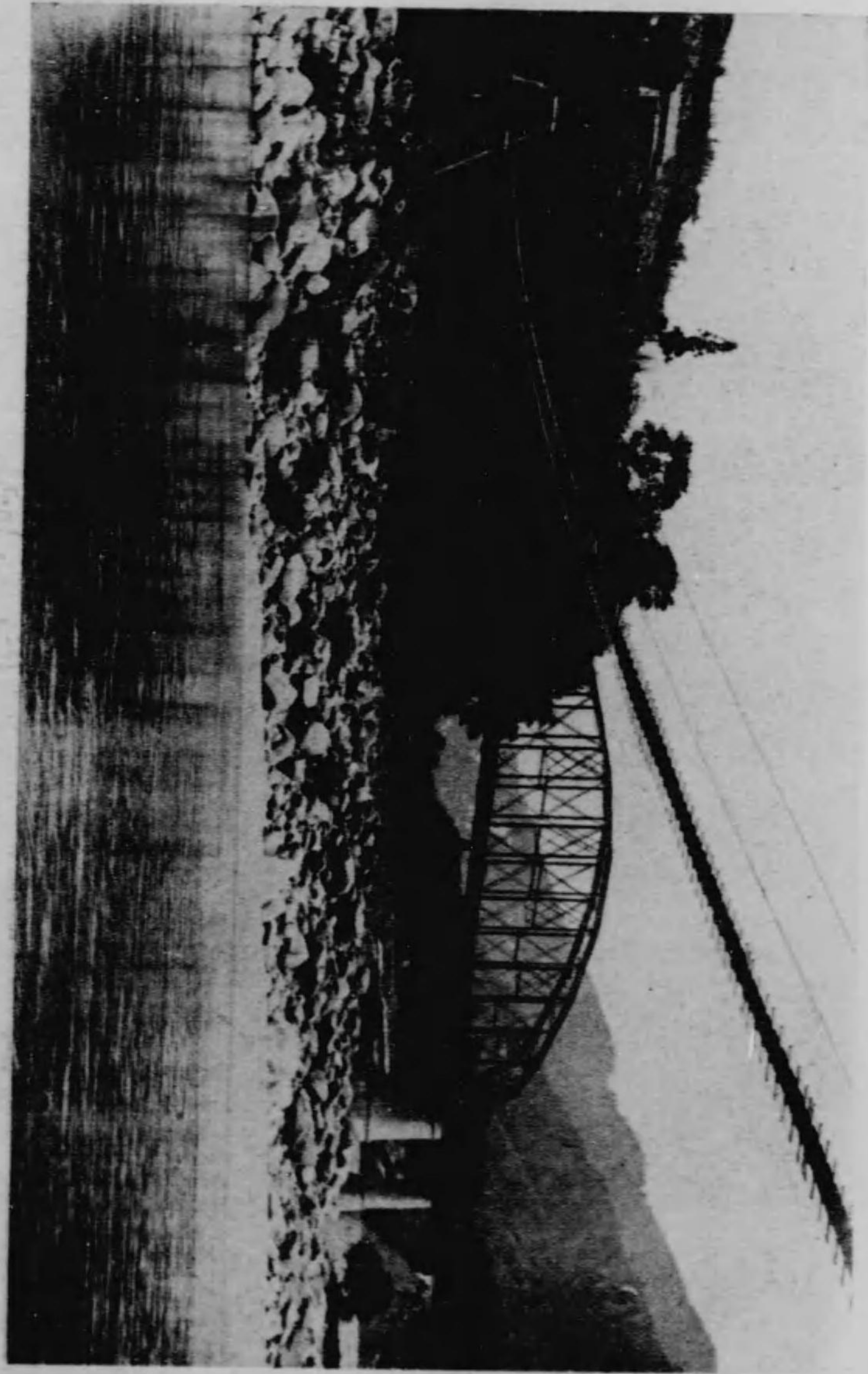


舟 下 川 士 富



山 延 身

橋 釣 及 橋 鐵 川 曾 木



望 遠 嶽 御



照 夕 の 嶽 ヶ 胸

鞍 馬 橋 の 風 光



近 附 道 棧 曾 木



床 の 覺 寢



嶽日大るた見のよ山馬白スフルア本日

堂音觀山溪虎



場工陶見治多



嶽鞍乗スフルア本日



嶽千杓スフルア本日



雪の山清路



姥捨山

●安治川口 ●安治川、驛前の大河、川村臨軒の改修せる運河、川尻に海標あり、●櫻島 ●天保山、驛の對岸に在り、

風光佳。

福知山線 神崎—福知山及塚口—尼ヶ崎

本線は神崎から岐れて福知山に至つて山陰本線に接する線路で、列車は大阪より此線を通じ新舞鶴及松江、大社への直通運轉あり、大阪新舞鶴間約五時間半、大阪大社間約十三時間十分を要する、尼ヶ崎の記事は東海道本線に附記してある。

●塚口 ●昆陽寺、西北廿町、行基がいな笹原を開拓して創設した處、播州第一の名刹であつた、寺の北行基の開墾した昆陽の池がある、●伊丹 ●清酒の醸造地として名高い猪名野神社、西北六町、●伊丹城址、驛の前面に在る一座の荒丘、傍に鹽竈寺あり、●池田 ●同じく清酒の醸造地である、●箕面公園、東一里半電車の便あり、紅葉の勝地である、●瀨あり、瀨安寺あり、動物園あり、大阪附近に於ける遊園第一の地である、●勝尾寺、東北三里、紅葉の勝地、大願寺、東北十五町、五月山に在り、●滿願寺、東北一里、附近多田川に瀨ヶ藪の

野あり、●多田神社、東北一里半、源満仲を祀り、山色水聲佳景の境である、附近平野園泉あり、●能勢妙見、東北四里、妙見山頂に在り、近畿地方屈指の流行である、●野風岩、東北五里●中山 ●中山寺、北七町、堂宇壯麗、●清酒寺、西北十八町、米谷に在り、宇多天皇の勅建、益信僧正の開基である、益信僧正の時三寶冠佛此に影向ありとて、後世最之を敬慕す、謂ゆる清光神である、附近梅林あり、●西明寺、北二十六町、●寶塚 ●有名なる園泉地、洛舎武庫川に臨み、蓮華を後に負うて景色がよい、●生瀬 ●地に温泉あり、有馬温泉へ行く道がある、其

間二里半餘、瀨川に沿うて嵯峨波瀾多く、四十八瀬と云ふ、
●武田尾 ●生瀬より武田を経て道場に至る間、鐵道武庫
川の溪谷を縫うて風光がよい、●武田尾瀧泉、西三町、●道場
●狩幸谷、半里、一葉川の溪流に沿うて奇岩がある、●三田
●三田博物館、西八町、人力車賃十錢、九鬼氏の經營に成る、
規模小なれども見るべきものが多い、●有馬温泉、南二里二十
八町、自動車の便がある、貸切片道五圓、乗合一人七十五錢、
別に東海道本線吉より六甲山を山瀧橋にて越ゆるのも興が多
い、湯山は六甲山の山麓、海拔千百尺、三面山に包まれ、大氣清
淨避暑に悉して居る、浴場の構造は宮殿に擬して居る、温泉寺、
温泉神社、落葉山、鼓ヶ淵、龍野寺址、善福寺がある、中に鼓
ヶ淵は懸泉三丈六尺幅一丈、磨石の布裏願の幽致あり、秋は夕
の霧の紅葉の勝あり、春は明るき晝の明媚の美あり、有馬温

武庫山の眠さますなわたり島

十六夜や有馬を出で、歸る人

墓 太

許 六

泉第一の勝地である。●善提寺、東北一里半、附近の角山は倒
扇状の奇峯で、有馬富士と云つて居る、●古市 ●高仙寺、
北一里、文保寺、龍野寺と並稱して丹波三山の名あり、●藤山
町は藤原一里、馬車賃十五錢、藤山城址、王地山公園、春日
神社、八上城址、佐々妻神社等がある、●文保寺、西二十五町
●龍野寺、東二十町、●佐々伯部神社、東三里半、●谷川
●石蔵寺、西半里、太平記に見ゆる足利義隆居る地、土俗、岩
屋と呼ぶ、●柏原 ●鬼の架橋、東南一里、●石生 ●高山
寺、西一里半、●圓通寺、北西二里半、●甲良の不動齋、北二
里半、山色泉聲幽峭の境なり、●市島 ●丹波富士、東十五
町、●神池寺、東二里、●丹波竹田 ●一宮神社、西二町
●善光寺、東北一里、●福知山 ●記事山陰本線に在り同線
参照。

中央線

中央線とは

- 一 中央本線 萬世橋、名古屋間、一五三哩八分、
- 二 篠ノ井線、鹽尻、篠ノ井間、四二哩一分、

の總稱で、其本線は東京市内萬世橋を起點とし、笹子の嶮を貫通して甲府に至り、鹽尻よりは北に篠ノ井線を岐ち、本線は西南を指して木曾路に入り、名古屋に至りて東海道本線に合するのである。列車の運行は萬世橋、中野間には電車を運轉し、汽車は東京市内飯田町、名古屋間に相互一回の直通列車あり。信越線との連絡を圖り、且つ長野方面との交通の爲に、篠ノ井支線を通じて、飯田町、長野間に相互一回、名古屋、長野間に相互三回の直通列車を運轉し、飯田町、名古屋間は約十七時間半、飯田町、長野間は約十四時間半、名古屋、長野間は約十一時間を要する。沿線の風光には諏訪の湖光があり、木曾路の風景がある、特に本線の通過する甲信地方には、富士火山脈を初め、飛驒山脈、木曾山脈、赤石山脈、いはゆる日本アルプスの高山峻嶺が連り聳えて居るから、車窓の眺望雄大崇高氣宇自ら宏くなるの感がある、東海道線の旅行に於て其

下流のみを見て居る、富士川や、天龍川や、信濃川や、木曾川などの源流に接するものも、亦興が多い。

笹子の隧道を出て、初鹿野に至ると、甲府平原の彼方に、日本南アルプス中の高峯白峯の北岳、間の岳、農鳥山より、南の方赤石山、悪澤岳を望むべく、甲府に近づくに従ひ、連峯の上富岳の秀容が仰がる。日野春より北高原を登りて、上諏訪に下る間は、大山岳の觀望臺とも云ふべく、右には八ヶ嶽の巍々として天を突くあり、左には甲州駒ヶ嶽の鬱然として聳ゆるある、白峰の北岳も遙に眺めらる、高原の最頂點は富士見て信越線追分臨時驛と共に、日本に於ける最高停車場であつて、富士觀望の勝地として世に知られて居る。青柳に至れば初めて日本北アルプスの一部を見るべく、茅野よりは、八ヶ嶽の北に蓼科の秀容を仰ぐことが出来る、諏訪湖畔を経て鹽尻に至れば、穂高岳が北方に聳えて、夫に續いて北アルプスの連山の戈を列ねて居るのが見える。木曾路に入りてからは左には日本中央アルプスたる木曾山脈の駒ヶ嶽等を見るべく、右には北アルプスの最高峯木曾の御嶽が見える、加ふるに棧道の址を初として寢覺の床、小野の瀧、賤母の風光より、木曾の釣越、釣橋等皆車窓より見るを得べく、この線の旅行足地を踏ますとも得る所多きを感じるのである。

中央本線 萬世橋——名古屋

●大久保 ● 〇 諏訪湖、東二町、●中野 ● 〇 堀内妙法寺、南十六町、人力車賃十五錢、日蓮宗の巨刹、十月の會式盛なり、
〇 新井薬師、北七町、俗に子育薬師と云ふ、●吉祥寺 ● 〇 井頭野天、南三町、井頭池中に在り、池畔密達紅葉の勝地として知られて居る。近時東京に於て井頭公園經營の計畫ありと云ふ。●境 ● 〇 小金井の櫻、西北十町、花は多摩川上水を挾んで二里餘に瀟々、小金井橋畔最眺望に富んで居る、歸途は國分寺驛に出るがよい、人力車賃より二十五錢、國分寺より十錢。●國分寺 ● 川越鐵道の分岐點、〇 小金井の櫻、北十五町、〇 國分寺址、西南十町、〇 國府址、南廿町、今の府中本町の内に在り、馬車賃十錢、府中は中古の武藏の首府であつたが、江戸が起つてから漸次衰へた、町に大國魂神社、高安寺、稱名寺、妙光院あり、分倍河原古戰場、向ヶ岡、小山田開敵等も町の近くに在る、〇 多摩川船漁場、南一里半、●立川 ● 青梅鐵道の分岐點、同線附近には舟島の大

日堂、青島山金剛寺、吉野の梅林、二俣尾の桃林、日原の乳乳洞、御嶽の御嶽神社等遊社を曳くべき所が多い、〇 普濟寺、南七町、多摩川の北岸に在り、既廢住、〇 谷保天満宮、南東十町、〇 多摩川船漁場、南十五町、●日野 ● 〇 高橋不動堂、東南廿町、〇 百草園、東南一里、人力車賃三十錢、一里の高丘古の松蓮寺跡である、武藏野の景一帯の間に見渡される、〇 多摩川船漁場、東十四町、●八王子 ● 横濱線の接續點、關東鐵物業の重鎮地にして衛生、足利と相拮抗し、一年の取引五六百萬圓以上に達して居る、〇 諏訪公園、北十町、〇 大善寺、西北十五町、〇 梅淵寺野野天、東南廿町、●淺川 ● 〇 高尾山、西方一里、山麓まで人力車賃十五錢、山上樂王院あり、堂宇宏壯である、西岡の見晴臺は四顧十二州に及び、芙蓉堂上に開き、相澤中に落つ、秋紅葉の勝あり、登山する人が多い、●與瀬 ● 〇 相模川舟遊、西南十町船瀬より乘船厚木に下る、舟路八里五時間を要す、船賃一圓十人乗十圓乃至十二

である。瀑の名あるものに不動瀑、鏡の瀑、夫婦瀑あり、岩の名あるものに駱駝岩、猿岩、富士石、五月雨岩、寒山拾得岩、登龍岩等あり。天鼓林あたり少しく溪流に離れ、歩々地下に鼓の聲が聞える。林を出つると嶺絶え、望開きて稍驚心を静められる。夫より行くこと數百歩、忽ち溪流脚下に奔りて、羅漢山の前、一峯突兀として聳えて居るのは、覺圓峯である。山は高さ數百尺四圍皆壁立して大石柱の如く、青楓怪松點綴の妙を極めて、所謂競を害せず、縫を埋めざるの趣がある。蓋し御嶽の勝此一奇巖を得て實に畫龍点睛を點じたのである。天狗岩、夢の松島を見て進めば、路傍に長田山右衛門の像碑がある。此人の力に由りて此勝景を見るを得るかと思へば、敬虔の念自ら湧くを禁じ得ない。更に巖足を辿れば巨巖倒に懸り、尖岩河中に突起して危く之を支へ、兩巖相抱擁して共に頽れむとするの下、洞門豁然として前路を開いて居る。之を石門と云つて居る。石將に落ちむとして落ちず、行人心のおのゝくを覺ゆる。門を過ぐれば水愈々急に、搏撃山を動かすが如き所、飛虹溪澗に跨る。これが昇仙橋である。橋上に立ちて眼を放てば右に覺圓峯あり、左に遮雨岩あり、路に石門あり、川に浮石あり、重宮岩あり、奇巖怪狀、雄姿壯觀殆ど名狀すべからず、風光の勝華まりて茲に在りと云つていゝのである。橋を渡れば忽ち水聲山谷を震動して一條の飛瀑が懸崖を撃破して直下して居る。これが仙娥瀑で宛然仙姫の素絹を濯ぐやうである。御嶽の勝凝つて覺圓峯となり、動いて仙娥瀑となつたものであらう。瀑を後にして第二の石門を過ぐれば猪狩村、兩山遠ざかりて桑園田園の間茅舎竹屋あり、風光一新畫圖の如く、布景の妙を盡して居る、行くこと十數町にして御嶽金櫻神社に達す、甲府より茲處まで四里である。石磴數百級、廟宇宏莊にして樹林の間に掩

映して居る。

富士川下りも亦甲府からするがよい。笛吹、釜無會流の下諏澤と云ふ村がある、即ち舟筏の繫泊地で、甲府より四里、鐵道馬車の便がある、賃金三十錢、これより岩淵まで流程十八里、八時間で下られるのである、途中波木井から上陸すれば一里にして身延山久遠寺に詣づることが出来る、歟澤波木井間船賃三十錢。寺は日蓮上人納骨の廟寺で、堂塔伽藍の結構は言はずもがな、千巖秀を競ひ、萬壑奇を恣にし、法鼓山に應へ、讀經水に響き、目に觸るゝもの、耳に聞くもの、皆一切成佛安樂國の觀がある。奥ノ院は身延山の絶頂にあつて、本堂から一里半、駿遠豆腐總の山々、歴々として眼界に連り、眺望殊に爽快である。

● 新府城址、北一里、七里岩上に在り、武田勝頼の築きし所、城壁の跡尚依然、○ 龍觀音、西一町、○ 白峰山、山麓安村まで四里、其處にて道者を雇ひ登山の準備を爲すがよい、山は海拔一萬二百二十尺、北嶽、間の嶽、南嶽を三大主宰として衆多の支峯がある、頂上の眺望は北は信濃境上の櫻峯列嶽より、正北に駒ヶ嶽、東北に鳳凰山、其東南に地蔵岳、東北に千ヶ嶽等奇巖秀拔殆ど日本無双の大觀を展開する、○ ラヂウム温泉、北六里半増富村に在り、内屬車三里賃金二十

五錢、● 小淵澤、○ 白須松原、東南一里、○ 駒ヶ嶽、南山麓まで三里、海拔九千九百尺、頂上駒ヶ嶽神社あり、眺望壯觀無比、○ 八ヶ嶽、北山麓まで二里、海拔九千六百尺、峯巒岩窟として八素に岐れ、宏潤な翠野を展べて居る、● 富士見、地は海拔三千二百尺、盛暑尙衣の薄きを感じる、原頭日本の高山大嶽を見るべし、○ 富士見丘、西十五町、明治天皇陛下駐蹕富士觀望ありし所、● 上諏訪、辰野町。

諏訪湖及天龍川

諏訪湖は諏訪盆地の中央に在り、周圍五里に近く、海拔二千六百四十尺の高地にあり、山村水廓湖を匝りて畫のやうな風光をなして居る、富士見分水嶺八ヶ嶽の巒野、鷲ヶ峯、鉢伏山など

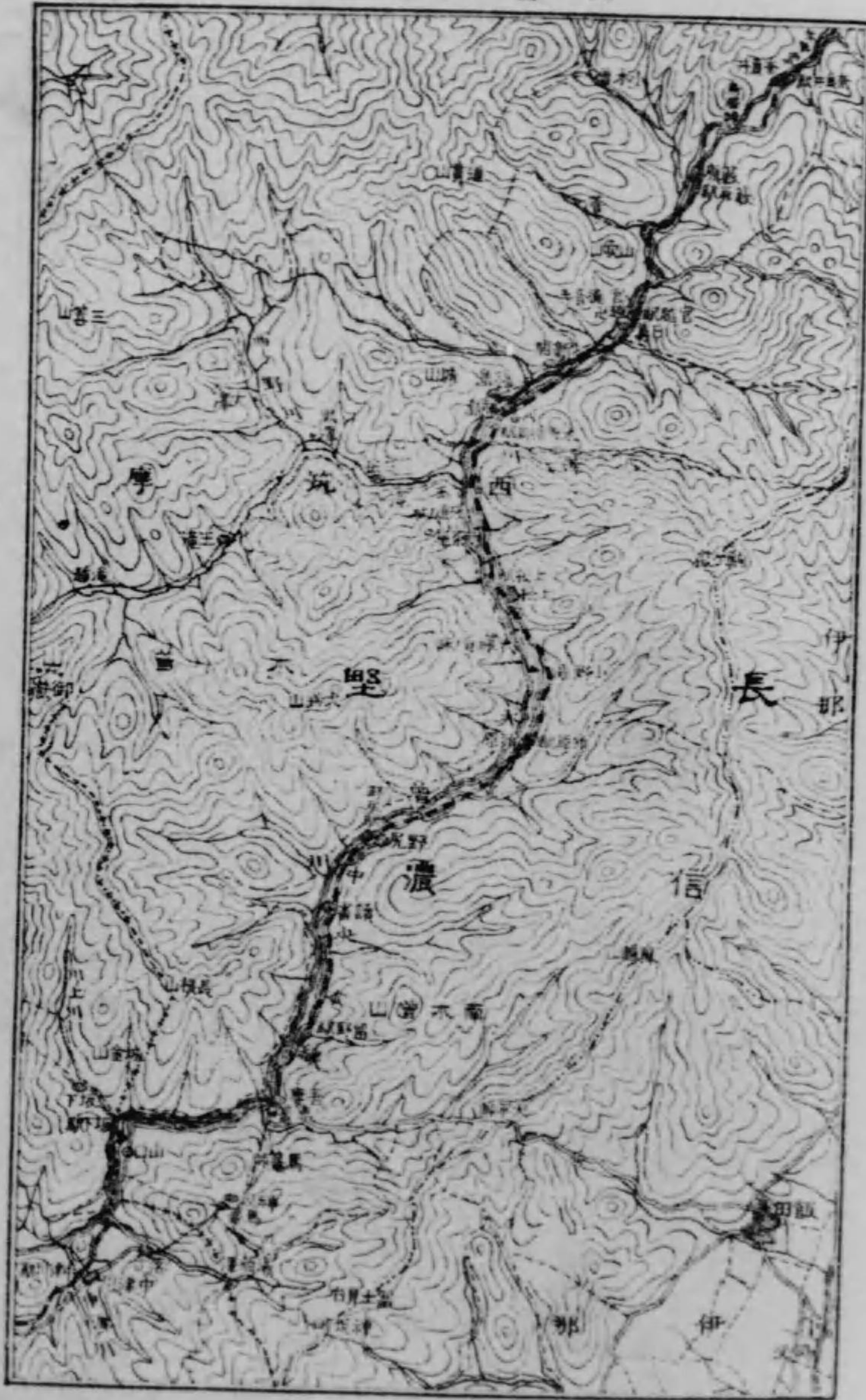
より出づる溪流、皆此湖に注ぎ、溢れて西方山嶽の間を破り、並に東海の大河天龍川の源をなすのである。四周の峯巒倒に水面に映じ、雲表遙に富士の晴雪が見える、すはの海衣が崎に来て、見れば富士の上こくあまの釣舟。」と云ふのがこれである。湖は冬期氷結して、厚さ一尺より二尺に及び、人馬其上を往來するこゝとが出来、近年好箇の氷滑場として世に知られ、遙に此に至りて遊戯をなすものが多い、湖畔には温泉がある、上諏訪、下諏訪の旅館、料理店皆浴室を設けて居る。諏訪神社は信濃無雙の名神で上下兩社あり、共に官幣中社に列して居る、上社は上諏訪の南一里半人力車賃三十錢、社殿最壯麗である、下社は下諏訪に在り、春宮秋宮に分れて居る、結構稍劣れど老杉森然湖上に臨んで、高深瀟灑神威の嚴かなるを覺ゆるのである。

上下諏訪及岡谷は生糸業の最盛大なる地で、特に岡谷は日本第一と云はれて居る、湖水はこの岡谷から決潰して南方に流れて天龍川となるのである。

天龍峽谷の勝は夙に世に知られて居たが、往年茶々淵で通船の顛覆したことがあつてから舟路の交通殆ど絶えてしまつたが、一昨年英國の貴族コンノート殿下が川下りをして此風光を觀賞せられてから、一層其勝にあこがるゝ人が多くなつた、此舟遊を爲さむとする人は辰野に下車し、飯田に行くがよい、其間十六里辰野宮田間は電車、宮田飯田間は自動車の便がある、電車賃金四十五錢、自動車賃金一圓九十錢、飯田は天龍川畔第一の市街で維新前は堀氏の城邑であつた、城址は今拓いて公園としてある。

飯田から二里時又と云ふ村が、天龍川下りの乗船處である、人力車賃五十錢、これより下流鹿島に至る

圖地路曾木



間二十五里、約十二時間を要し舟賃一艘五拾圓である、鹿島よりは濱松に至る輕便鐵道がある、賃金二十七錢。

名に高き天龍峽の勝は時又の下流一里、断崖折裂斧劈の如く、平遠の水此に至りて頓に巉岩の翠むる所となり、奮騰潦湍銳鋒の向ふ處石皆辟易するの趣がある、橋あり半空に架る、これが姑射橋と云ふので風光秀拔繪のやうである、川は多少の軒餘屈折はあれど正南に向つて走り、幅六十米突乃至百米突に及ばず、兩岸絶壁削立して激流矢の如く、水聲滔々として耳を聳し、白沫飛散して衣袂を濡し、豪宕の趣と凄壯の觀とを兼ねて居る、激瀨を瀧と居ひ名のあるもの數十、中に小あぜ、傘、茶々瀧、大島、水神、高瀨山室の瀧等最危険だとせられて居る、舟の難所に懸らうとすると、軸に立て居る船頭が櫂を以て舷を叩いて舟中の客を警戒する、其音丁々として兩岸の絶壁に響き、神秘的の音を爲すのである。この川下りをするには兩岸に山櫻の咲き誇る春か、又は紅葉舟を焚かむとする秋がよい、春秋は天候も適順で水量亦平調であるから、危険なことが尠ないのである。

●小野の 小野神社、七町、諏訪二ノ宮と稱す、●鹽尻 鹽尻ノ井支線の分岐點、其の東端を鹽尻峠といひ、諏訪湖觀望の勝地である。●洗馬、坂下間

本曾路

洗馬より馬籠に至る間は、即ち本曾路で山水の勝地として世に知られて居る、今鐵道は多く本曾路に沿ひ、妻籠から本曾路に岐れて坂下に行つて居る。諏訪湖を後にし鹽尻峠の南方を迂廻して本曾路に入り、奈良井川の風光を愛でつゝ奈良井に至れば、鳥居峠が前途を遮ぎつて居るのを見るで

あらう。峠は木曾路の最高頂で、海拔四千二百五十四尺、太平洋と日本海との分水嶺をなし、水流北する者は信濃川の一源奈良井川、南するものは即木曾川である。今鐵道は此峠を貫通して巖原に行つて居る。これより南は地勢嵯峨、山峯重疊して一の平地を餘さず、森林蒼鬱、到る所良材に富み、木曾五木(檜、榎、榎、樺、明檜)の名風に世に著はれて居る。頭をあぐれば、信州第一の高山海抜一萬五百尺といふ御嶽山は西天に聳え、三十六峯八千餘の駒ヶ嶽は東空に峙ち、兩嶽の餘脈左右に延きて、木曾の一大豁谷を成して居る。出づる嶺入る山の端のちかければ木曾路は月の影ぞみじかき、此歌實に其真を得て居るのである。木曾川はこの大豁谷を貫流する巨流で、兩岸翠迫、迂餘曲折、激湍巖を噴み、急流溪を穿ち、風光雄大にして遠く俗塵を絶ち、前景送り後景迎へ、車窓人をして殆んど塵接の遠なからしむるのである。宮ノ越は木曾義仲の兵を擧げた處で、その山口城址は驛より四町を隔て、居る、驛の對岸には木曾氏の菩提所徳音寺がある。福島は木曾路第一の繁華の地で、木曾川の兩岸に跨り、東西兩京の中央に當り、往時は關所を設けて行旅を檢した、驛の東十二町、木曾義仲の墓がある。木曾路旅行者の多數が參詣する御嶽山にも、またこの地より登るのである。

御嶽は信飛境上に雙ゆる所謂日本北アルプスの最高峯で海拔一萬五百一十一尺、福島より山頂まで九里である。名古屋方面よりは上松驛に下りてもよい。登路は二、一を黒澤口一を王滝口と云ひ、王滝口から登るものが多い。福島から王滝まで五里、途中澤戸峠に至れば、摺鉢を伏せたやうな富士式の山容を正面に仰ぐ、崩越より路は二つに岐れ王滝村に至りて又合ふ、右して支道を辿れば鞍坂橋があつて、奇峭なる巖

に跨りて奔水瀧靛藍色を過けるを見る、木曾山中第一の奇橋で風光清絶である。王滝は谷に峙ちて軒を列れ、登山者の爲に宿泊を營むものもある、これより登路十合、二合目に清瀧を望み、五合目に三笠山を見る、海拔已に七千三百尺、樹木鬱蒼として居る、夫から田の原と云ふ窪地に降る、原は濕地で一望荒蕪漸く高山に入つた感じがする、原より山勢頓に急峻、十合目に黒澤口の登山道と合ふ。絶頂はそれから半里劍ヶ峯といひ、所謂奥ノ院で、天風常に怒吼し、盛夏綿衣を重れて尙寒さを覺ゆるのである。

「かけはしや命をからむ鳥がづらはせを」。木曾路は概ね川の東岸に沿うて、棧道が甚だ多い、名にし負ふ棧は、木曾福島の南一里、人力車賃三十六錢、今は川に沿うて新道を開いてある、かけはしの茶屋の邊り、兩岸翠く迫りて懸崖高く聳え、碧流大岩に遮へられて、清冽能く數丈の底を透見せらるゝのである。いはゆる木曾路の八景といふのは、徳音寺晚鐘、駒ヶ嶽夕照、御嶽暮雪、棧道朝霞、寢覺夜雨、風越晴嵐、小野瀑布、與川秋月で、中に寢覺の床の勝最聞えて居る。臨川寺畔兩頭の翠壁雙々出て、九曲の寒水杳々として來りて蒼潭となり、藍靑寂焉須臾にして岩と相撃ち、千渦萬瀾濤々として相逐うて流れて居る潭邊には奇石怪巖重疊起伏して、奇勝筆の及ばざるを恨むのである、上松驛の南十二町、人力車賃十五錢車窓よりも其全景を見ることが出来る。駒ヶ嶽は上松の東四里、六時間で絶頂に登らるゝ、山は所謂日本中央アルプスたる木曾山脈中の名山で海拔九千五百尺、展望甚だ雄大である。風越山は東南一里半今公園となつて居る、小野の瀧は南二十町、人力車賃二十五錢、汽車は瀧の上を過ぎて須原に行く、須原の花漬は蕨原とお六柿と共に、木曾の名産である、三留野よりは車窓駭母新道の風光を受てつゝ汽車はやがて坂下に

著くのである。

●坂下 ● 賤母の紅葉、東北一里、木曾川の岸一里に亘れる一帯の楓樹、秋錦繡を織りて碧水も赤燃ゆる赤景をなすのである。 ● 中津川 ● 木曾山中に入るの關門、● 惠那嶽、東南頂上まで五里、麓まで人力車賃五十錢、美濃第一の高山で海拔七千四百尺、近江の淡路、伊勢の海を下瞰し得、 ● 土岐津 ● 龍ヶ洞觀音、東南一里、● 多治見 ● 美濃桃の産出地、産額は瀬戸よりも多い、當驛より高懸寺に至る間、汽車は玉野川に沿うて走り、風光が佳い、● 多治見國長の城址、東南七町、● 虎溪山永保寺、東北十二町、人力車賃十六錢、土岐川の急瀧、

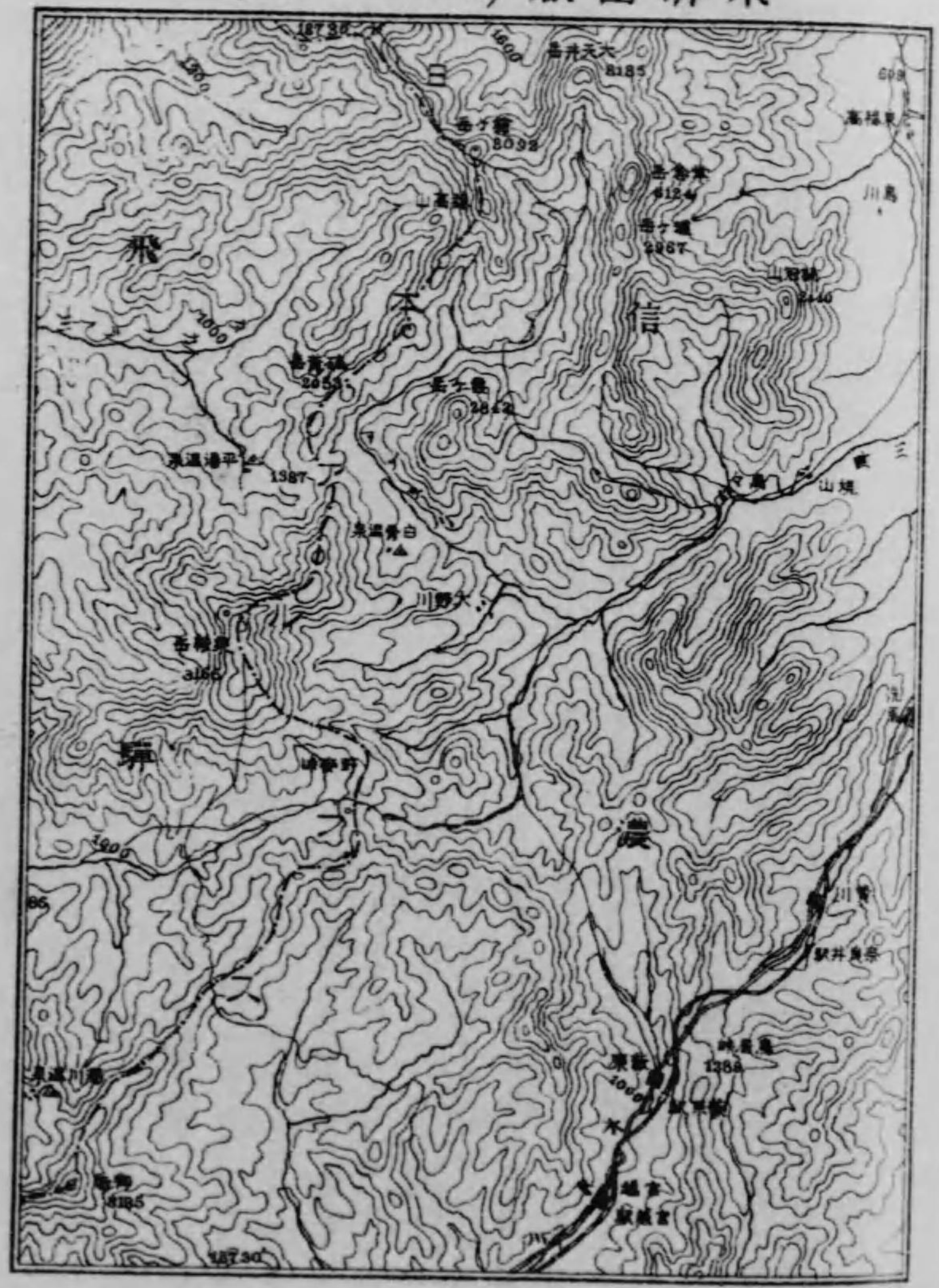
篠ノ井線 鹽尻―篠ノ井

● 村井 ● 桔梗ヶ原古戰場、南十町、 ● 松本 ● 松本平に在り犀川に臨む、もと松本氏の城市で人口三萬五千人を有して居る、養蠶業盛に興、蠶紙の取引が多い、竹細工の美芝行李は、米國に輸出して評判がよい、 ● 沓摩神社、東南二十町、 ● 松本城址、東北十町、城山公園、北十五町、 ● 湯田温泉、東

奇巖怪石の間を屈折して走る處、欄間巖に倚り流に沈んで、眺望がよい、全溪方一里、山あり、水あり、皆永保寺の園地をなして居る、 ● 高懸寺 ● 定光寺、東一里、人力車賃三十錢、堂宇壯麗、尾州藩祖の菩提所である、 ● 高懸寺、東北二町、 ● 玉野川、東五町、河中奇巖多し、 ● 勝川 ● 小牧山、北西二里半、 ● 龍泉寺、東一里、眺望佳、 ● 大曾根 ● 陶器の産地、瀬戸町へ四里、電車賃二十八錢、 ● 千種 ● 名古屋市の東端である、 ● 八事山、東南一里、馬車賃八錢、興正寺あり、尾張高野山と云つて居る、風光秀麗、晚春爛漫滿山を獻ふ。

北一里、馬車賃二十錢、 ● 山邊温泉、東一里、人力車賃三十錢、 ● 乗鞍嶽、松本より西九里、大野川村より登るがよい、途中若瀨寺、種食齋等の勝がある、又大野川より二里半を隔つる白骨温泉又は高山街道の野麥よりも登山路がある、山は海拔一萬四百四十八尺、飛騨山岳中絶大の山で、絶頂の眺望壯麗

(スプリア本日) 脈山驛飛



(リカ編原二二四)

線 井 ノ 録

空大、本自御嶽に連らない、乗鞍より北、信濃境上には所謂日本アルプス山系の大嶽高嶺が列を列ねて聳立して居る、大野川より乗鞍に上りて白骨温泉に出で、夫れより北行して阿房峠(海拔六千四百三十五尺)硫黄嶽(海拔六千七百七十五尺)硫黄嶽(海拔九千九百一十一尺)鏡ヶ嶽(海拔一萬四千四百二十九尺)笠ヶ嶽(海拔九千九百一十一尺)を踏渉し、進みて信越境上の獅子ヶ嶽、五六嶽(海拔九千九百一十一尺)針木嶽(海拔八千二百二十七尺)を經、西折して越中に入り、立山の群嶽を踏渉して富山市に出づることが出来る、この遊或は一ヶ月の時日を要し、遊客、食糧等充分の用意がなくてはならぬ、●田澤●の田澤城址、東北十五町、●常念嶽、西三里烏川村より登る、海拔一萬五百尺、鏡ヶ嶽の正東に聳え、美麗なるピラミット形を爲して居る、●明科●の有明山、西四里半に在る中房温泉より登るがよい、途中戸波隆嶽の勝がある、山は海拔八千七十五尺、信濃富士と云つて居る、山頂有明神社あり、夏季参拜者が多い、●西條●の田澤温泉、東三里、●富嶽山觀音、西二十町、奇景多し、●山清路、西北三里、犀川の上流、山水の奇多し、●姥捨●

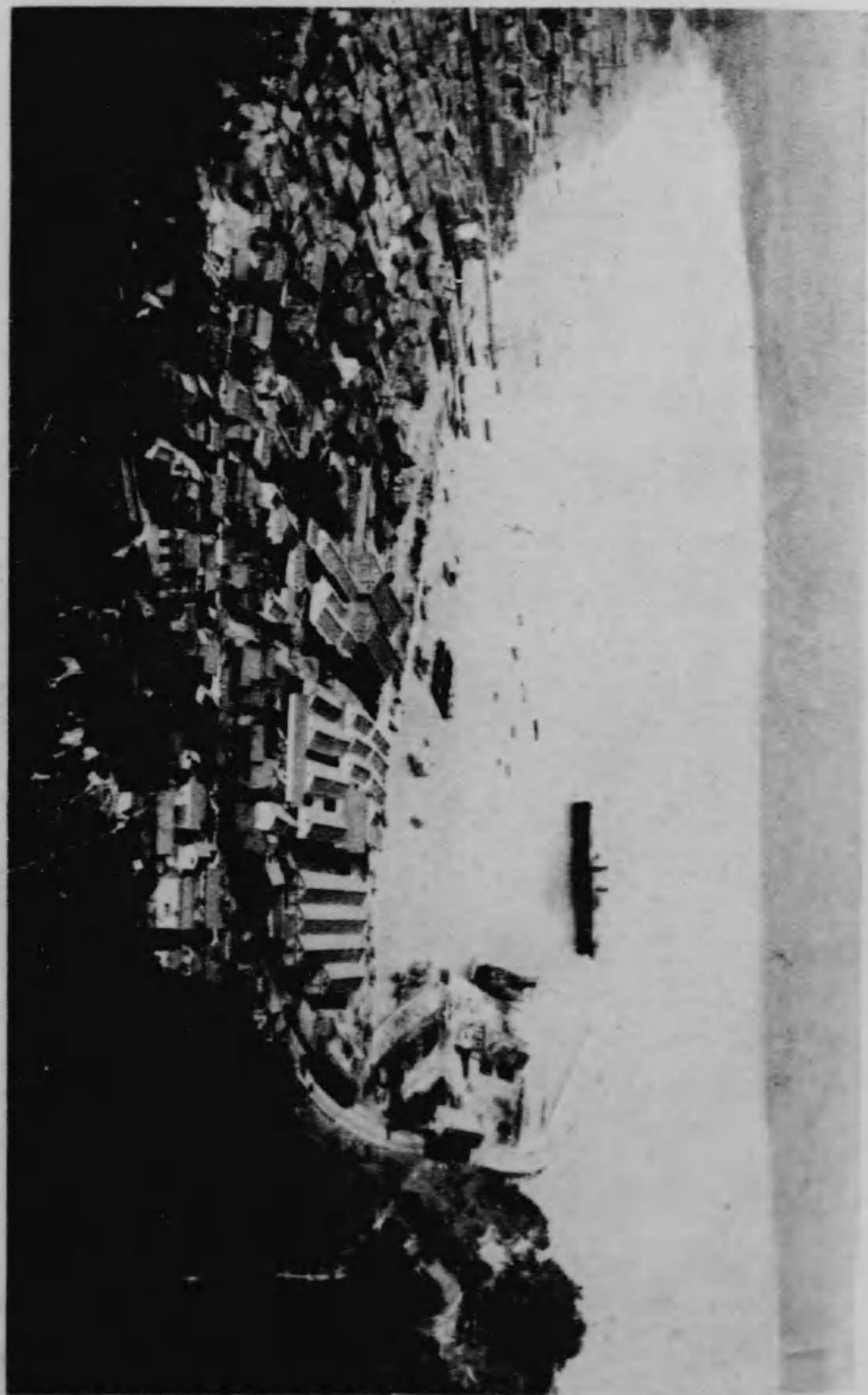
嶽は姥捨山に在り、巖洞の眺望甚佳、屋代を甲にして、左右に櫻村の人家散在し、千曲川より川中島あたり長野まで、善光寺平、一面の地眼下に見渡される。前面には一重山を築にして、鏡ヶ嶽山が美しく聳え、冠ヶ嶽山は南に峙つて居る、山は古より名高き日本第一の觀月の勝處で、巖下に長樂寺がある、庫裡の一家を月見堂と云ひ、欄を設けて月見に便してある、堂に上りて遠望すれば、千曲の清流を隔て、鏡ヶ嶽山を仰ぎ、仲秋空清き夜、一團の名月が其嶽より登ると、其影が水田に映じて田毎現月を現するのである。●冠ヶ嶽山、二十町、海拔三二三四尺、山頂の眺望甚佳、南東の方には●科山、富士山、西の方には●駒ヶ嶽、有明山、北は●戸隠、飯綱、妙高の諸山を望み、上田、長野の市街を脚下に見る、中秋の夜この山頂に立てば、東方四阿山と淺間山の間鏡ヶ嶽に似たる處あり、明月美しく其處より登るのが見える、此山が眞に古の姥捨山だと云ふ。●稻荷山●の久米原嶽、西二里、犀川に架す、風光佳、人力車賃八十錢、●鏡ヶ井● 信越本線參照、

北 陸 線

北陸線とは

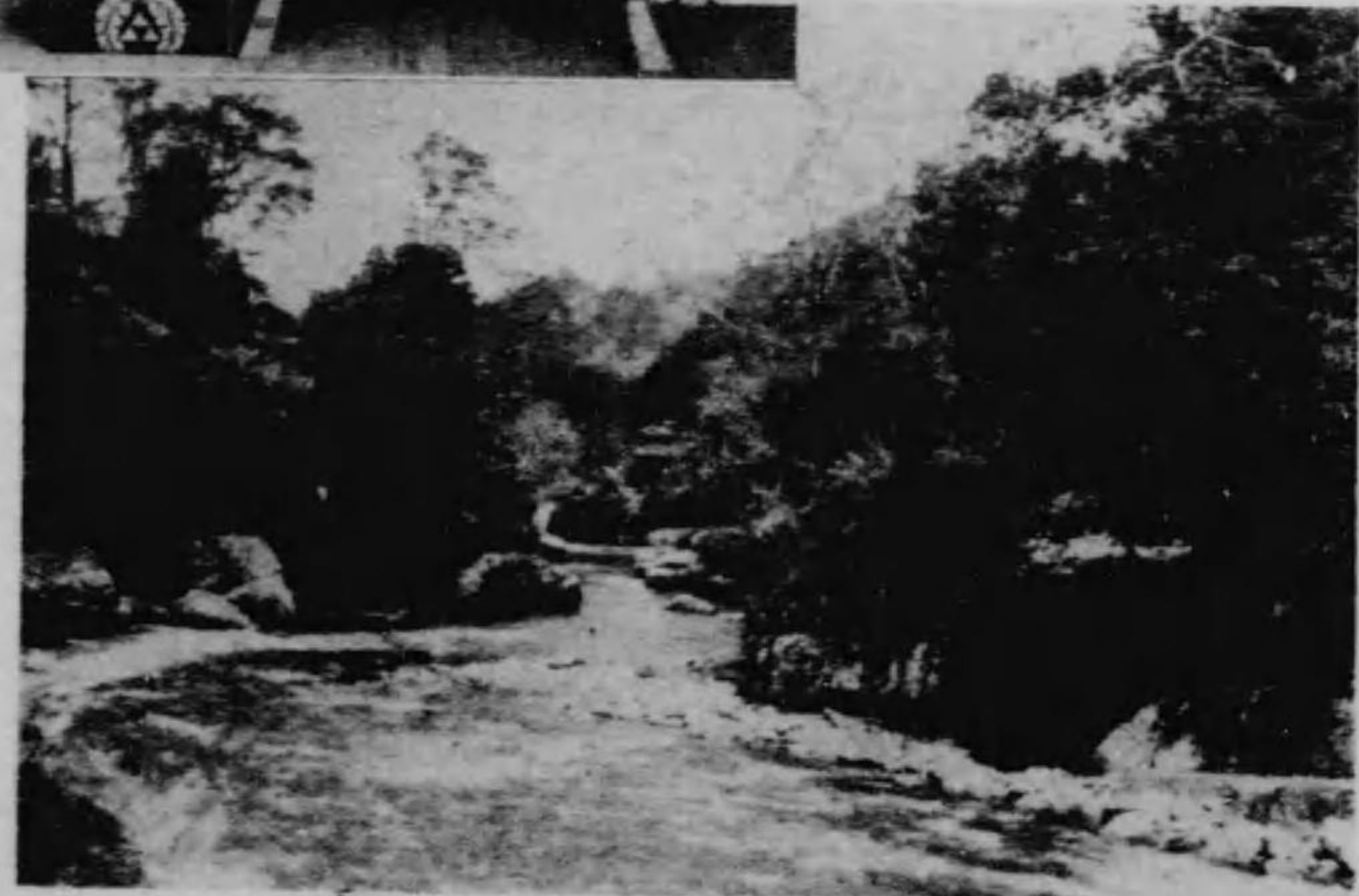
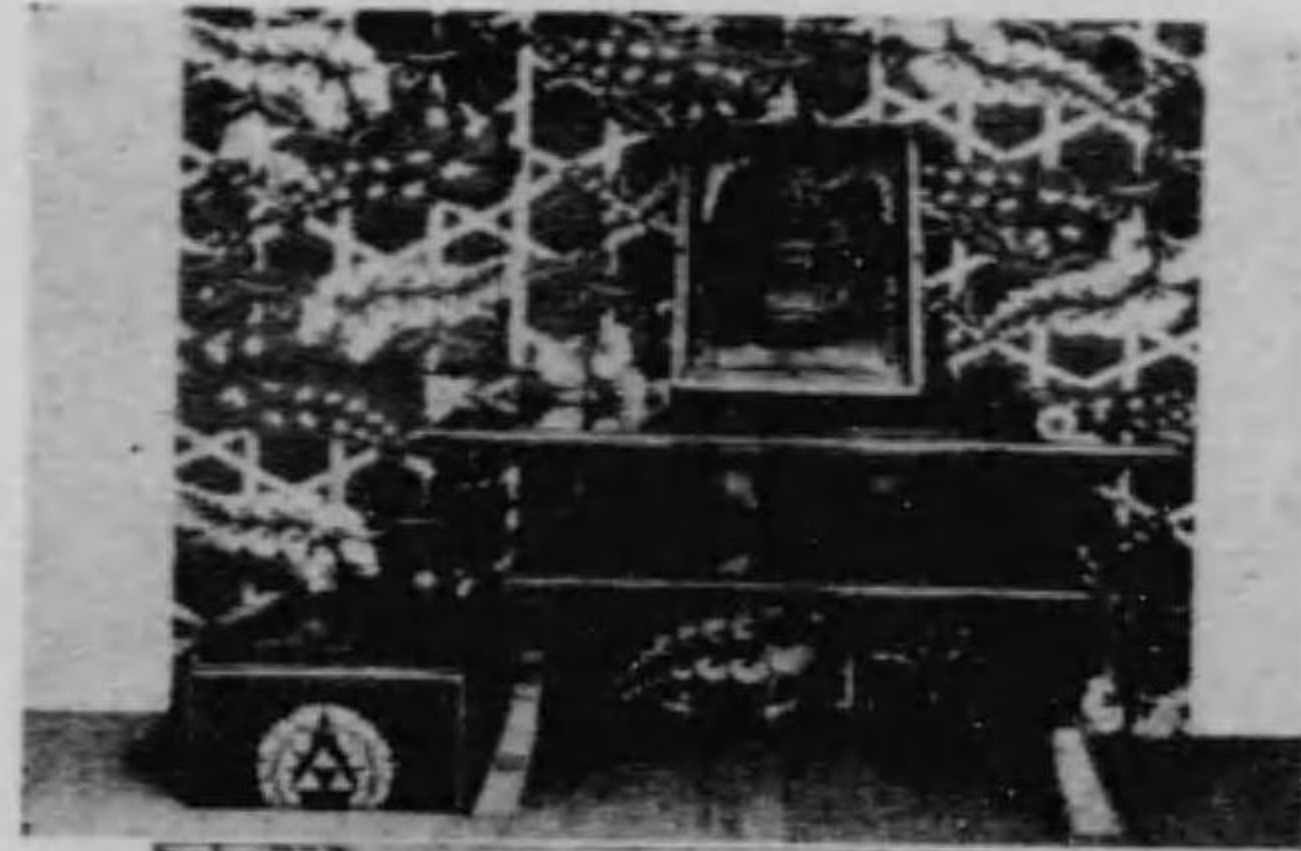
- 一 北陸本線 米原、直江津間二二八哩三分、及貨物支線、
- 二 三國線 金津、三國間五哩四分、
- 三 七尾線 津幡、矢田新間三四哩四分、

の總稱で、其本線は米原より琵琶湖岸に沿うて北して北陸に入り、露領沿海州との交通戸たる敦賀に至りて右し、福井、金津、富山を経て直江津に至りて信越線に接続するのである。其間金津より分岐する三國線があり、津幡より分岐して能登半島を縦断する七尾線がある。列車の運行は本線内の外東京新橋及京都より直江津に至るもの各一回、神戸より富山に至るもの一回、姫路より此線を経て新潟に至るもの一回、東京上野より高崎線信越線を経て富山、福井に至る各一回あり、新橋より米原を経て直江津に至る約二十八時間、京都直江津間約十六時間半、神戸富山間約十五時間半、姫路新潟間約二十六時間、上野富山間約十五時間半、上野福井間約二十時間を要する、露領浦鹽斯徳との交通連絡の爲には別に一週三回東京新橋より敦賀金崎の臨港



敦 賀 港 全 景

吉崎願慶寺藏肉付の面

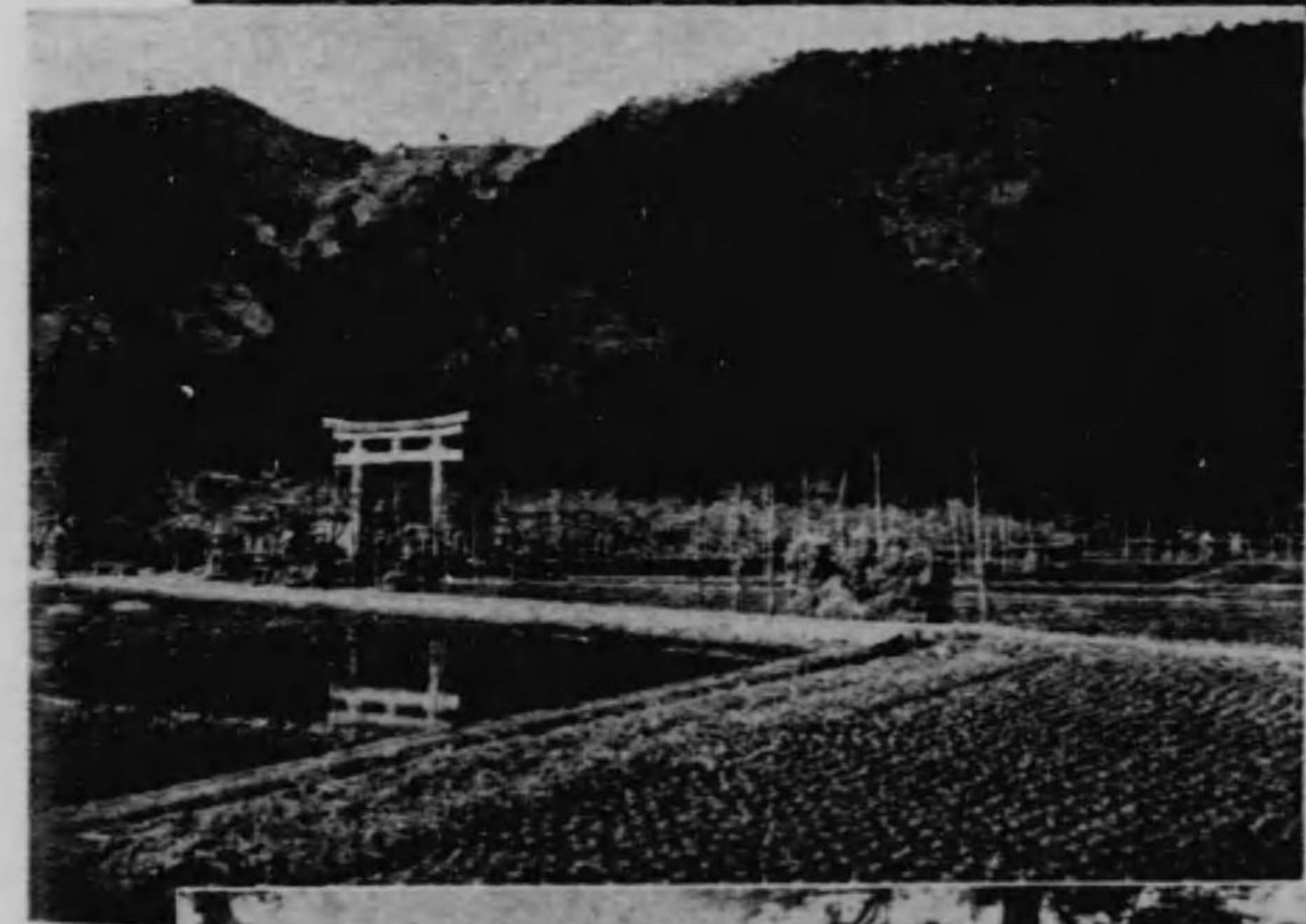


山中温泉黒谷橋の上流

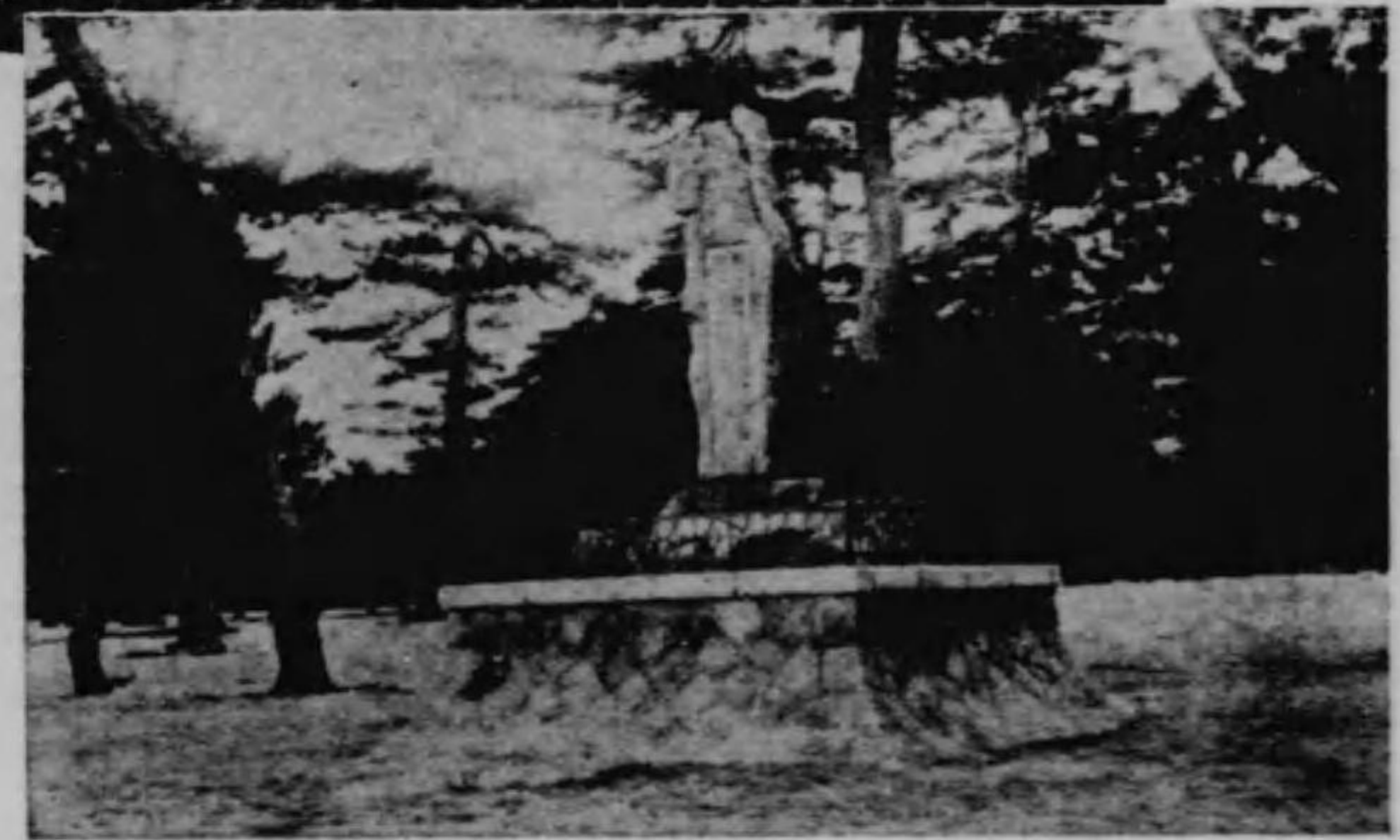


山代温泉全景

竹生島

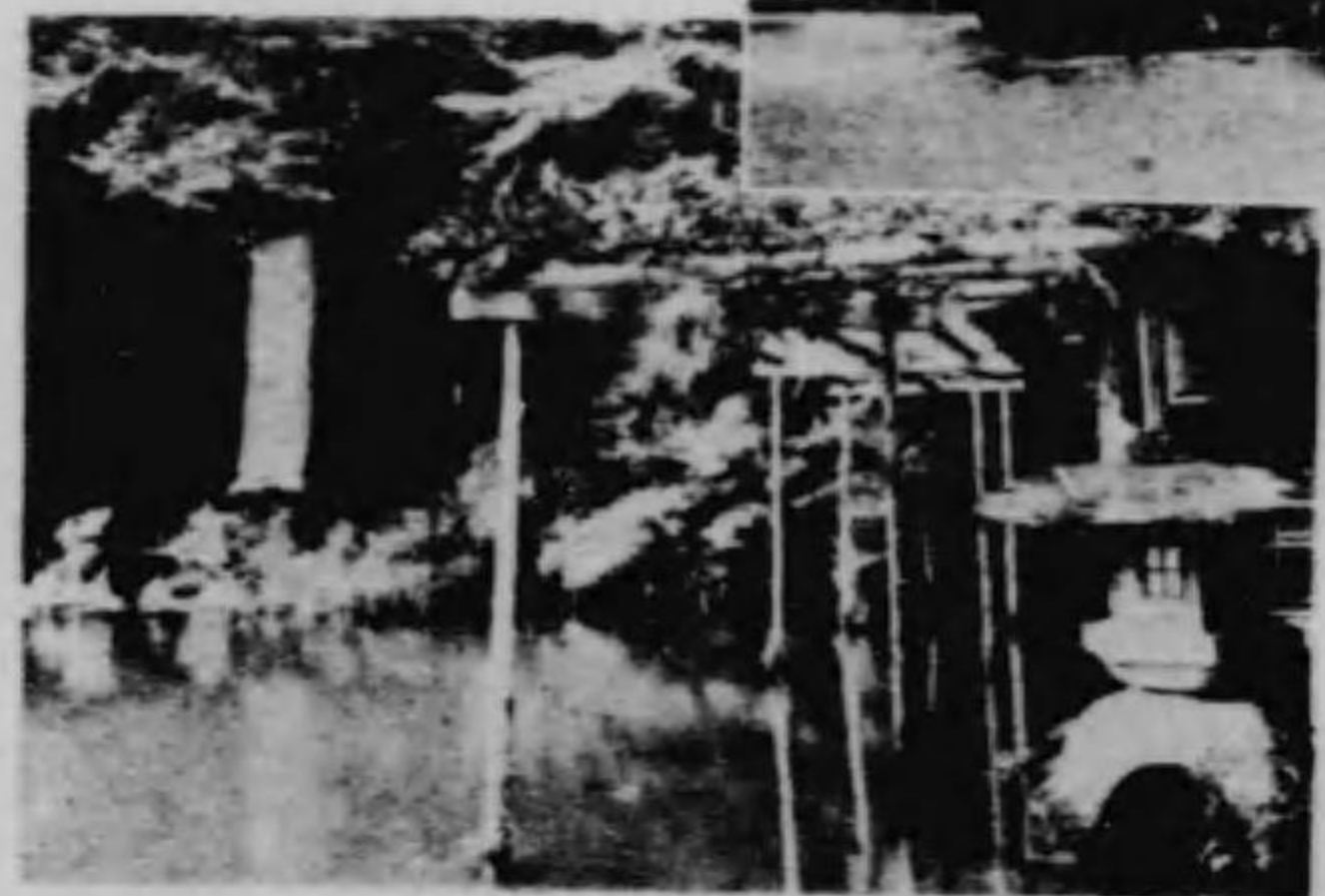


伊香久伊籠嶽



氣比の松原

兼六園福壽山

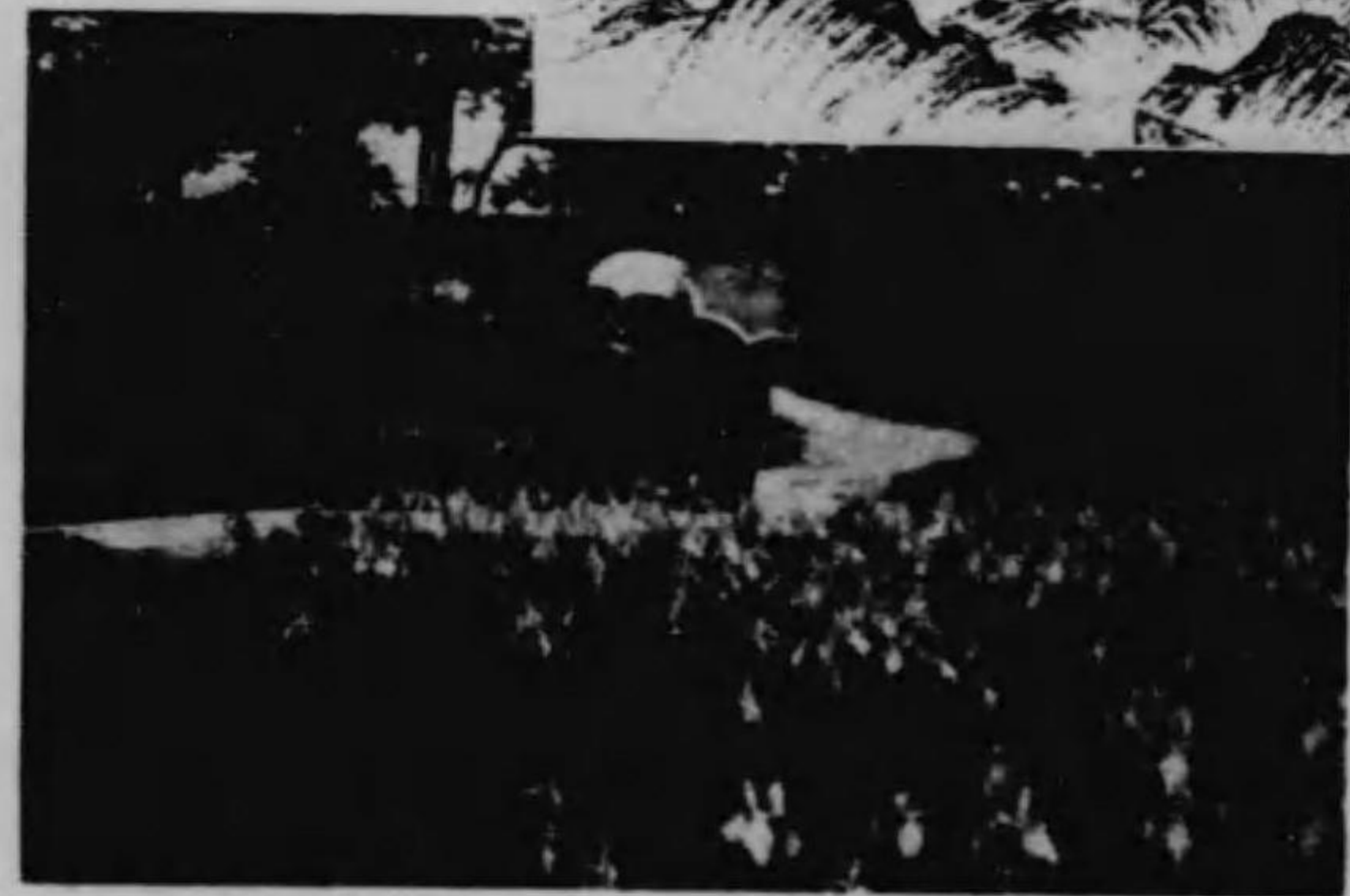


同瓢亭と翠ヶ瀧



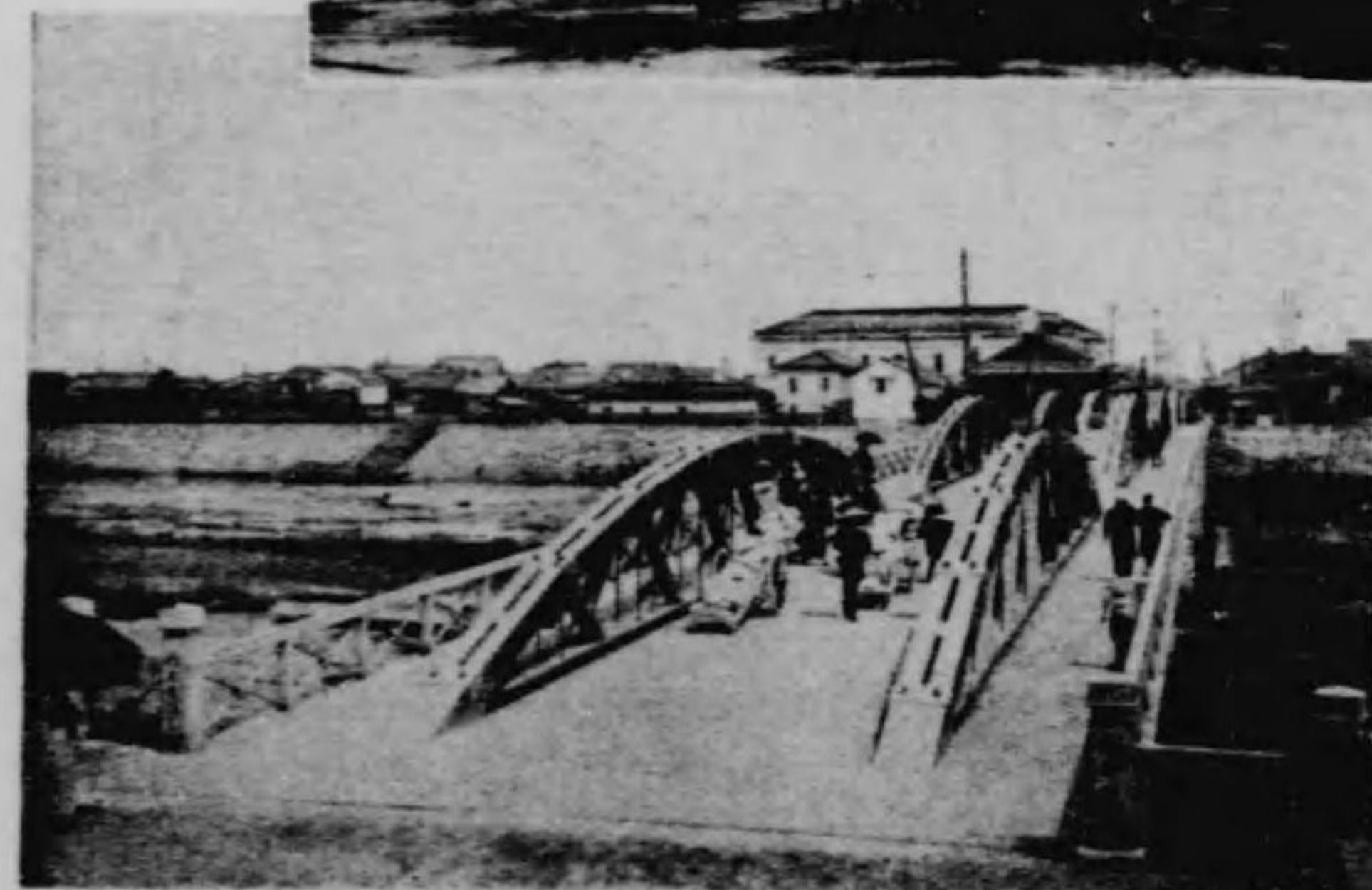
白山
加賀
文晁筆

加賀白山
文晁筆



高岡公園

毫攝寺山門



福井九十九橋



永平寺勅使門

勝の坊幕東



業作の部装包堂貫廣



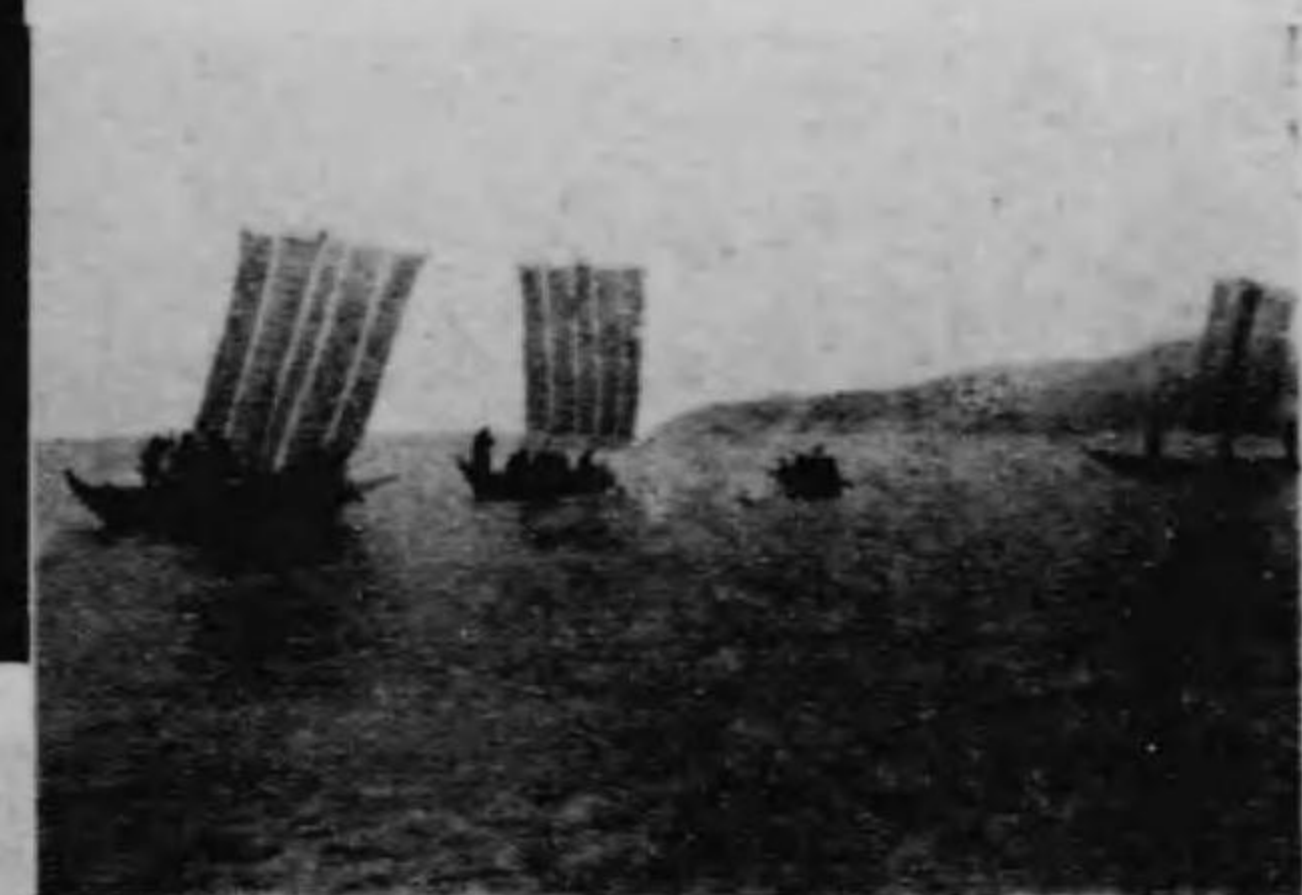
堂室山立



穴洞知不親



鼻立名



む望を山姫黒りよ川姫

停車場まで寢臺の直通運轉あり、新橋より敦賀金ヶ崎まで約十三時間四十分、神戸敦賀間約七時間にて達するのである。

米原を後にすれば汽車は直に琵琶湖の水光に接し、右窓には伊吹山の聳えて居るのが見える、七本鎗を以て名高い賤ヶ嶽や、余吾湖を左にして進み、柳ヶ瀬隧道を過ぐれば、地は既に北陸で、やがて敦賀の瓦葺に接するのである。

敦賀からは鐵路は北に向うて木ノ芽峠の山脈に數箇の隧道を穿て居る。隧道の絶え間には風光畫くが如き敦賀灣が見渡され、榮螺ヶ岳半島は近く呼ば、應に答へむとし、頓に眼界の清新なるを覺ゆる、山間の一驛を杉津と云ひ、絶壁の半腹に在りて眺望甚佳、本線中稀に見るの好風景である。元比田の隧道を過ぐれば鐵路は東に迂回し、今庄に至りて平野に入り、武生を経て福井を指すのである。福井よりは九頭龍川を渡りて尙平野を走り、細呂木より國境に連る山路を上りて加賀の大聖寺に下り、小松驛より再び海岸に近づき、青松白沙の間蒼海を望み、小舞子、美川の邊り展望殊に秀麗である。

金澤を後にすれば河北潟の風光がある、津幡は七尾線の岐る、所で、本線は木曾義仲の奇捷を以て名高い俱利伽羅峠を越えて越中に入るのである。福岡を過ぐれば平野は漸く開けて高岡市に至り、やがて富山に達する、高岡富山の間、檜、榎等の雜木林が田野の間に散在し、渺茫

氣 多 神 社



七 尾 港



和 倉 温 泉

たる廣野の眺望を碍けて居る所がある、これは富山平野の特色であつて、前田氏が幕府に對する政略上造林したものだと言へて居る。

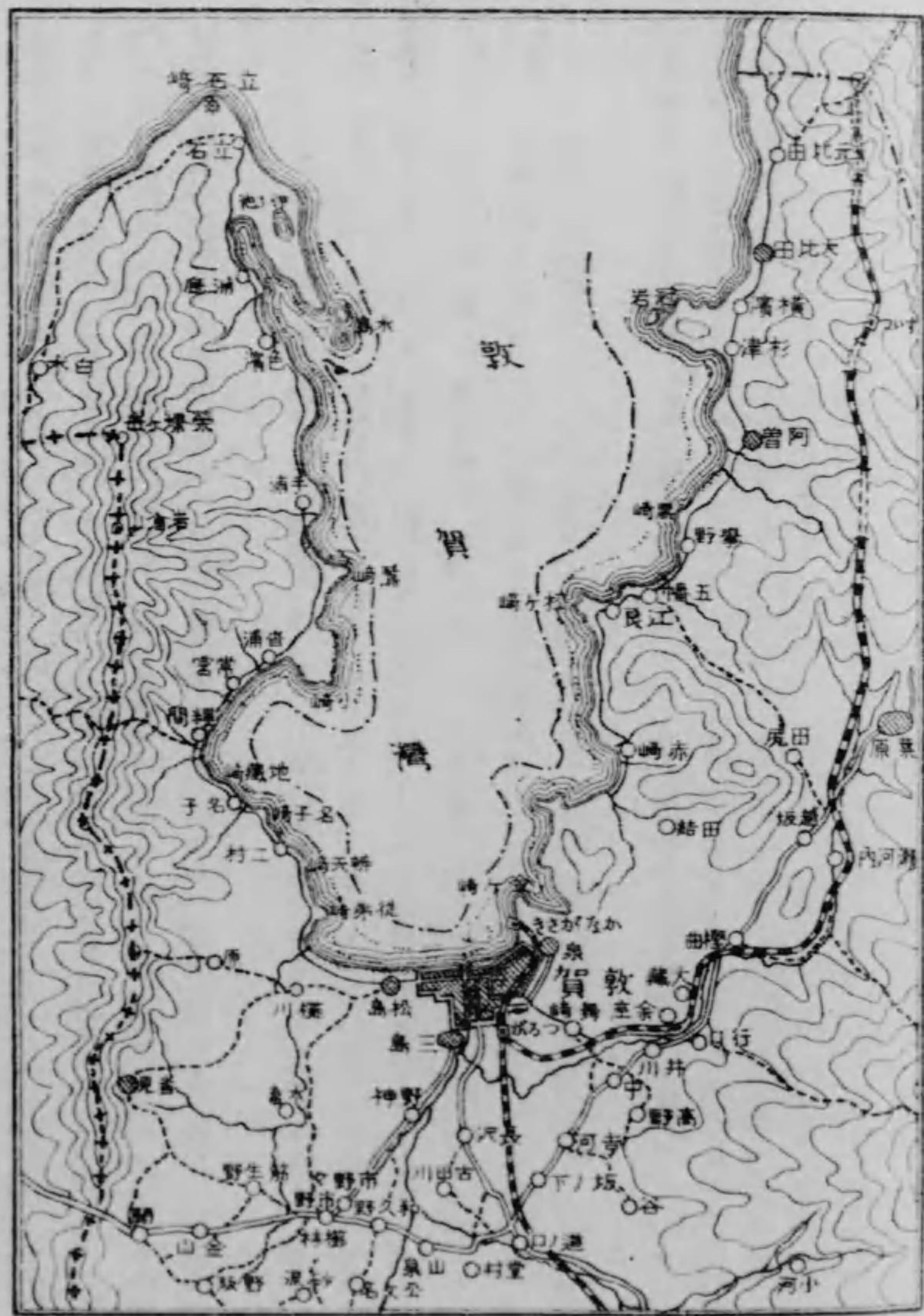
富山以東の地は高山峻嶺其南東に蜿蜒し、汽車は多く海岸に近く走つて居る、泊より境川を渡れば越後の國で、所謂日本アルプスの稱ある飛驒山脈の一脈が日本海中に突出し、百尋の峻崖峭壁と爲り、纔に崖下の汀際に一路を通じて居る、これが有名な親不知子の險で、今鐵道はこの絶壁を開鑿して敷設し、市振より親不知を経て青海に至る間七大隧道を穿つて居る。車窓の眺望は頗る雄大で怒濤眼下に咆哮し、佐渡ヶ島遙に能登半島と相對して、一對の青螺を水天髣髴の間に漂はせて居る、姫川を渡れば糸魚川、姫川の橋上よりは左は直に日本海の海光あり、右は飛驒山脈の重疊せるを見るべく、展望甚佳である。能生驛附近海中には數個の巨巖が横はり、松樹海風に壓せられて姿體奇怪愛すべき風光をなして居る。かくて汽車は名立川を渡りて鳥首崎を横斷し、郷津隧道を出で、右に春日山城址を仰ぎつゝ、直江津に著くのである。

北陸本線 米原—直江津

●長瀬 ●湖東第一の繁華地、瀧瀬橋の産地で其産額の六分は京都に輸出して衣服地、友禪染等となり、四分は大坂、神戸、

名古屋及び東京等の各地に産出す、●長瀬城址、西四町、
○妙川古戦場、東北二里、人力車賃四十錢、藤田信長、淺井長政の

敦賀畧圖



創設した所、竹生島、北西七里、汽船賃二十二錢、湖上の名島、斷崖削立、老樹叢蒼として嵐光佳、辨財天祠がある、虎姫、虎御前山、東北十五町、琵琶湖の眺望佳、玉泉寺、東十五町、元三大師の誕生地で大師の墓がある、木ノ本、伊香具神社、西半里、懸ヶ嶽、西廿町、山麓まで人力車賃

二十錢、山は余吾、琵琶湖の臨岸で、秀吉が柴田勝家を敗つた古戦場、七本鎗の勇士と共に泣く世に知られて居る、木ノ本地蔵、東二町、中ノ郷、余吾湖、半里、人力車賃十五錢、峰崎園遊し、嵐光閑寂である、梅ヶ瀬、梅ヶ瀬山、北十六町、勝家の墓園を築いた所、敦賀

敦賀

敦賀は敦賀灣頭に在つて、三面山峰を繞らして居る、港内は波濤で大船巨舶を入るべく、露領浦(ジーストック)彌斯徳の交通門戸にして一週三回の連絡汽船便があり、最近の貿易額四百二十七萬圓に上つて居る。地は琵琶の大湖と畿に一嶺を隔て、本邦中原に於て要害無雙の點にあたり、海山の景亦甚美である。氣比神社は驛より北十三町、人力車賃十二錢、仲哀天皇の御廟である、北陸第一の宮居で今は官幣大社に列し、廟宇壯麗である、祠前の大鳥居は、海内有數の古建築だと云ふ。氣比の松原は驛西廿六町、馬車賃十錢、白沙迢として碧海に枕み翠松飄々として琴聲が絶えない、辨天島の勝は海路半里を隔て、居る、船賃二十錢。

吉野朝の末路には悲しむべき事が多い、金崎落城の如きも其一である。延元元年の冬、尊良、恒良の兩親王、金崎に入城せられ、足利の勢と大戰數度、終に命を卒へさせられた、地は驛の北二十五町なる小岬で、其處に兩親王を祀つた金崎宮がある、人力車賃二十三錢、祠は山を負ひ海に枕みて矚目開豁、ことに月夜の美觀を以て知られて居るが、遊子は多く其景に親まず、當年の餘怒激するが如き、樹聲濤音に秋を瀟

して、兩親王の末路に泣くのである。敦賀より一葦水を渡れば、立石岬の海岸に常宮神社がある、海に面して殿堂が建てられてある、社寶に一梵鐘がある、文祿の役朝鮮から獲來つて奉納したものと傳へて居る。若狹地方に遊ぶのは敦賀から西南に向つて居る若狹街道に由るがよい、途中三方、水月、久々子、日向の四湖があつて、巧に相連綴して肢節複雑し、風光の美をなして居る。遠敷に至れば若狹彦、若狹姫神社がある、小濱は北陸山陰連絡の要衝で、舞鶴との間に丹越汽船會社の連絡船がある、灣は松ヶ崎、高崎の兩岬が東西より突出して海門を作つて居るから、風濤奔騰の日も波靜にして、北海航行の避難所として適當な所である、殊に風光は頗る明媚で、山海の美容易に他に見るべからざるものがある、町の西端青井山麓に梅田雲濱の碑がある。小濱より西、道は常に風光明媚なる小濱灣に沿うて本郷に至り、大崎の峰巒を右に仰ぎつゝ、湖水の如き入江に沿うて高濱に行く、天王山の岬が海中に突出して海山の風景がよい、高濱から二里餘り行くと、若丹の境なる吉坂峠で、新舞鶴はもう遠くはないのである。

- 杉津 山間の一帯、海拔六百尺、敦賀藩の展覧が佳い、
- 海水浴場、西北十五町、● 今庄 城址、南六町、
- 鷺波 妙樂寺、西八町、日蓮宗の名刹である、● 日野山、北一里、越前富士の名あり、既習佳、● 芋平の巖窟、東三里、● 武生 古の府中、即ち越前の關所であつた、前田氏嘗て此に築き、後本田氏の城邑となつた、● 總社 大神、西四町、● 龍泉寺、西八町、● 圓分寺、西六町、● 妙法寺城址、西南

- 二十町、● 忍持寺、東一里二十八町、輕便鐵道金十一號、
- 眞宗出雲路派の本山である、● 鷺江 間部氏の舊城邑である、● 眞照寺、西北五町、調ゆる眞照寺派の本山で、殿窓宏麗である、● 眞龍寺、東十二町、眞宗山元派の本山である、● 大土呂 一乗城址、東三里、往時朝倉氏之に據りて北國に雄視した、飛泉あり一乗ヶ淵と云ひ、高さ四丈越前第一の瀑布である、● 福井

福井及附近

福井市は北陸道中金澤に亞ぐの都會で足羽川の流に沿ひ、越前に於ける一大盆地の地方的中心をなして居る、古は北の庄と云つて柴田勝家の據つた所で、松平氏封を受けてより今の名に改め北陸の雄藩であつた、今人口五萬人を有し、羽二重の産出最多く又本書袖を出すことも尠なくない、最近一年の絹織物産額二千百十四萬圓に上り本邦第一位を占めて居る。福井城址は驛北二町、市の中央に在り、今尙壘壁濠渠の趾を存して居る、九十九橋は西十二町人力車十六錢、足羽川に架し長八十七間、半は石造半は木造の建築で奇巧を極めて居る、川の南に突起して居る丘陵は足羽山で今公園となつて居る、山上足羽神社、藤島神社、繼體天皇の石像、招魂社等がある、登臨すれば四方眼界を遮るものなく風景甚佳である、園内には櫻樹が多い、藤島神社は別格官幣社で新田義貞及一族を祀つてある、義貞の戦死した燈明寺岬は市の北一里、森田驛より西南半里を隔て、居る、柴田神社は驛の西南二町、柴田勝家を祀る其社地は即ち北の庄城址だと云ふ。市内には佛寺の名あるものが多い、専照寺は眞宗三門徒派の本山である、孝顯寺は瀋祖秀康の廟寺、西光寺には柴田勝家の墓がある、運正寺は秀康の香華院で、東西兩本願寺別院は堂宇壯麗である、善慶寺には幕末勤王の志士景岳先生橋本左内の墓がある、一世の經綸事志と違ひ空しく風露の下に眠る、行いて英靈を用ふがよい。

永平寺は福井の東四里、永平寺山の麓幽溪の窮まる處に在る、曹洞禪宗の大本山で北陸道中著名なる巨刹である、道元禪師の開基で枯木寒岩の色、鳥聲風籟の音おのづから世間に異つて居る、邦畿千里を避けてかゝる山陰に跡を残し給ふも貴き故ありとかや」と芭蕉の記したのはこの寺のことである。

●丸岡● 霞ヶ城址、東一里半、○新田義貞の墓、東南一里、福念寺内に在り、●金津● 三國線の分岐點、○吉崎御坊、北二十五町、人力車賃三十錢、北湖の入江に臨んで東西本願寺別院がある、蓮如上人の創立せられた所で、嫁威谷の奇蹟を傳へ、西院には其肉付の面と云ふものを傳へて居る、●細呂木● 北湖の入江、北廿町、周回五里風光愛すべきものがある、筆草山の海崖岩窟の奇あり、天狗岩は水中に聳立し、稍紅色を帯びて居る、地學者の所謂土塔泥柱である、●大聖寺● もと前田氏支封の地で、編織物、陶器を産する、○大聖寺城址、北十一町、○藤原古戰場、北一里半、松岡齋藤實盛の墓あり、○菅生石部神社、十六町、國幣小社である、○山代温泉、東一里十町、○山中温泉、東南二里半、電車の便あり、賃金二十五錢、山中産を産す、風景の幽遠なで名高く北陸第一の温泉である、地は三面山を貫く大聖寺川東を流して居る、川は岸高くして断崖相連り、鯉、鱒あたり風色清絶である、●動● 山中温泉、西南二里廿町、○山代温泉、南一

里十町、馬車賃四十錢、設備が整うて居る、宇越中谷には九谷陶器製造所がある、○片山津温泉、西北卅町、人力車賃十八錢、柴山瀧の西南岸に在り、樓々水に臨み雲影霞影葉つべからざるの風致がある、○那谷の觀音堂、東南一里、人力車賃十五錢、山勢岩洞の奇あり、紅葉の名所で、加州第一の勝地である、●粟津● 粟津温泉、南廿八町馬車賃あり、賃金八錢、○三湖蘆、北廿八町人力車賃十九錢、今江、木場、柴山の三湖を展望するの勝地、●小松● 陶器羽二重を産す、○安宅の開址、西北三十三町、人力車賃十五錢、○小松城址、西南十町、○多田八幡、四町、●美川● 小松子の瀨、西十六町、青松白砂風光苑として播磨の舞子に類し、海水浴に適して居る、夏朝停車場を設く、○辰ノ口温泉、南二里半、馬車賃二十五錢、●松任● 併人千代女の墓、南西四町、○白山比咩神社、南東二里半、馬車賃二十錢、加賀一の宮で、國幣小社に列して居る、●金津●

金澤

金澤は元前田氏百萬石の城市で、犀川、淺野川の流域を占め、外國貿易の卒先者、錢屋五兵衛の居住した金石港を西北に控へ、人口十一萬一千人を有し、北國第一、本邦第九位の都會である、

産物には羽二重を始め、漆器、陶器、銅器を出し、商況活潑である、市の中央に一丘陵の連立して居るのには即ち舊金澤城址で、又有名なる兼六公園のある處である、園は驛の東南十九町、日本三公園の一として知られて居る、文政元年前田齊廣の經營せられた所で、宏大、幽遠、人力、蒼古、水泉、眺望の六勝を兼有して居ると云ふので、松平樂翁公が命名せられたものである、池沼あり、瀑布あり、松林鬱葱、花木妍麗、泉石亭榭皆雅致を極めて居る、山に紅葉山、福壽山、榮螺山あり、池に霞ヶ池、瓢ヶ池あり、瓢ヶ池の畔殊に幽遠を極め、瀑あり翠瀑と稱し、これに對する一小亭を夕顔亭といふ、結構頗る古雅である、これより北に進めば樹木愈鬱鬱、人をして身の公園中にあるを忘れしむるのである、霞ヶ池の畔春花秋葉の美あり又眺望に富んで居る、池に近く唐崎の松の種子を植ふたる老松と、有名なる微軫燈籠とがある、其他曲水の幽趣掬すべきあり、鶴嶋島の鷹園、萩に宜しきあり、龜甲橋附近の杜若に宜しきあり、四時遊杖を曳くに足るのである、園に隣れる樓閣は、曾て藩主夫人の隱栖に充てた成巽閣で、結構畫麗である、卯辰山は驛の東廿三町、金澤城と相對して居る、登臨すれば金澤の街衢より近嶂遠岳の翠、日本海の煙波、河北湖の藍碧、皆一眸中に集まるのである、野田山は南一里、山上藩祖利家以下歴代の墳塋がある、利家の靈を祀れる尾山神社は東南十一町上松原町にある、社地は舊前田家の別第で、館を金谷と云ひ、其風景を皆樂器に擬り、泉水築山を設けてある、神門は石造で三層、やゝ洋風を模して居る、市の内外には天徳院大乗寺、寶圓寺、傳燈寺、東西兩本願寺別院等の大刹がある。

白山は、海拔八千六百八十一尺、白山の名にあらはれて三越路や峰なる雪の消ゆる日もなし、峰頭は五

筒に岐れ、大御前を主峰として居る。飛陀ヶ原は廣き半方里、黒百合、花蓋草を初とし、種々なる草花が咲きみだれて、盛夏仲春の觀をなすのである。原より上、五葉の松と同様なる偃松、満山を蔽ひ、其間鶴鳥の人珍らしげに飛鳴する光景、全く下界の風色と異つて居る。絶頂白山本宮に詣れば、吸嘘直に上天に通ずるが如く、寥々として三十六天の外、別に一天をなすを覺ゆるのである。見渡せば加賀、越前、美濃、飛騨、越中、能登の國々眼下にあり、雄偉壯大なる飛騨の日本アルプス山系も、我に仕ふるが如く、天晴るゝの時、遙かに富士の靈峰を望むことが出来る。七月十八日に山開をなし、九月一日に閉づる。登路は越前福井より勝山町を経るもの行程十七里半、加賀金澤より鶴來を経て至るもの行程十七里卅町、福井より勝山まで輕鐵の便がある。此兩道の合する處は牛首で之より登路四里一ノ瀬温泉がある。温泉より御前嶽の絶頂迄四里、一日にして上下することを得るのである。

●森本 ● 深谷鑛泉、東廿五町、河北湖、西北二十町、人力車道二十鐘、一條の沙丘を以て海洋と相隔て風光佳、該屋五兵衛が埋立の工を起して罪に問はれたのはこの處である。
●津幡 ● 七尾線の分岐點、俱利伽羅 ● 俱利伽羅峠、廿五町、木曾義仲が火牛の計を用ひて平軍を破つた所、石動 ● 今石動城址、北廿町、觀音堂、北一里半、瀧渡岡址、南一里、福岡 ● 淨水寺、半里、觀望上人の舊跡、西

明寺鑛泉、西南一里十町、高岡 ● 中越鐵道の接續點、同線は北は伏木南は城端に至る、市は敷盛或は富山に勝るが如く人口三萬四千人を有し、漆器、銅器の產出が多い、高岡公園、東九町、舊城址、園内射水神社あり、瀧の馬場、駒の前、伏木港、二里、貿易額六十八萬圓に上つて居る、小杉 ● 奈古の浦、北二里、日本海の眺望絶佳、富山 ●

富山 立山

富山もと前田氏支藩の地で神通川に跨り越中平野の中央に在る、今人口五萬七千人を有して居る、此市の寶樂は其名四方に聞えて、田童子兒皆反魂丹、熊膽丸、感應丸等の名を知らないものはなく、遠くは、支那、西伯利、布哇へも輸出して居る、羽二重其他の絹織物も亦近時聲價を高めた。

驛の南七町神通川に架つて居る橋は神通橋で、昔時は舟橋として名高かつたが、今は木橋に改めて居る長百九十一間恰も虹のやうである、西には突羽山の丘陵あり、東には立山の連峰の天に聳えて居るのが見える、突羽山は驛西三十町賃金二十二錢、山は高くはなけれど、富山の瓦葺、神通の長橋、東岩瀨の帆橋を脚下に見るべく、立山の秀峰、有磯海の烟波、能登半島の風色亦矚望の中に在り、而も北には北代の梅林あつて暗香疎影の趣を盡し、東には五福の桃園あつて紅霞飄毳の致を極めて居る。大法寺は南廿五町、前田家の菩提所である、鴉坂神社は南一里餘、神通川に臨んで居る、其格祭は筑摩の鍋釜祭の類で、興味が多い儀式だつたが、惜しいかな今絶えた。

立山は著名な高山で、その連峰は本邦に於て最峻峻なる飛騨山脈の一部を爲し、峻嶺群峰附近に聳立して其山容の偉大なる他に多く其比を見ない、山は淨土山、雄山、大汝山、別山より成り、劔ヶ峰の高峰更に其北に連り、最高頂は海拔九千六百八十九尺、盛夏尙殘雪がある、山頂の眺望は實に天下の大觀である、眼を放てば北は白馬嶺、大蓮華、小蓮華の高嶺雲漢を摩して聳え、南は飛騨山脈蜿蜒として遠く連り、特に鎗ヶ嶽の尖頭高く群峰の上に抽立し、其南には遙に乘鞍、御嶽の高嶺を望み、胸ヶ岳の崔嵬を仰ぎ、東

は信濃の月隠より越後の妙高、焼山に及び、東南には善科山より甲信の境なる八ヶ岳を見、天際遙に東海の富岳を望むことが出来る。頂上には雄山神社あり、登山者は五の越にて草鞋を脱し、徒跣して賽するが式となつて居る。富山より上灘を経て蘆原寺まで七里半、これより八里にして室堂に達する、滑川よりは五百石まで輕鐵の便がある、室堂には數月の旅舎がある、七月廿日より九月十日まで、開いて登山者を宿泊せしむる、絶頂雄山神社はこれより五十八町である。

●東岩瀬 ● 萩浦、西北廿六町、海水浴に適す、●浪除松原、北十五町、●水鏡 ● 立山寺、東南二里廿五町、●日石寺、東南三里半、佛殿は山に倚り山は岩山で、頗る奇景をなして居る、歌條の瀨もある、●滑川 ● 滑川より魚津の海岸は世界に稀なる雲鳥賦の産地である、漁期は四月より六月まで、網を曳き上ぐるのは毎夜十時前後で、獲魚の豊島賦は浮きつ沈みつ豊の如く光を放ち、産網を決めらるゝに従つて一時に光を發し、恰も「イルミネーション」を點じたやうに、美觀を呈する。●魚津 ● 海上に蟹氣樓が現はれる、權船殿宇巖窟として朝霞暮霞の間に顯はるゝので、俗に海市と云つて居る、毎年春夏の交水蒸氣最多き頃に見ることが出来る。●魚津城址、西南十七町、●三日市 ● 愛本橋、東三里馬車道三

十餘、黒澤川に架す、橋上よりは飛騨山脈の高嶺大嶽が露れらる、●泊 ● 小川温泉、東半里、人力車賃十五錢、●七重瀨、東一里十町、●市振 ● 上路山、東南一里、昔此山に野女極みて山谷を上下し、まゝ村里に出で、人を誑したと云ふ、蓋曲山麓に籠へるものこれである、●親不知 ● 市振より親不知に至る間、飛騨山脈の末端の海に入る處、親不知の險がある、船富船時約一里、道路屢波に犯されて没することがあり、行人は波の間を候うて走り過ぐるのである、若し風潮猝に驟ふ時は避けて岩窟に逃ぐる、是時に方て歩武の遲速は忽ち死生の境をなすので、親は子を省み、子は親を思ふの暇がないのである、秋冬の交朔風海を捲き怒濤激變すれば往來通ぜず、北陸第一の危險である、今鐵道は山の半腹を穿つて通じ、往時險阻の

三國線 金津—三國

場所も車窓より望見することが出来る。●關岩、東三町、斷崖絶立脚角状を爲して汀渚に突出して居る、附近一帯子不知とも稱して居る、●駒返し、東八町、懸崖海に迫りて峭立し、通路を沙汀に存して居る、●青海 ● 勝山城址、西廿町、●龜塚口、南二里、黒姫山の溪谷に在り、太古奈奴川姫この洞中に住ひ、後大國主命の妃となられたと傳へてある、附近無数の洞穴がある、●糸魚川 ● 姫川の河口東邊に在り、元松平氏の城邑である、こゝより姫川に沿うて信州 大町に至る縣道がある、●奴奈川神社、南三町、●小谷温泉、南六里、内三里人力車賃四十五錢、海拔三千五百尺避暑に適する、●温泉 ● 月不見の池、南一里、巖峙ち水瀟へ、風景奇絶である、●能

生 ● 白山神社、北十町、山上に懸架し風雲寒のやうである、海上には解天岩がある、●天然瓦斯、南二里半橋口、地内より發生す、住民は之を煮沸點燈に常用して居る、●名立 ● 岩井觀音堂、南十六町、岩石重疊自然に堂宇を造り、苔深く泉清く古松繁りて幽靜の境である、●名立鼻、關東院道附近の地、●島首崎とも云ふ、海中に岩石が多い、●江野神社、西十三町、●島首崎の巖山に在り、●谷瀨 ● 長瀨海水浴場、北一町、●郷津 ● 居多瀨の小湊で近時築港の計畫がある、●郷津油井、東五町、●居多神社、東廿二町賃金十五錢、居多瀨の松山に在り、上越後第一の名刹である、●直江津 ● 信越本線參照、

●温泉 ● 蘆原温泉、縣附近、●三國 ● 九頭瀧川口に在り、●三國神社、十三町、日本海の展望雄大、●東河坊、北一里、人力車賃三十錢、礎々たる怪石刀鋸の如く、巍々たる奇

巖障壁の如く、下に海水の深碧を瀟へて居る、北に巖島あり、相對して風景明媚である。

七 尾 線 津幡—矢田新

●宇野氣 ●小濱神社、東一里、社附近の海岸異様の松樹が多い、●横山 ●木津橋園、驛附近、●寶運 ●寶達山、東南二里、頂上加越能三州を俯瞰される、●敷波 ●新宮、鐵泉、東一里半、人力車賃四十錢、●末森城址、東二十五町、●羽咋 ●氣多神社、北一里、馬車賃十五錢、北國著名の大

●千路 ●邑知島、驛前に在り、汽車の上を走るの感がある、湖北に扇状山が聳えて居る、●金丸 ●永光寺、東南三十町、曹洞宗の巨刹、●良川 ●石動山、東南二里内一里賃金三十錢、能登第一の峻嶒眺大、●七尾、矢田新

七尾

徳田驛を後にすれば、地勢漸く宏潤となり、北方能登丘陵の低く蟠居せるを指點し得べく、やがて七尾灣内の蒼波と灣中の大島能登島の翠螺とが見える、而して風情ある七尾港の瓦疊粉壁は宛然髮氣樓の如く車窓に迫り来るのである。見よ七尾港の彼方、石埼、須曾崎の相對せる、屏風崎瀬戸のさながら門扉の加くなるを始として、東は小口瀬戸に出入する白帆の影あり、山光水色其眺望の勝れたる誰か快哉を叫ばざるものがあらう。地は日本海岸屈指の良港で、水深く波靜に、よく大艦巨舶を容るゝ事が出来る、特別輸出港の一で貿易額四萬圓餘である、町に生國玉比古神社、光徳寺、妙觀院、長壽寺、岩屋醴泉等の勝地がある。

七尾城址は驛の東南二里を隔て、古來能登國の都城であつた、彼の不識庵謙信が「越山併得能州景」の吟は、實に此城を陥れた時、後望十三夜に遭うて感興に觸れたものである。能登島は七尾灣の中心に横は

つて居る大島で、東西三里、南北は廣狹均しからず、島形頗る奇、海岸彎曲せる所に幾多の漁村があり、悠遊半日を過すに足るのである、中に屏風崎の風光が最よい。和倉温泉は西北二里を隔て居る、馬車賃二十錢、海光水色の美に富んでるのが、この温泉の特色で、能登島の翠螺程近く、屏風崎の峻岩波上に迂曲し、長者崎は長浦と相抱きて、北方の三ヶ口狭水道を爲し、机島、種島、唐島等歴々指順の中に在つて、其風光の明媚なことは容易に形狀することが出来ない、海岸に近く浮島があつて辨天を祀つてある。

那谷寺や池の毘沙門松の雪	標	良
名月や北國の日和定めなき	芭	蕉
義仲の寢覺の山か月かなし	芭	蕉
雪の立山不二見西行鼻毛ぬけ	標	良
磯に迷ふ一つの雁よ親不知	標	良
九月盡遙に能登の岬かな	曉	臺

港 市 日 四



月ヶ瀬の梅



木津川の風光

關 西 線

關 西 線

關西線とは

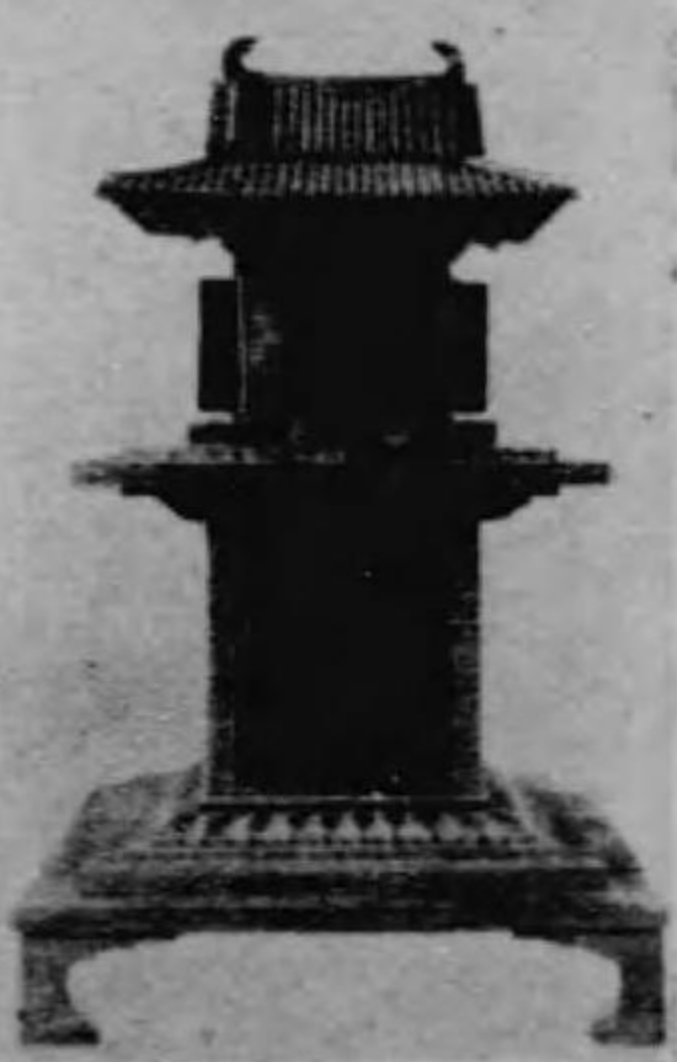
- 一 關西本線 名古屋、木津、奈良、湊町間一〇八哩八分。
- 二 參宮線 龜山、鳥羽間四四哩五分。
- 三 草津線 柘植、草津間二二哩六分。
- 四 奈良線 木津、京都間二二哩六分。
- 五 櫻井線 奈良、高田間一八哩二分。
- 六 片町線 木津、片町間二八哩一分。
- 七 和歌山線 王寺、和歌山市間五五哩三分、及貨物支線。
- 八 城東線 天王寺、大阪間六哩六分。

の總稱で、畿内の地に恰も蜘蛛の巢の如く敷設せられて居る。其本線は名古屋を起點として、伊勢灣に沿うて西し、龜山より南に參宮線を岐ち、鈴鹿山脈を横きりて柘植より北に草津線を分岐し、木津川の溪谷に沿うて木津に下るのである。木津よりは北に岐れて京都に至る奈良線

唐招提寺鼓樓



藥師寺東塔



法隆寺玉蟲厨子



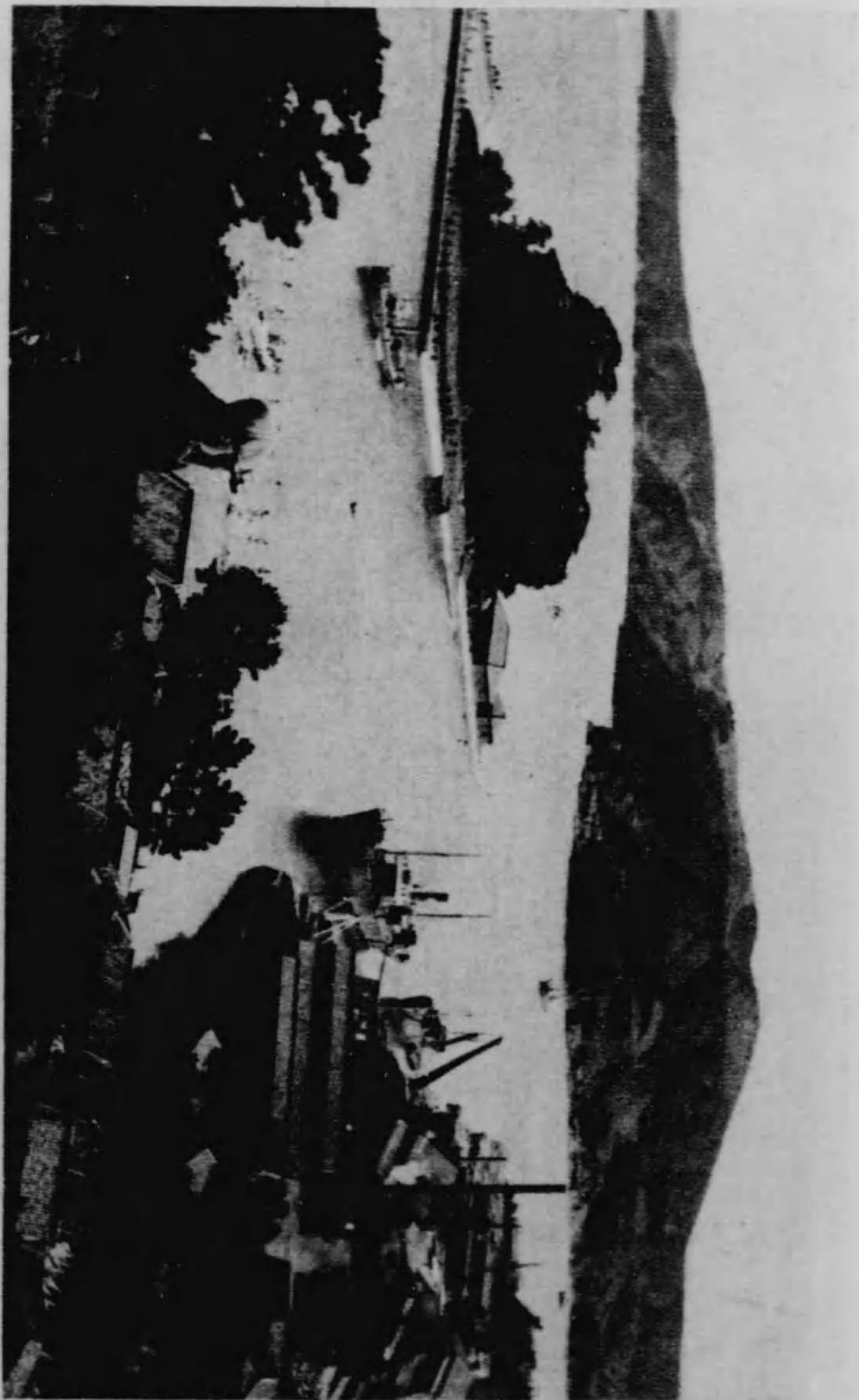
法隆寺夢殿

春日神社



春日の鹿神

港 羽 鳥



阿 漕 ヶ 浦



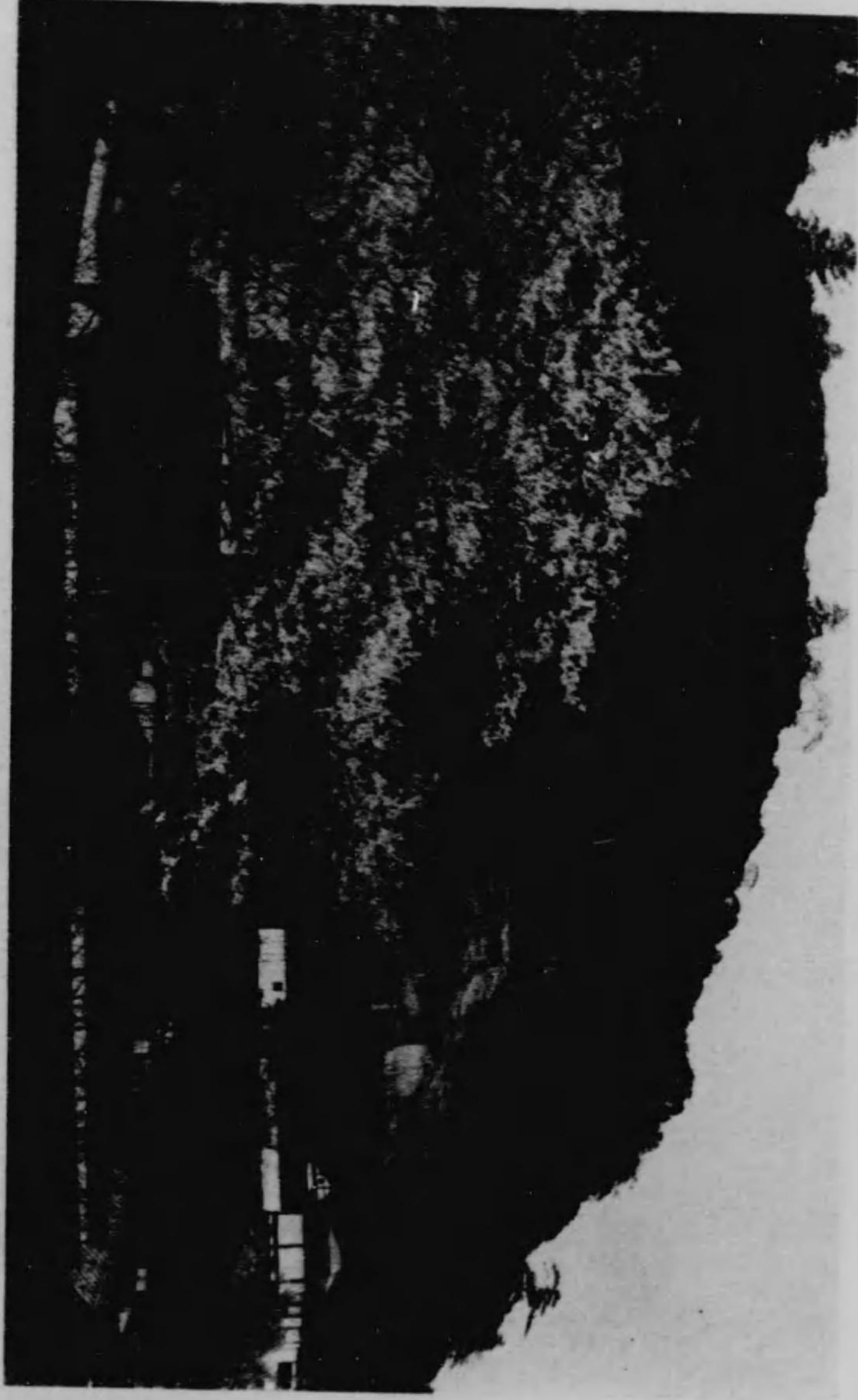
伊 勢 大 廟 內 宮



伊 勢 大 廟 外 宮

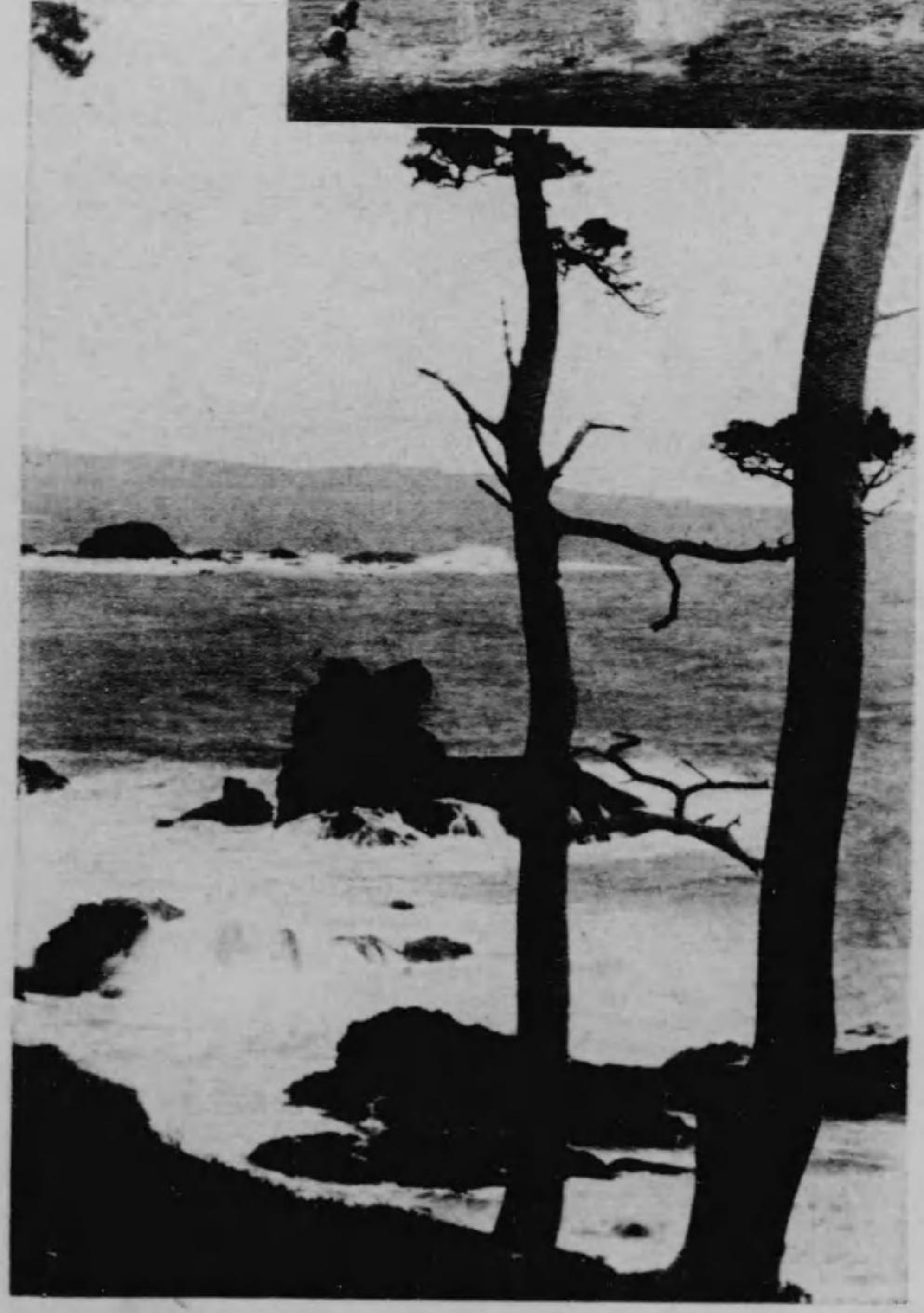


朝 熊 山 金 剛 證 寺



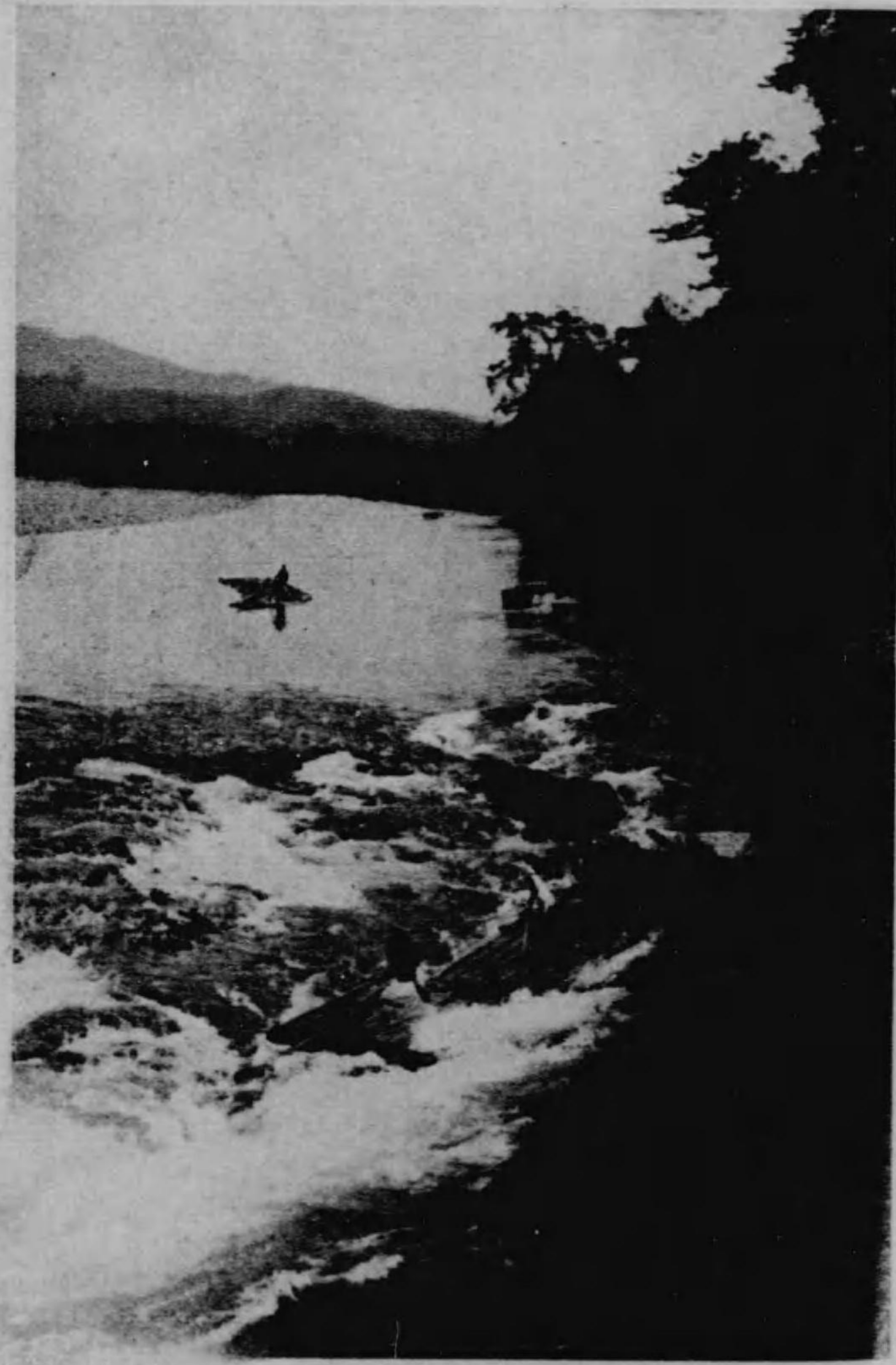
寺 谷 長

業作の蟹るけ於に島管

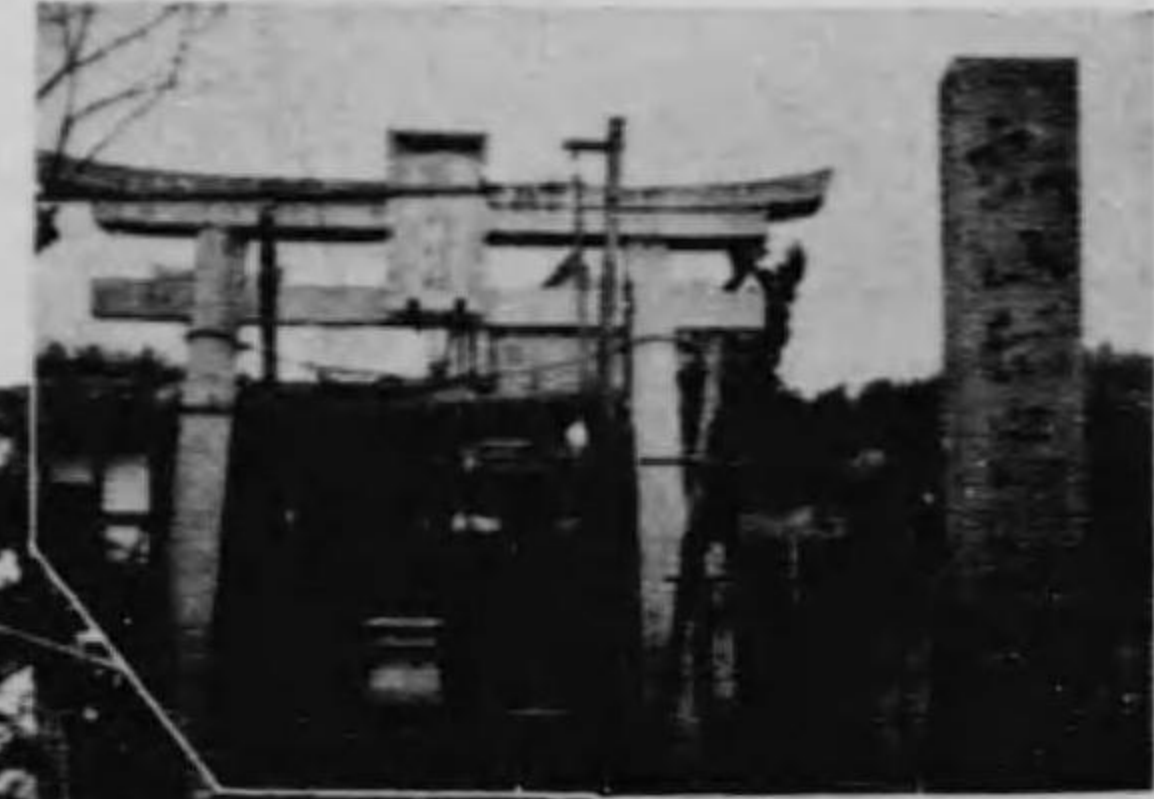


安 乘 大 王 崎 附 近

吉野川の筏流し



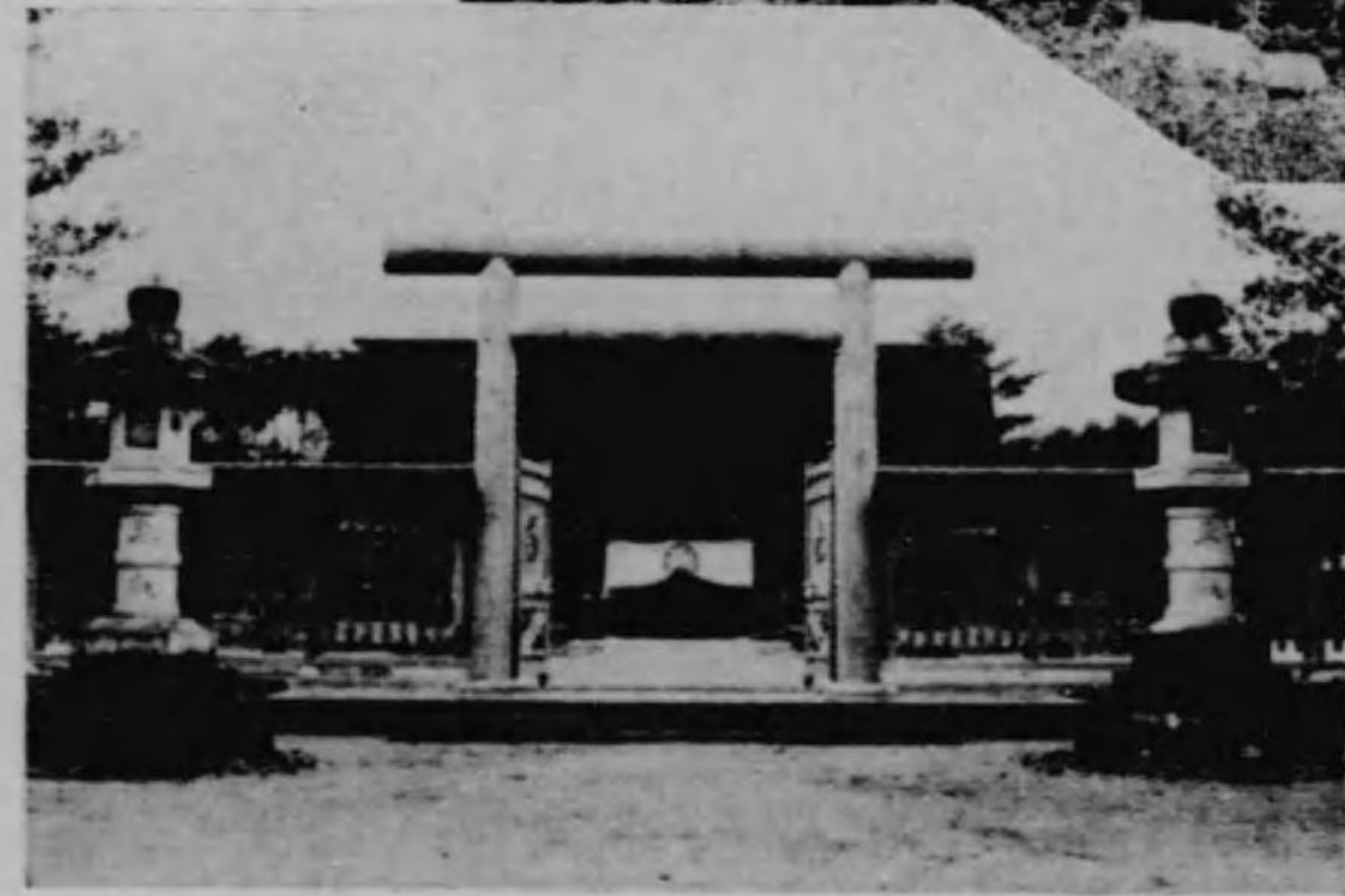
瓢箪山稲荷



石上神宮



談山神社



櫻原神宮

筆 晁 文 山 野 高



堂 金 山 野 高



塔 寶 多 山 來 根



院 奥 の 雪 山 野 高

堂 王 藏



櫻 の 本 千 目 一



當 麻 寺 中 將 姫 像



山 背 妹

あり、西に岐れて大阪に至る片町線あり、本線は南して奈良の古都に至りて、高田に至る櫻井線を岐ち、王寺よりは和歌山線を南に分岐し、天王寺よりは大阪市を一周する城東線を岐ち、本線は湊町に至りて止まるのである。沿線の風光としては、伊勢灣の眺望あり、鈴鹿山間の風色あり、木津川に沿うて笠置山麓を走る間、四邊の風光一幅の畫圖を展開せるが如く、奈良の古都附近は温然たる若草山、鬱蒼たる春日山の邊、堂塔伽藍夢の如く現はれ、恰も身を千年の古に置くの思が湧き、懐古の情車輪の響と共に轉廻して、郡山、法隆寺あたり、心に史乘を辿る人が多からう、王寺より大和川に沿うて川を渡ること三度、山水の景勝清新である。列車は名古屋、湊町間三回の直通列車あり、伊勢大廟參宮者の爲には、名古屋、湊町より各四回、京都より一回の參宮線直通列車を運轉し、名古屋、湊町間約五時間半、名古屋、山田間約三時四十分間、湊町、山田間約五時二十分、京都山田間約五時二十分間を要する。城東線は大阪に併記してある。

關西本線 名古屋—湊町

● 彌富 ● 尾西鐵道の接續點で此線より津島神社に發する人の乗替場である、當驛より長島を経て桑名に至る間、木曾川と接

● 雙川を渡る、其三角洲は年々洪水によりて形を變じ、地理學上興味多き所である、● 桑名 ● 久松氏の舊城下、櫻井川の吐口

和歌の浦

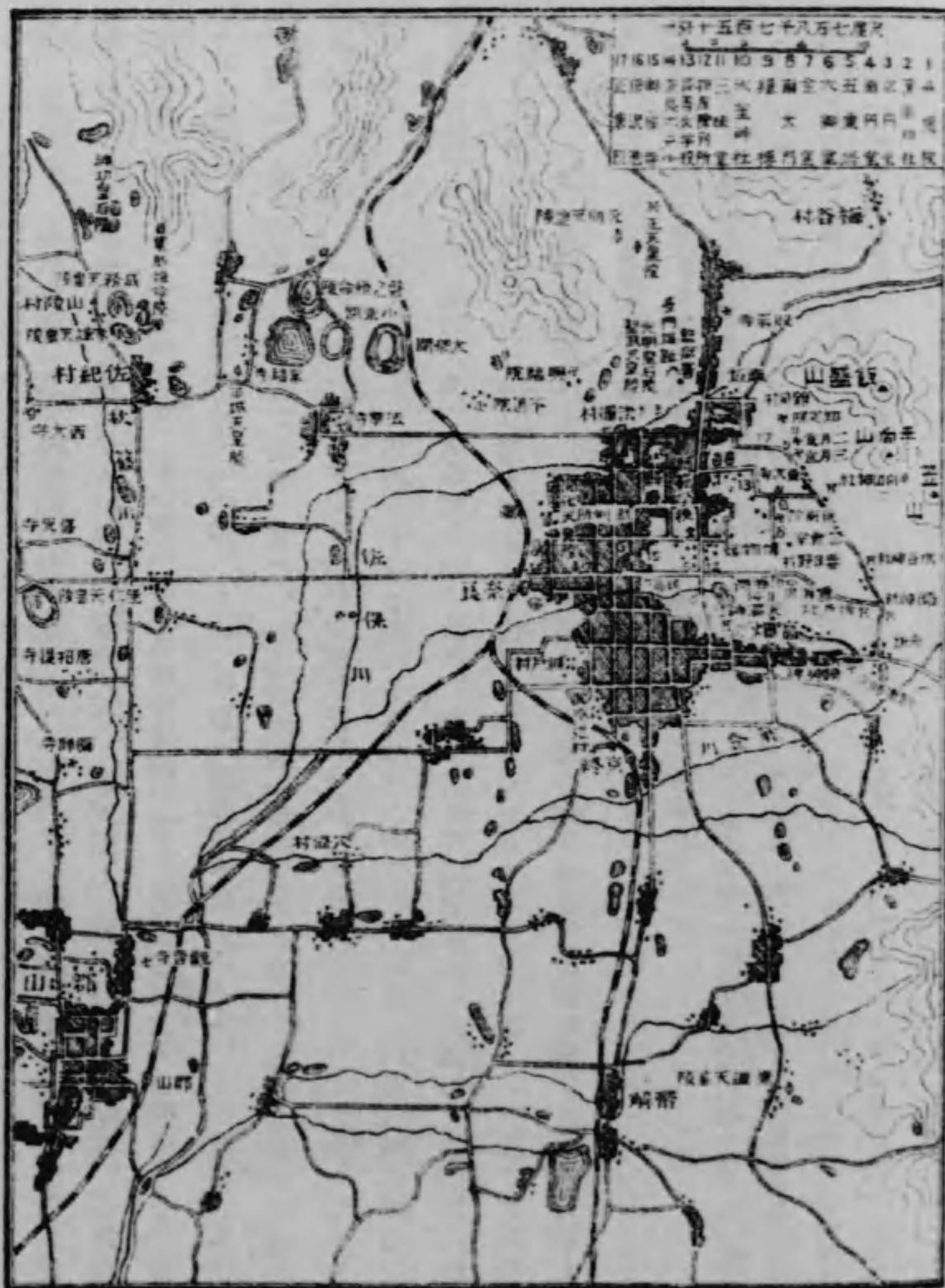


宇久井海岸



湯崎温泉

圖之近附良奈



に在り、米穀の集散甚だ多く又材木の取引が盛である、往時の東海道五十三驛の一で、旅客は此地の機蛤に舌を鳴し、渡船で熱田まで七里の海上を渡つたものである、○榮名神社、東十町一町、○鎮守國神社、町の東北舊城址御本丸内に在り、松平定綱及定信を祀る、定信は即ち白河樂翁公である、○大福田寺、西南五町、北勢の名刹である、○多度山、西北三里、馬車賃二十五錢、山麓多度神社あり、法雲寺あり、八、壺谷は宮の西歌町、溪間兩崖相對し、危巖削立溪流高下し、松楓の間に掩映して居る、○寶曆治水碑、西北二里半、○富田、○海水浴場、南十二町、夏初臨時驛を設く、一帶の海邊沙白く松青く波靜である、○神村、梅林、北一里、○四日市、伊勢灣に瀕する貿易港で北伊勢第一の都會、人口三萬一千人あり、萬古嶽及綿織を産する、近時築港に着手した、最近貿易額千八百五十萬圓に上つて居る、○猿野温泉、北西四里、輕便鐵道賃金二十八錢、三面山を渡ひ、東方遠く展けて伊勢灣を見る、○加佐登、○笠原神社、北九町、○龜山、○參宮線の分岐點、元石川氏の城邑であつた、○龜山城址、北六町、○能美野神社、東北一里半、人力車賃三十七錢、○關、此地古跡鹿の國を置かれた

所である、○關地蔵堂、西北四町、其名世に顯はる、○羽黒山、北一里、滿山殆ど皆、○鈴鹿峠、西北一里半、峯巒重疊喬樹森々として居る、田村將軍鬼神退治のこと人口に膾炙して居る、○栢植、草津線の分岐點、○芭蕉翁の生地、同上記念碑、南東廿町、○佐奈具、○敢國神社、南半里、伊賀第一の大祠今國幣中社に列して居る、○上野、伊賀第一の繁華地、藤堂氏の外城であつた、龜及伊賀橋を産する、○月瀬の梅林、南西四里、馬車賃四十五錢、人力車賃九十六錢、我國第一の梅林である、名張川青峰の間より出で、水色靑碧、淵となり瀨となり、瀨となり瀨となり、以て海咲く村を貫いて居る、香は二州に度り、花は九村八谷に及ぶ、紫藤植堂以來、此地の勝、已に天下に聞えて居る、梅樹の最多いのは天神山の麓、鶯の瀨の邊で、山隈水滸悉く白雲が薫つて居る、月瀬村は一村皆白く、月色清朗の夜、杖を曳いて遊歩すれば、杖々光を帯び、暗香蒸勃破影横斜し、身は既に雪中の景となるであらう、漢はまた杜鵑花が多く、夏月花咲くの時、水は猩血の色をなすので關川と云つて居る、○赤目四十八瀬、南七里半、人力車賃一圓五十錢、中に布曳の瀨は高さ百八十尺最偉觀である、○岩倉峽、

西廿五町、巖石の奇を以て知られて居る、伊賀越仇討の跡屋、辻、南廿町、島ヶ原、月瀬梅林、西南二里半、人力車賃月瀬村まで六十錢、大河原、懸谷神社、五町、明神大藏、東南半里、笠置、縣附近の風光清絶、温泉あり、鮎漁の遊あり、加ふるに元弘帝蒙塵の遺跡笠置山あり、親月の勝地として知られて居る、笠置山東十町、丘陵峻絶斷崖木津川に迫つて居る、笠置温泉、東三町、月瀬梅林、南東三

里半、途名張川の流に沿うて風光佳、加茂、淨瑠璃寺、南東一里、俗に九體寺と云ふ、行基の開基、人力車賃三十錢、海住山寺、北廿町、瓶の原、北廿町、燈明寺、東南四町、西明寺、東三町、木津、奈良線片町線の分岐點、大智寺、西北二町、和泉式部の墓、西三町、奈良、郡山、及法隆寺

奈良

大和は名勝の國である、歴史の國である、宗教の國である、美術の國である。日本上古史を繙くもの、誰か此一國が史實の大半を占めて居るを知らざるものがあらう、而して其中心點は實に奈良の古都である。地は大和平原の東北隅を占め、東には三笠山を負ひ、生駒山、金剛山は西の方指呼の間に在り、元明天皇より以下、七代七十餘年間の帝都たりし所で、今は瓦に内裏の址を偲び、礎に寺の面影を悲しむばかりの處が多いが、なほ其時代の神社佛閣の残つて居るものもあり、洵に我邦文藝美術の淵藪と謂ふべきである、西人嘗て此地に遊び、其山容水態の優雅なるを見て、奈良の風物は佳酒の如し、人をして美慵煦々眠りを思はしむと云つた、まことや一度奈良の地を蹈んで、先づ温然たる若草の山に向へば體緩に神舒ぶるの感がある。今の市街地は古都の東郊に當り、當時の大宮人の櫻かさして遺逸した遊覽地である、市は現時人口三萬三千人を有し、奈良人形、鹿角細工、根來塗、奈良晒布、奈良漬、霰酒、筆墨等を産する。奈良公園に近く鐵道院直營の奈良ホテルがある、春日野公園の一隅に位して池に臨み形

勝の地を占めて居る。建築は四邊の風光に適應せしむむが爲に古風宮殿の式に據り、設備も行き届いて居る。専用自動車あり、停車場の送迎に賃金五十錢、市内外巡遊の求にも應ずる。

春日神社、東大寺、興福寺境内は今奈良公園となつて居る。人力車賃春日神社まで二十一錢、規模の大風致の美、海内他に比すべきものはない。驛より直路東八町嶺澤池がある、これが公園の入口で、興福寺の南屋下である、池には鯉が多い、俗に魚七分水三分と云つて居る、石階を登れば興福寺址で、古の宏大壯麗な有様は今も見ることが出来ないけれど、尙南圓堂、北圓堂、東金堂、假金堂、五重塔などがある、南圓堂は八角寶珠形の堂宇で、古色愛すべきものがある、堂の南に二重塔がある、北圓堂は境内最古の建築で、藤原時代、東金堂五重塔は應永年間の再建で、東山時代の趣味を發揮したものである、東金堂の前に弘法手植の花ノ松がある、清陰百歩の地に敷いて、花よりも麗である。師範學校門内に在る八重櫻は、東圓堂の址に空しく、古の奈良の都の名残を留めて居る、奈良帝室博物館は寺の東に在り、其陳列品は歴史美術工藝の三部に分れ、皆優秀なる寶物である、一の鳥居を潜れば春日神社の境内で、春日野の若草煙るが如く萌えて居る、路の右傍は淺茅ヶ原で、梅の樹が多く、雪消澤も近くにあつて、若菜摘んだ古がなつかしい。いはゆる神鹿は詣人の興がる所で、或は芝生の上或は小流の畔、或は路傍に或は樹陰に、三々群をなし伍々隊を作りて、人の袂をひいて食を乞ふさま洵に愛らしいものである、春季彼岸に行ふ鹿の角切には遠くより見に行く人が多い。賽路の左右には燈籠が多い。廟宇の華麗なことは更めて説くに及ぶまい、祭神は四坐四字、百五間の廻廊左右に度り、千體の釣燈籠、繡華花の如く古色潤すべきものがある、詣路の

石燈、社内の掛燈、毎年節分の夜に悉く點火すと云ふことである、廟の背後に峙てるは春日山で、一山鬱蒼として見る目も心地がよい、「青海原ふりさけ見れば」と仲磨をして故郷の月を戀ひしめたのはこの山である。若草山はまた手向山ともいひ、満山小芝生で形容温蕪笠を覆せたやうである、春燒の後殊に雅趣があり、兒女の麗粧して遊べるありさま、宛然土佐家の圖様を見るやうである、人力車賃十九錢。手向山の八幡宮は楓の名所で、其處を過ぐれば東大寺で、二月堂、三月堂、四月堂があるが、中に二月堂は山腹に倚りて眺望がよい、三月堂は奈良第一の古建築で人をして天平時代の建築を偲ばしめる、大佛殿は即ち寺の金堂で、結跏趺坐五丈三尺五寸の盧舍那佛を安置してある、仰望其偉大なるに驚かぬものはないからう、堂上十數人を載せて尙餘地あり、鼻孔或は人を容るゝことが出来る、これが今より一千二百年前の鑄造かと思へば、世界の珍とせらるゝのも尤なことであると思ふ、人力車賃十八錢、正倉院は大佛の西北に在り、我邦無雙の寶庫で、聖武天皇御遺愛の貴重品を納め、今帝室の有に歸してある、人力車賃十九錢。

正倉院前より西して東大寺の轉害門を出て、更に西に五六町行けば、安瀾なる一帯の風光が眼前に展開せらるるのである、遠く南を眺むれば、平野の極まる所に畝傍、香久、耳無の三山が相並び、近く東には觀音山、若草山、春日山の諸丘陵が連り、西は生駒、志貴の諸山が蜿蜒として相接し、雲煙縹渺として宛然一幅の名畫を展べたやうである、元明以降七朝七十餘年、咲く花の匂ふが如く盛んであつた奈良の古都は、實にこれら諸山に圍まれたる、この一帯の廣き盆地に構へられたのである。

法華寺の四敷町、土俗大國の芝と稱する芝生は、古の大梅殿の遺址で、其西北に雜木林の繁茂した處は

内裏の址であると云ふ。佐紀村に至れば路が三つに岐れて居る。一は北秋篠寺に至り、一は西大寺に至り、一は南郡山（こほりやま）に行く道である。賽者はまづ北して秋篠寺に詣で、西大寺に行くがよい、西大寺は南都七大寺の一眞言律宗の本山で、殿堂は近世復興したものであるが、尙宏大の遺制を存して居る。人力車賃三十錢、寺を出て、南すれば、一帯の地風情ある松林が覆いて居る、これが唐招提寺の境内である。寺は唐僧鑑眞の創建したもので、南都七大寺中、典雅幽深千古の風色を傳へて居るものは、法隆寺以外、この寶坊あるのみである。金堂の後にある講堂は、平城宮の朝集殿を賜りて移建したもので古色掬するに足るものがある。山門を出でて尙南すれば、疎林の間一塔高く中天に聳えて居るものが見える、これが藥師寺である。金堂の本尊藥師如來は金銅の立像で脇士は日光月光の二尊である、これが嘗てフェノロサをして世界無比の鑄造佛であると驚嘆せしめたものである。東塔は三重であるが塔階が有るから、恰も六層を見るやうである。塔と相對して佛足堂（ぶつぞうだう）があり、中に有名なる佛足石がある、寺を出て、南すれば羅城門址、即ち古京の南の果て郡山町（こほりやま）の北である。

郡山は奈良の次驛で柳澤氏の舊領地である、町の西偏に城址あり、附近は菜畝が多く、夕陽には花光が城壁を照らすのである。

我朝の古美術は、奈良の古刹（こしやく）に法隆寺（はふりゆうじ）に其粹を集めて居るとは、斯道の人の唱ふる所である、寺は法隆寺驛の北十三町、人力車賃十三錢、歷朝勅願中第一の古刹である。本邦古美術中、其舊態を存せる點に於て、此寺の右に出づるものなく、從て保護建築物及國寶の數頗る多く、二十一棟、百十九點に上つて居

る、中にも金堂、五重塔、中門は、元明朝のまゝであつて雄大絶倫である、伽藍の結構配置も人面を形成して居るので佛面伽藍とも稱へて居る。南大門を入りて中門に至れば、門を中心として廻廊が左右に連り、北折して金堂及五重塔を包み、直に其後なる講堂に達して、おのづから一廓を構成して居る。金堂は五間四面の重層で裳階あり、形状宏壯でこれに對して無限の美感を醸さぬものはなからう、堂内の四壁は悉く四佛淨土圖及菩薩諸像を畫き、天井裏には蓮花を描寫してある、有名なる玉蟲厨子（たまむしの子）もまたこの堂内に安置してある。金堂を出づれば西に五重塔があつて、内に泥塑の佛像人物山水等を配置してある。夢殿は太子の三昧定に入らせられた所で八稜形の建築である。本尊の觀音は太子等身の像である。凡そ此寺は其建築に於ては推古朝の典型を遺し、法寶に於ては隋唐三韓の光明を傳へて居る、これが識者の推重して措く能はざる所以である、富ノ小川（とみのせがは）の水とこしへに流れて、ながく日本の誇りとして傳へらるゝであらう。法隆寺は法隆寺の北六町、それより東六町にして法起寺（はふりきじ）がある、人力車賃二十七錢、聖徳太子岡本の宮の跡で、其三重塔は法輪寺の三重塔と共に推古式に屬して居る。廣瀨神社は驛南十五町、人力車賃十七錢、官幣大社で歷朝祈年の大祀である。

●王子 ●和歌山線の分岐點、○彌田神社、西半里、官幣大社である、○羅田川の紅葉、北東廿五町、古来紅葉の勝地として知られて居る、羅田橋あたり樹影が多い、人力車賃十六錢、○蓮勝寺、南八町、○信貴山歌嘉院、西北一里、塔堂懸崖の上

に倚つて葦中の蘆を見ふ、聖徳在復一圓三十錢、人力車山麓まで十二錢、●柏原 ●河南國道の接續點、同線附近も名勝が多い、通明寺（だうみやうじ）附近の地は大坂陣の時の古戰場として名高く、古市、聖田附近は歴代の帝陵が多い、富田林（とみだやし）より大和川を

渡りて東南に進めば、金剛山の翠色雲肩を履し、人をして桶
正成の千早、赤坂に於ける武勇を追想せしむべく、観心寺、
天野山等には吉野朝末路の悲しむべき遺蹟がある。○道明寺
天満宮、東南廿五町、○玉手山遊園、東南卅町、○藤井寺、西

參 宮 線 龜山—鳥羽

●一身田 ●専修寺、東二町、眞宗高田派の本山、もと下
野剛高田に在つたので、化邇多く東國に行はれ、佛殿祖堂以下
堂宇幾々として居る、●津 ●上古三津の一、伊勢灘に臨み、
附近を阿漕浦と云ひ、岩田川の吐口を港泊として居る、藤堂氏
の舊城市で勢州第一の都會、伊勢は津で持つの俗説がある、今
人口四萬一千人を有し、阿漕橋及津振子等を遺する、○津城址、
東南十九町、○津公園、西南三町、關西屈指の名園、○觀音
寺、東南半里、○四天王寺、南七町、●阿漕 ●津市の南端、
○阿漕浦、北東十三町、海水浴に適する、人力車賃十八錢、
○阿漕塚、東北十町、○結城神社、東十二町、●高茶屋 ●香

南一里十町、●八尾 ●大皇將軍寺、西南六町、○彌陀寺、
北十二町、○大信寺、南八町、●平野 ●大金佛寺、南三
町、●天王寺 ●城東線分岐點、

良洲浦、東南卅町、海水浴場あり、香良洲神社あり、人力車賃
二十六錢、●松坂 ●松坂公園、西南八町、蒲生氏郷の城
址、鈴の家翁本居宣長の畫齋あり、翁を祀れる山室神社も
附近に瀕して居る、人力車賃十錢、○宣長の墓、西南一里卅
町、○大石不動尊、西四里半、●徳和 ●安樂天神、東南廿八
町、○神宮麻績殿神社、東一里半、○神宮殿 藤原神社、
東一里廿五町、●相可 ●一乗寺、西北八町、寺背の高丘伊
勢庵の風光佳、○法泉寺、西一里、●筋向橋 ●宮川堤
の隈、西十町、●山田、二見浦、鳥羽 ●

山 田 附 近 之 圖



伊勢大廟
及附近

五ノ鈴川の上、神路山の麓、神さびたる一區の淨地がある、これが神祖、天照皇大神を奉祀せる大廟のある所で、市を宇治山田市と稱し、日本の所謂聖地である、今人口三萬八千人を有し、春慶塗、宮木箸、篠笛、茶傘、紙葺入等を産する。山田よりは内宮、二見に至る電車あり、内宮より二見浦への電車がある。電車賃外宮まで三錢、内宮まで九錢、自動車は乗合、外宮内宮間二十錢、驛内宮間二十五錢、時間賃六人乗一時間四圓、内外兩宮、二見浦、徴古館等回遊は六人乗七圓である。人力車賃外宮まで八錢、内宮まで二十六錢。

大廟は内外の二宮に分れ、内宮は皇大神宮と稱し奉りて五十鈴の川上に、外宮は豐受大神宮と稱し奉りて高倉の山麓に鎮座ましまして居る。外宮は山田驛より五町、雄略の御世今の宮地に鎮め奉らせられたもので、百穀發生のもとを掌り、天下の人民に衣食を幸ひ給ふ神である。正殿は南向にて萱葺の掘立柱、白木の儘の結構であるから、神代のさまも實にやと惚げれる。内宮は外宮を距ること凡そ五十町、宇治橋に至れば、五十鈴川流は澄みて、神路山は杜に茂つて居る。橋を渡れば即神苑で、綠麩を展べたやうな芝生に處々稚松の點綴するあり、清涼の氣身に逼りて、我已に塵世をはなれ、こと遠きを覺ゆるのである。苑内大山大將奉獻の巨砲と、東郷大將奉獻の大砲彈がある、前者は二十七八年役、後者は三十七八年役の戦利品として、共に神明加護の謝恩を表せる絶好の紀念である。尙進めば老杉古檜森然として天を衝き、蒼古幽邃の趣、崇高の情に堪へないのである。一ノ鳥居を経て、五十鈴川の水に口噴きて左に轉じ、二ノ鳥居をくぐり、御垣の下に跪きて拜すれば、森々たる木立に風靜に渡りて、神下りますかと宮居尊く、清

淨無垢なる白木造に一點の塵も許さず、額づけは得もしらぬ美き薫り移りて、衣の香ばしきも嬉しく、木の間より洩れ来る日の御影の嚴かなるを仰ぎては、何事のおはしますかはしられども、恭けなきに涙のはふり落つるを禁じ得ないであらう。宮は崇神の御世までは、宮中に奉祀せられたが、神威を瀆し奉らむことを恐れまして、大和の笠縫の里に移しまゐらせ、後垂仁の御世に倭姫命が神誨を請けて、今の地に齋宮祀られたので、御靈代は長くも八咫の御鏡にして、三種の御神器の一である。そもく内外兩大宮が皇室の宗廟として、舉國尊崇の中心たるは、今更めて説くのは要はない、されば四時の祭祀莊嚴を極め、事あれば必ず勅使を遣はして奉告せらるゝのである。特に明治三十七八年役を擧りて、平和克復するや、聯合艦隊先づ來りて爰に詣で、尋で車駕親臨、親しく克捷奉告の祭を行はせられた、蓋し曠古の盛儀である。

二見浦は、沙白く松青く、海氣最清、海水浴場に適して居る、名高き夫婦岩は恰も自然の門戸の如く、兩々相對して波に泛んで居るが、この兩岩の間より朝暾が暈々として上るの光景は、夙に天下の絶景と稱せられて居るのである。朝熊山は風光の美を以て稱せられて居る、二見浦より一里餘、海拔一千七百尺、朝熊神社がある、眼下には伊勢の海晶々として一大鏡を磨いて居る。鳥羽は、舊稻垣氏の城市で、城址は海に枕みて一廓をなし、風景がよい。日和山は町の西北に屹立する丘陵で眼界極めて廣く、大小の島、縱横羅列し、右は城址左は小濱の岬、参尾の海山をも見渡される。伊勢の海のおまの志摩岬があはび玉、志摩の蟹は古來好箇の詩題であつた、近時鳥羽港管島に於て蟹に眞珠貝を取らせて、觀光の人を喜ばしめて居る、觀覽料一艘金貳圓五十錢である。尙英虞灣、五ヶ所灣には御木本眞珠養殖場がある、鳥羽より英虞

灣まで人力車賃一圓二十錢。

志摩の安乘、大王、御座三岬の風光は近時稍世に知らるゝこととなつた、安乘岬の絶端よりの矢野を見たる景、御座金比羅山より濱島灣を見たるの景特に勝れて居る、鳥羽より南すれば四里にして磯部村、其處に伊雜宮がある、人力車賃八十錢、所謂伊勢大廟の裏宮で實に二千年來の古社である。社より南一里下の郷と云ふ村がある、其處で舟を懸して川の如き入江を過ぎ、的矢灣を経て安乘に上陸し、それより大王御座を巡覽するがよい。

安乘岬は絶致ある松原多く、松原の中に安乘の漁村がある、風景のよい所で、前に的矢灣と朝熊山、青峰の翠微が見える、海岸に出ると怒濤は白色の絶壁に碎け、一碧萬里危橋獨り度るの趣がある、特に潮風松を亂して荒涼寂寞、はじめ身身の絶海の邊に至れるを覺ゆる、岬頭燈臺あり、臺上の眺望もまた佳い。大王岬は安乘より三里、波切大鼻とも云ふ、岬の附近は著名な悪灘で難波船の多い所、海軍の望樓がある、岬端より一里の海上に大王岩があつて附近は暗礁が多い。御座岬は大王より四里、途に古來海女の多い地として聞ゆる和具の漁村がある、岬の高頂を金比羅山と云ひ海拔三百三十尺、遠近展望の風光云ふべからざるものがある、其處より舟を借うて對岸の濱島に行くことが出来る。

草 津 線 拓植—草津

●深川 ●宮乃温泉、西南廿八錢、人力車賃十五錢、●生川 ●近江鐵道の接續點、同線附近多賀神社や紅葉の勝を以て聞ゆる水源寺がある、●鹽野温泉、南十五町、●廣徳寺、南一里、●飯道寺、西十五町、飯道山麓に在り、堂宇壯麗である、●三雲 ●天保義民記念碑、驛附近、●三雲神社、西南

奈良線 木津—京都

●上狛 ●泉盛寺、西南四町、●團倉 ●彌満寺、北五町、●長池 ●青谷梅林、東南半里、●新田 ●巨椋池、東北十町、蓮花の名所、●宇治 ●宇治以北は東海道線京都の部参照、既記の外、●興聖寺、宇治神社、離宮八幡、●龜姫寺、三室戸寺、浮島の寶塔等の名所がある、

片町線 木津—片町

●祝園 ●祝園神社、西北半里、●田邊 ●新一休寺、西六町、一休入寂の地、●酒屋神社、西南十町、●長尾

八町、●妙感寺、十五町、藤原藤房の開基、境内櫻樹が多い、●石部 ●新善光寺、西北廿五町、●金壽寺、南一里半、金壽山頂に在り、觀音寺とも云ふ、湖水觀望の勝地として知られて居る。

●小幡 ●萬福寺、南十町、電車賃五錢、●日野藤原、東北半里、●團圓寺、三寶院、共に廿町、●桃山 ●桃山御陵、東十町、人力車賃十一錢、●桓武天皇御陵、北八町、人力車賃十一錢、●觀月橋、西南四町、●伏見 ●藤森神社、東北十町。

●博士王仁墳、東南四町、●津田 ●神宮寺梅林、南十五町、人力車賃十五錢、●星田 ●星田妙見、東十町、櫻樹多し、

●四條 ●四條神社、東五町、飯盛山の西腹に在り楠木正行及弟正時の墓を祀る、社地は正行が決死吉野を出で、敵の大軍と奮戦した處、四條村字北條に今猶ほ墓の遺路を存して居る、社地は頗る眺望に富んで居る。小楠公の墓は驛の西四町、田邊の間に在る。●野崎觀音、東南半里、堂の後院本で

櫻井線 奈良—高田

●帶解 ●帶解地解尊東二町、●櫻本 ●柿本寺、東南四町、附近人鷹塚あり、●丹波市 ●天理教會本部、東十町、●石上神宮、東廿町、人力車賃十錢、官幣大社に列す、社城山に據り、林を貫ひ、頗る清酒である、●柿本 ●大和神社、北十町、官幣大社に列す、●柿本 ●三輪 ●大神神社、東五町、三輪山麓に在り、官幣大社、國家修成の功神、大物主神を祀る、社前に三輪の茶屋がある、●櫻井 ●文殊院、西南八町、●長谷寺、東一里十町、初瀬鐵道の便あり、寺は初瀬山の半腰に在り、殿堂、廻廊共に宏壯、古來櫻花の名所として聞え、今境内に牡丹が多い、殿堂の構造は京都清

有名なお姿八松の墓がある、●住道 ●彌雲山新道、南一里半、人力車賃三十五錢、運氣藤原等の社占の元祖として名高い、●枚岡神社、東南一里十町、官幣大社に列す、境内梅櫻が多い、●生駒山聖天、東二里、

水寺に似、三折九十二間の長き廊下あり、扉角毎に、風情ある欄燈籠を掲げてある、春野月輪なるの時期に此欄燈を透過すれば、古燈籠の火美しう櫻花に映じて、光景已に千年のものである、蓋し三輪、初瀬邊は古へ奈良朝の時、公卿百官の悠遊一日を消した處で、古文學を誦く人の目になつかしい地である。●多武峯談山神社、南一里半、藤原鎌足を祀る、祠殿莊麗、西の日光と云はれて居る、境内櫻樹が多い、●歌傍 ●歌傍山東北御陵、西南十町、人力車賃十五錢、皇祖神武天皇の御陵である、區域周圍四百五十間、繞らすに二重濠と欄干とを以てし、松附其の間に應致を添へて、うたゝ敬虔の念を催さしむる、●櫻原

門が見える、是より二十餘町の間五曲りの坂路あり、長峰の櫻と云つて居る、廿八町目に村上義光忠烈の碑がある、廿町前後の邊、山も谷も悉くこれ櫻花、峰も尾も悉くこれ白雲、即口の一ヨキ本で一に日本が花とも云つて居る、吉野宮は此香雲裡に在り、官幣大社で後醍醐天皇を祀つてある、吉野町の人家はこれより山嘴を傳うた道路の左右懸崖に凭つて構へられ、頗る風情がある、町を過ぐれば金峰山寺で壯麗華麗な藏王堂を見るのである、堂前四本櫻あり、大塔宮吉野落の時、離杯を擧げられた所で、堂の西三町の實城寺址は、吉野朝三帝四十餘年の行在所である、俯仰並に至りて誰か涙なきものがあらう。藏王堂より本道を南に進めば、三町にして吉水神社がある、後醍醐の吉野に行幸せられた時、先づこゝにお入になつて、「花にれてよしやよしの、吉水の」の御詠のあつた處で、宮は天皇及楠木正成を祀つてある、附近山口神社あり、神社の前を左に、谷に沿ひ溪を渡りて東に上れば、七町にして吉野朝の勅願寺であつた、如意輪寺がある、楠木正行が髻を截つて佛殿に納め、一族百四十三人の姓名を記し、獻もて「かへらじと」の歌を刻したと云ふ扉は今猶寺に藏して居る。堂後に後醍醐天皇陵がある、落花紛々の時茲に詣で、吉野朝の古を思へば、涙襟を濕すであらう。更に本道に戻りて山口神社より南に進めば、三町にして竹林院がある、これより天王橋を渡り、猿曳坂に至りて東の溪谷を望めば、香雲靈巖として日光に映じ、風光の美宛然土佐の名畫を見るやうである、これが中の千本である。かくて布引櫻、瀧櫻、雲井櫻等を受で、更に上れば世尊寺址がある、これより二町にして水分神社、七町にして金峰神社がある、昔清水は金峰神社より右四町、西行法師三年庵住の舊地で閑寂な境である、「淺くともよしや又汲む人はあらじわれにこと足る山の井の水」

と法師の詠じたのは庵址に至る路の小川で、芭蕉が後、こゝを訪うて「露とくくく試に浮世そよがばやしの吟があつた、庵址の後方、櫻花いよく深く幽趣云ふべからず、これが奥の千本である。

吉野大峰に登るにはこの道を本道とし、吉野町より頂上まで六里である。小天井、大天井の二嶺を越え、洞辻を経て鐘掛、西視を過ぐれば、地漸く峻く、山城大和の山河皆眼中に落ち、登臨の快云ふべからざるものがある、山上には大峰山本堂あり、去大な建築で藏王権現を本尊としてある。山は四月十日に開いて十月十日に閉ち、半歳の間人の住ふものはない。

吉野川上流沿岸の地も亦景勝の地が多い。上市は驛の東南三里半、人力車賃七十錢、町の東五町、川を挟んで妹背山がある、宮瀧は上市の東五十町、巖巖峙立し、碧流聲りて其下深潭をなす處、橋あり、風光がよい、此近傍は古の國栖の地で、朝廷大儀の時來つて歌曲を奏し御贄を献した所である。大瀧は宮瀧と距る五十町、流が急で激湍を爲して居る、支流蜻蛉瀧あり、幽深清冷の境である。大瀧より一里にして丹生川上上社あり、官幣大社である、附近一帯の地石灰洞が多い。

- 北宇智 ●金剛山千早城址、西一里半、○地蔵寺、西十三町、●五條 ●吉野川に臨む、附近香魚池に垂す、●榮山寺、東南廿町、寺前の吉野川を昔無川と云ひ、巖岩並列して淵を爲し、風光がよい、○賀名生行宮址、南二里、○丹生川上下社、東五里、●本 ●西二町、木倉上人の開基である、○荻菅堂、一里、人力車賃十八錢、○高野山、四里、

- 三圓十五錢、人力車賃河根村まで二里三十八錢、●高野口 ●慈尊院、南十町、弘法大師其母を茲に迎へ、月に九度山上より來りて、孝養を盡したと云ふので九度山と云ふ、●蓮田幸村父子閉居の邸址も近くにあり、○高野山、南三里半、●觀音堂二圓四十五錢、人力車賃推出まで五十町、二十八錢、推出より觀音一圓七十五錢、山は弘法大師の開基、金剛寺の靈域で、輪奐たる

堂塔莊嚴なる僧坊、山に凭り谷を埋めて、海内第一の靈刹と稱せられる。寺域周圍十三里、僧坊百三十餘、大門、金堂、本堂、高大壯嚴言語に絶して居る。奥ノ院は大師の廟所、四面對形造で瑞鏡を周らし、蓋翫たる杉檜之を圍み、清涼なる玉水之を繞つて居る、幽邃閑寂眞乎の靈場である。○粉河 ●粉河寺北七町、○長田觀音寺、西半里、●打田 ●安樂川橋邊、南廿四町、○福林寺、北廿三町、○権現寺、北半里、○倉田源泉、

北一里、●岩出 ●岩出大宮、西四町、○根來寺、北一里人力車賃二十錢、新義眞言宗總本山、高野山と並びて法風靈に嚴國の際に及び、僧兵の強項根柢を推して第一とした、寺域宏潤、古松老柏の間慶樹が多い、●布施屋 ●伊太新曾神社、西南一里半、●田井ノ瀬 ●日前國懸兩神宮、西南廿六町、人力車賃十六錢、官幣大社である、○龜山神社、西南一里半、●和歌山及和歌山市

和歌の浦

和歌山市は徳川氏親藩の舊城市で、紀の川の吐口に在り、綿フランネル産地として聞えて居る、今人口七萬七千人を有し、南海第一の都會である。市の中方の岡卓に和歌山城址あり、驛より西南十五町、電車賃四錢、天守閣尙依然として残つて居る、城内の天妃山は今公園となつて居るが、四望開豁眺望がよい、和歌の浦は市の南一里餘、電車の頓がある、賃金十錢。雜賀崎より毛見崎まで、和歌村、紀三井寺村の江灣は即和歌の浦で、和歌村の南一條の沙嘴がある、天の橋立、三保の松原と地形を同じうし、古松白沙の間に偃蹇して居る。浦は古聖武、稱徳兩帝の望海樓をお建てになつた處で、滄桑の變、當年蒼波を濤へた所も、今は人家田島となつた處が多いが、玉津島神社附近、尙往昔の面影を髣髴することが出来る、神前の入江には三つの斷橋を架し、一帶の青松美しき影を海波に蕪して居る、神社は龜山の南麓に在り、山上には多寶塔が高く聳えて居る、石階を下れば拜殿あり、觀海樓と云ふ、江水を隔て、名草山に對し、山水の勝に富んで居る。和歌の浦には名所がござる一に權現」と謠はれたのは、玉津島の北なる

伽羅山の東照宮で、岡下には藩祖を祀れる南龍神社がある。紀三井寺は浦の東岸名草山の西麓にあり、樓閣翠微をゆきんで、丹靨波瀾に俯して、堂塔宏麗、浦の全景指顧の間にあり、遠く淡路島、苦島を望む絶勝の地である、足この寺に及ばずんば和歌の浦の勝を説くことは出来ないのである。

熊野地方山水の勝は夙に世に知られて居るけれども、交通不便な爲にわざ／＼此景勝を探る人が尠ないのは残念である。同地方へ遊ぶには和歌浦から汽船で田邊に至り、田邊からは熊野街道に頼りて本宮に至り、それより熊野川を下りて新宮に出づるがよい。田邊の南方には海灣を隔て、瀬戸の鉛山がある、湯崎温泉は其瀬戸岬の南に在つて、田邊より舟して行くことが出来る、附近の海岸は怒濤の浸蝕作用と風化作用とに因る奇岩、洞穴、島嶼等目を樂しましむる風光がある。田邊より本宮まで陸路十六里半、本宮より新宮まで陸路七里海路九里である。本宮は即ち熊野坐神社の在る所で社は今國幣中社に列し、熊野本宮證城殿と稱し、新宮、那智を並せて三山と云つて居る、熊野川の大和より來りて驛北を流るゝ所、大鳥居屹然として其水流に臨んで居る。川は由來景勝の地として知られ、本宮にて音無川を入れ、請川にて請川を合せ、宮井にて北山川と會して巨流となり、蜿蜒兼廻して海洋に出づるのである、本宮より舟して下れば、宮井に至る間兩岸層巒起伏して水と共に東に走り、左に高山、右に請川の村落が見える、屏風島を過ぐれば網代が瀧は深潭量るべからざるに、五十丈許の巨崖瀧に臨みて顛倒せむとし、奇嶮眼を驚かすものがある。宮井より北山川を折ること三里餘玉置口に至れば、兩岸相迫りて窄く、此を入れば絶勝の別乾坤瀧入丁の勝がある、河水深く濤みて其色藍の如く、兩岸の絶壁屏風を立てたやうである、溪流の深い所は十五

尋濤々として流れず、舟子櫂を按じ緩々として進むので、岨壁幾曲觀、曲に隨つて改まり、崖岩盡く奇、赤壁の勝もまた昔ならぬ風光である。

宮井より尙熊野川を下りて楊枝に至れば、山再び迫りて小瀑の高きより落つる、宛然支那の山水の如く、山影山影と相争ひ、溪流溪流と相競ひ、水鳴り石走りて舟の動くことが甚しい、淺里相賀等の山村、この山色水聲の中に散在して居る、瀨原に至りて山稍舒び水漸く緩く、遂に新宮の平地に出づるのである。

新宮は熊野川の吐口に在り、水野氏の舊城地で有名な材木の集散地である、町の北に熊野速玉神社がある。那智の瀧は新宮の西約五里、高さ八十四丈本邦第一の瀑布と云へど、山淺く谷深からず、壯絶と云ふよりも纖巧と云ふべく、雄大豪壯の風はない、四町にして第二の瀧、九町にして第三の瀧がある、第一の瀧に近く熊野夫須美神社及青岸渡寺がある。新宮より那智に至る途、三輪崎、字久井の海岸も亦風光の美なる所である。

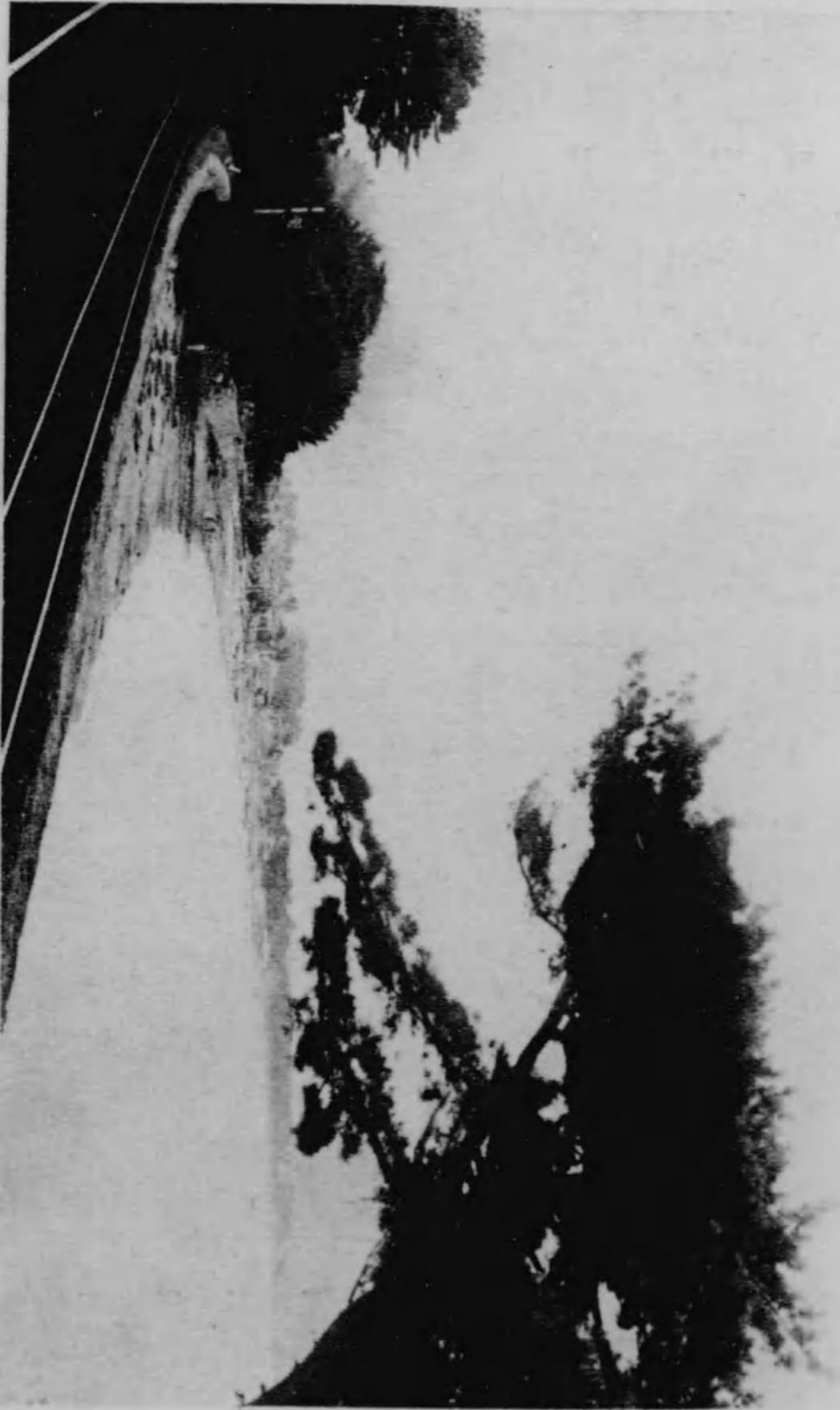
大和路の宮も藁屋も乙鳥哉
大峯やよしの、奥の花の果
月おほろ高野の坊の夜食時
蕪村
橋良
蕪村

山陽線

山陽線とは

- 一 山陽本線 神戸、下關間三二九哩三分、兵庫、和田岬間一哩七分、及貨物支線。
- 二 播但線 姫路、和田山間四〇哩九分、豆腐町、飾磨間三哩三分。
- 三 宇野線 岡山、宇野間二〇哩四分。
- 四 吳線 海田市、吳間一二哩四分。
- 五 宇品線 広島、宇品間三哩七分。
- 六 山口線 小郡、山口間七哩九分。
- 七 大嶺線 厚狹、大嶺間一二哩二分。

の總稱で、其本線は帝國鐵道幹線の一部を爲し、神戸を起點として瀬戸内海に沿うて西し、姫路、岡山、尾道、広島等の都市を貫いて、下關に至りて止まるのである。下關よりは門司に渡る連絡船ありて、十五分にして九州線と連絡し、又釜山との連絡船あり、一週三回は鮮滿直通急行列車に連絡する爲め十時間三十分、其他は十一時間で朝鮮鐵道と連絡する。列車の運行は



山陽線 須磨寺

塔義忠寺岳華



西大寺會陽



宗忠神社



宮津備吉

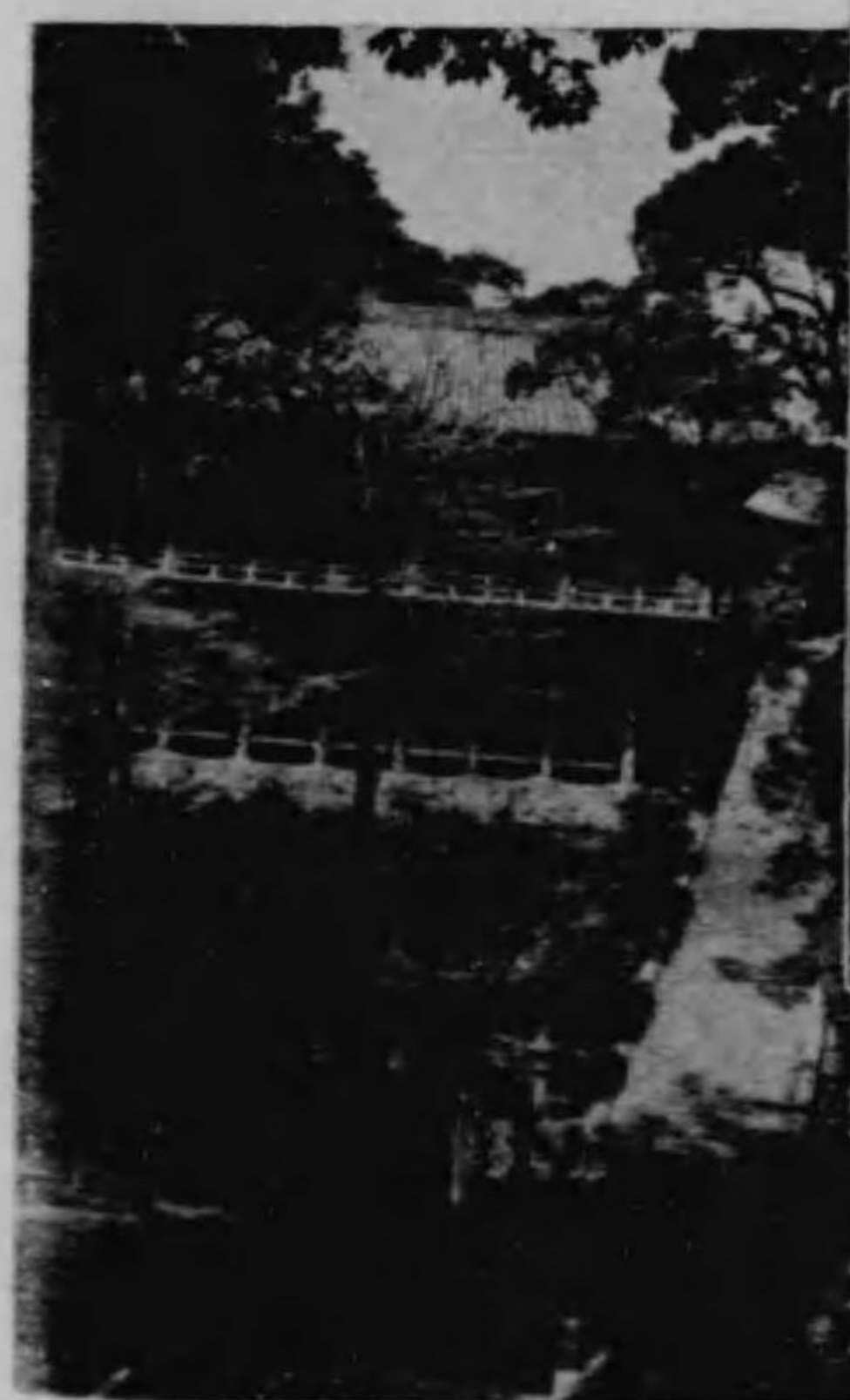
園遊磨須



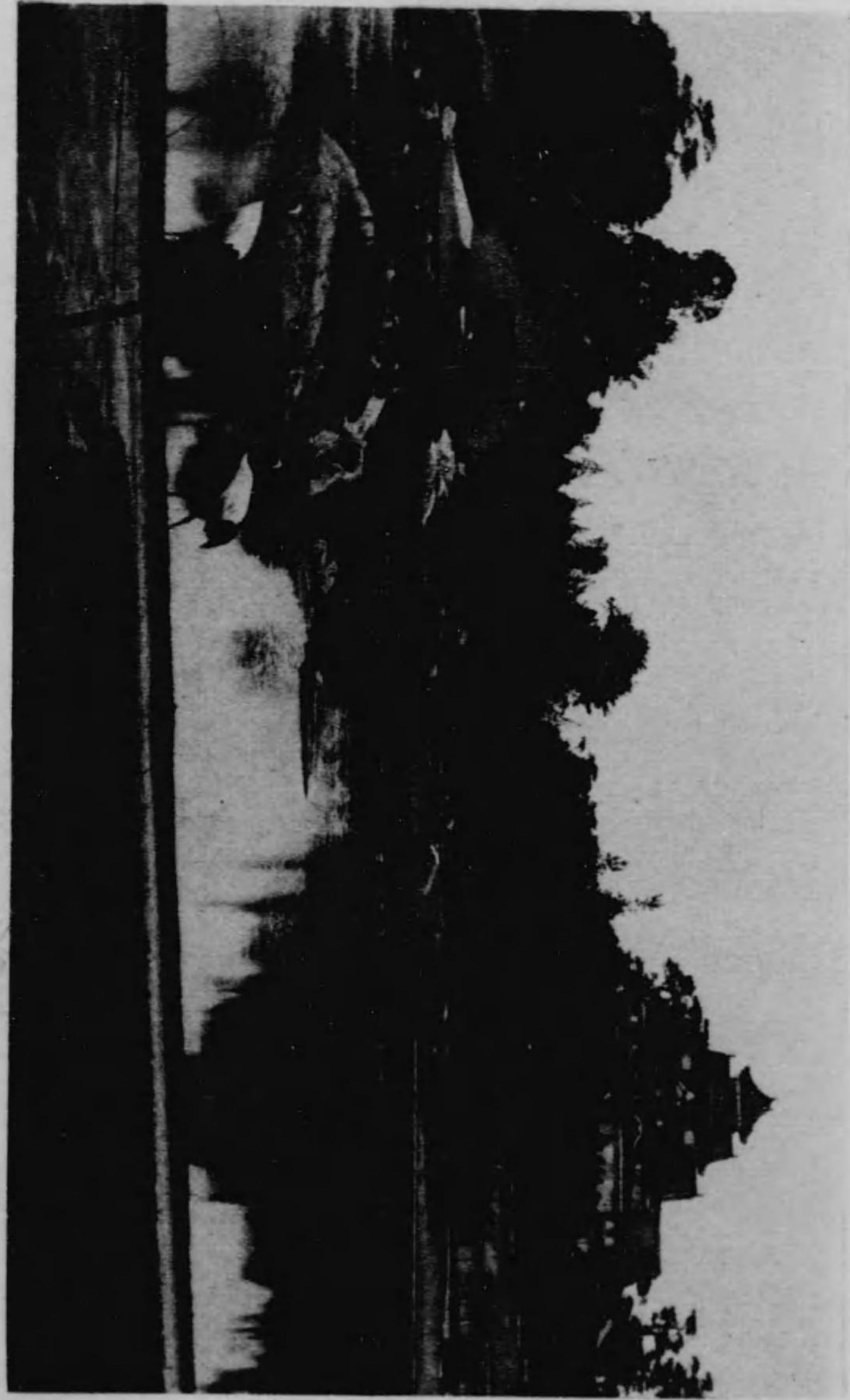
岸海子舞



寺教圓山寫書



址城路姫



園樂後の山岡

福山城址



新港



阿伏兔観音

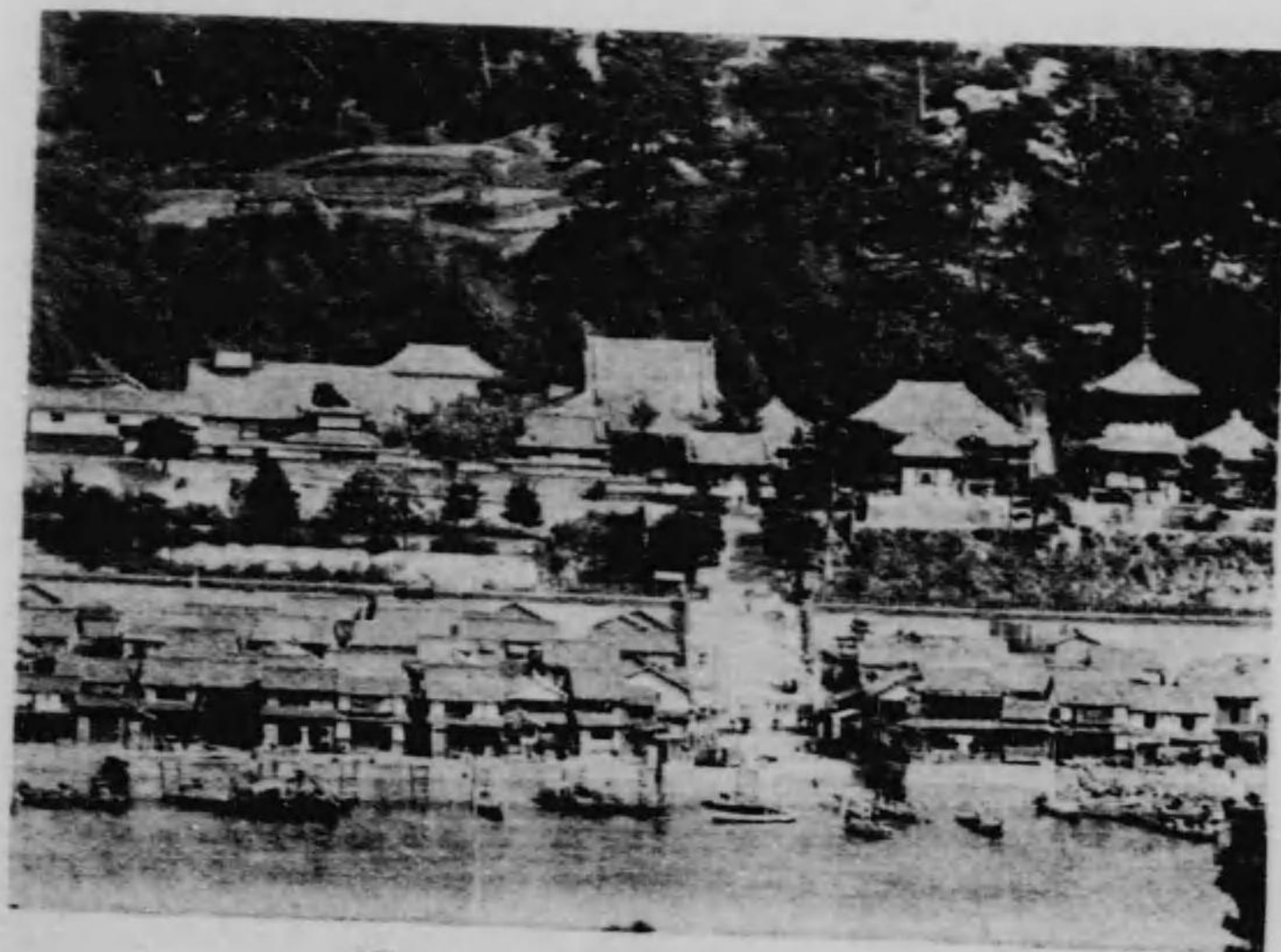
廣島縮景園



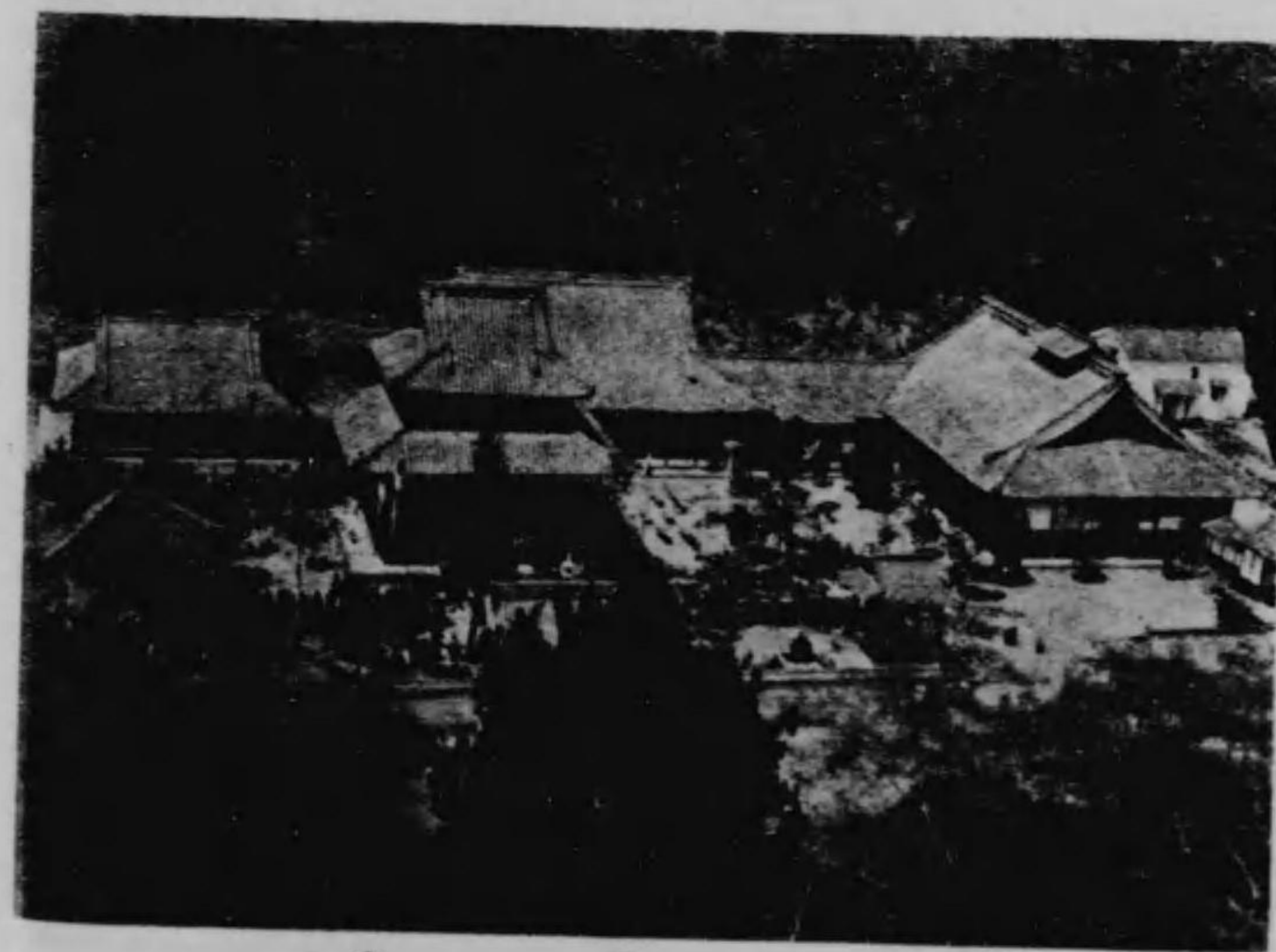
饒津神社



宇品港



尾道港



佛通寺

岸海の近附松下



三田尻鹽田



堂山露園山香

社神島巖



巖島神社大鳥居



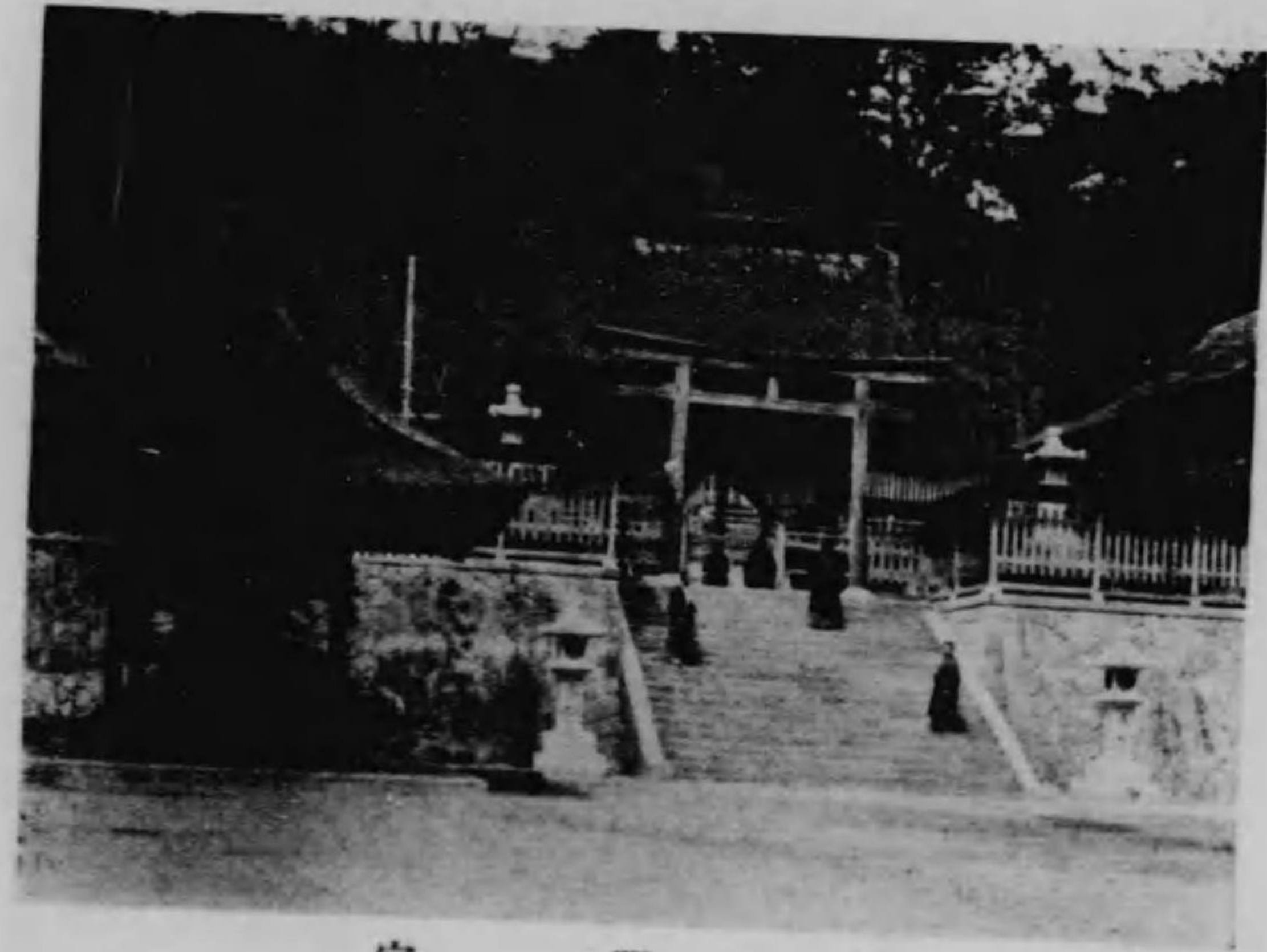
橋帶錦

下關に直通するもの京都より二回、東京新橋より四回あり、新橋より直通の内一回は特別急行列車で、同列車に頼れば、新橋より約二十五時間、京都よりは約十四時間、神戸よりは約十二時間間で下關に達する。別に北陸線を通じて信越線新潟と本線姫路との間にも直通列車の運転あり、新潟、姫路間二十五時間を要する。

神戸を後にして明石に至る間、右には一帯の翠巒屏風を樹て、左は紀泉の山遠く煙を爲し、淡路島は近く呼ばば將に應へむとして居る、而して汽車は青松白沙の間を縫うて走り、優艶明媚また飽くを知らない風光である。姫路よりは南の方飾磨、北の方和田山に至る播但線あり、本線は姫路城の白壁を後にして、右に増位山、廣峰山、書寫山を仰ぎつつ進み、楢保川を渡るのである。有年よりは鐵路弓の如く迂回して、備後三郎が義舉に名高い舟坂山の長隧道を過ぎて岡山を指す、岡山よりは南宇野に至りて四國線との連絡を爲す宇野線あり。本線は更に西して笠岡に至りて再び海光に接し、須磨明石以來久しく平凡なる山野に厭いた旅客をして、思はず目を拭はしむるのである。見よ前面深碧な海波に長く横はるは神島で、片島の青螺之に連り、更に遙に養島を隔て、沼隈半島と相對する處、風光の美正に一個の好畫圖である。尾道に至れば風光愈美に、旅客をして眼に暇なからしむるであらう。三原よりは海光に遠ざかりて藝州の山野を走る。河内、西條驛あたり、低山性の峰巒起伏し、溪流潺湲嵐氣綠を拖いて居る、海田



下 關 海 岸



赤 間 宮

市に至れば三度海光に接し、こゝに南して吳軍港に至る吳線を岐ち、廣島よりは其海港たる宇品への支線がある。

廣島を背にすれば、やがて宮島の青螺が眼界に現はれて来る、翠綠鬱蒼たる島の前に、大鳥居が夢の如く海中に立ち、其後に蜃氣樓の如き廻廊の連なるは嚴島神社、社の左方丘上高く聳ゆるは千疊敷及び五重塔である。宮島より西、玖波、大竹あたり、大島附近、下松、徳山、福川あたり、鐵道瀬戸内海に瀕して風光甚佳、特に下松附近魚ヶ邊一帶の海岸、奇岩怪石汀邊に横はりて、笠戸の島低く波に浮ぶ所、佳景云ふべからざるものがある。厚狭に至れば北の方大嶺に至る大嶺線あり、本線は尙西して、埴生驛あたり左窓系根の松原を隔て、豊前の連峯を望み、長府よりは下關の背後に伏起する丘陵の間を縫うて迂曲し、間もなく下關に達する。宇品線、山口線、大嶺線は本線に附記してある。

山陽本線 神戸—下關

●兵庫 ●神戸市内の一驛、これより和田御に至る支線あり、
○能登寺大佛、東八町、電車賃三錢、○清盛塔、東南十二町、
●廣取 ●勝福寺梅林、北五町、○彌昌寺、北半里、紅葉

の勝あり、○五月寺、東七町、○廣取山、東北半里、○長田神
社、東北廿町、官幣中社に列す、●須磨、明石、曾根間 ●

須磨、明石
海邊及
鹽名所
所巡

須磨、明石附近は京阪神の人の四時遊杖を曳くの地で、恰も鎌倉、逗子附近の地の京濱の人に於けると同一である。須磨は水碧沙明太だ優雅の地で、加ふるに源氏の君、行平の風流、平門一時の夢など、自然の勝景に史的の趣味を添へて、人をして懐古の情に堪へざらしむるのである。須磨寺は驛北八町、電車賃四錢、源平常時の遺物を存して居る、境内今遊園となつて居る、古の須磨の關の址も此附近にある。行平の松風村兩堂は東北十五町、沙汲む蟹の哀れさ覺えて旅人の袖も濡るゝであらう、堂の北なる小丘は月見山とて、行平が月を愛でた處と云ふ。海濱は即ち須磨の海、そのかみ直實が敦盛を招いた所は何處かとなつかしい。一の谷は西七町、北に鶴姫、鐵拐ヶ峯時ち、淺溪の三所あるのを一の谷、二の谷、三の谷と云つて居る、谷の上方壽永帝の内裡址と云ふのがある、翠華一度去つて春秋七百歳、今唯松風の音を語るのみである、三の谷の西、海に近く五輪石塔がある、これは北條貞時が平門修福の爲に建てたものであるが、何時の頃よりか敦盛塚と呼ぶやうになつた。塔の西七町、細流がある、これが播磨の界川で、芭蕉が「かたつむり角ふり分けよ須磨明石」と詠んだ處である。

川の西は明石の里で、鹽屋は近時海水浴地として知られて居る。舞子驛は松林の中であり、松は高さ二三丈に過ぎず、おほむれ其梢を齊うして枝幹屈曲して居る、木の高きは舞ふが如く躍るが如く、低きは臥すが如く、蟠るが如く、一樹には一樹の趣態あり、百樹には百樹の風韻がある、沙はさながら白玉を散らすかと思はれ、南明石海峡を隔てゝ近く淡路島と相點頭き、青松碧波一色をなす處、白帆點々其間を縫う

て居る。

明石に至れば、西北三町、一群の老杉森然たる中に、高く白堊の隠見するのが見える、これが舊松平氏の明石の城である、城に續いて居る丘陵は人丸山で、歌聖人丸を祀つた祠がある、驛の東北八町人力車賃九錢、祠前は眺望よく須磨明石一帯の風光を占斷して居る。海水浴場は驛の南八町、中崎遊園といつて居る、人力車賃十錢。

岩屋は淡路島の北端で須磨明石と相對し、海水浴場である、明石からは毎日數回の汽船便がある、船賃十三錢、繪島は岩屋明神の磯邊についた一塊の丹石で、之を望めば、赤珠あまた凝り集つたやうである。石紋は自ら人物花鳥の象があり、彫れるが如く繪けるが如く、玲瓏として愛すべき趣がある、島は平で席を設けたやうに、海潮に臨んで居る、月明の時最賞遊するに足るのである。

明石の西、土山、加古川、寶殿、曾根各驛の海岸に、播磨名所巡りと唱へた名勝がある、人力車賃土山下車名所巡りの上寶殿驛まで金壹圓、土山に下車して西南に向へば、砥の如く坦道夢馳の間を貫いて居る、一里十町にして別府に至り、住吉神社の華表を入れれば手枕松がある、清隆四十歩の地に布き、龍幹虎槍縱横に蟠蟠して居る。別府より西行二十二町、尾上神社内に相生の松がある、雄雌兩松根を同じうして生じ、雌枝に雄葉あり、雄梢に雌葉があり、誠に奇製である。相生ノ松に隣りて都戀しき片枝ノ松あり、枝盡く東に向つて居る。社前の鐘堂にある尾上ノ鐘は、神功皇后の三韓より齎らしたまうたもので風韻凡ならず、之を鳴せば音響朗に、遙なる海上に澄むと云ふので響灘の名がある。それより聖德太子宮居の舊蹟なる鶴

林寺に詣で、轉じて加古川の長橋を渡れば、高砂神社内相生の松がある、尾上の松と同じく、謡曲に隱れなき雌雄合體の奇松で、千秋の契りめでたく、枝葉四方に蜿蜒として偉觀を呈して居る。このあたり海邊の眺望明媚である。高砂を後に荒井川に至れば、河心二つに裂けて二箇の長橋之に懸り、上流の二橋と相連りて巨蛟の相逐ふが如き景をなして居る。橋を渡れば伊保崎村で、岐路の石標に、「右すれば石の寶殿左すれば曾根の松」と刻してある、松は曾根天満宮境内にあり、普公手植の松は、寛政の頃枯木となりて遺株尙存して居る。今の松は二代目實生のもので、齡は百數十歳に過ぎないが、龍幹高さ三丈周り二丈、枝の長さ十二丈に餘り、恰も一大青嶽を張れるが如く、風彩の壯美、四所中の第一である。石の寶殿は名所中の最奇觀でゆるぐが如き一塊の巨巖、恰も社殿を横さまにしたやうで、方二丈三尺高さ二丈六尺、周圍常に水を湛へて、宛も池中に泛んで居るかと思はれる。寶殿の南數町の山腹に一大巖壁があり、觀瀾處の三大字を刻してある、丘上に登れば、山南數里に亘れる郊村の風光より、波靜かなる滄海を瞭望し、家島群島を水面に拾ふことが出来る、山を下れば山道一直、二十町にして寶殿驛に着くのである。

●御著 ● 國分寺、西二町、●麻生山、西南十町、播磨富士の名あり、●姫路、市は播磨の中央、沿海の平野に在り市川に臨む、播但線の分岐點である、元酒井氏の城市で、城は曾て秀吉の築いた世に名高い白晝城、五層の天主閣屹として牛空に聳えて居る、人力車賃十一錢、今第十師團の營所である、市

は人口四萬一千人を有し、姫路車、姫路方線を産する。●對面●兵主神社、北十町、●船場本徳寺、西十一町、●龜山本徳寺、西南半里、●網干、●船場鳩寺、北半里、●電車賃四錢、●聖德太子の起した法隆寺別院である、●魚吹八幡宮、南一里、●龍門寺、南一里五町、●電車賃七錢、●龍野、●龍野町は北一

里十町、醤油を産す、網干より電車の便がある、町の中央部野城址に聚落亭あり、風光の美を収めて居る、○林田梅林、東北三里半、○室津港、南二里、徳川時代西國大名参現往來の著岸、港内の風光最佳、○那波、○赤穂、南三里、馬車賃三十錢、大石良雄等四十七義士の出所地名高い、鹽の産地である、大石櫻、大石屋敷、華岳寺内の墓等、元祿の昔を追想せしむるものが多い、○上郡、○白旗城址、北二里、○三石、○舟坂山、東北十町、○吉永、○芳嵐園、西北廿五町、人力車賃十八

錢、櫻花が多い、村内寶成寺に和氣清麿の碑がある、○関谷、南廿町、人力車賃二十錢、池田光政の創立、熊澤藩山の子弟を輩出した處、○和意谷池田家廟墓、西北二里、○和氣、○安養寺、東北十町、○豐澤泉、北七里、○天神山城址、西北一里、○西大寺、○西大寺、南一里、輕便鐵道賃金九錢、○言宗の古刹、二月十四、五兩日會開あり、賽者數千人競うて旗木を取る、頗る奇觀である、○岡山

岡山及附近

岡山市は中國屈指の大都會で旭川に跨り、岡山平野に位置を占めて居る、もと池田氏の城市で今人口九萬四千人を有し本邦第十二位の都會である、紡績絲、花菱等の輸出が多く、綾羅、紋苧、小倉織、綿ネル、生絲、米穀等の取引が盛である、鐵道はこゝより分岐して南する宇野線あり、宇野よりは四國高松への連絡船あり、僅に一時廿分を要するのみである、別に中國鐵道あり、北は津山、西は濠井に達して居る。城は一に烏城と云ひ、宇喜多氏の修築したもので、天主閣は尙雄然として古の壯觀を存して居る。後樂園は驛より東十六町、電車賃五錢、旭川を隔て、直に岡山城と相對し、林泉の美に富んで居る。地は西南稍高くて丘阜の狀を爲し、雜樹蒼鬱として宛然深山に入るの感あり、東北は平夷で園外の風景亦矚目の中に入るのである。園中四ヶ所の池沼を鑿ち、渠を通じて水を旭川の上流より引き、回流して復旭川に入つて居る、一脈の水流或は瀬となり或は瀧となり、岩を噛み苔を洗ひて迂回し、

以て園の風致を加へるので、延養亭、望湖閣、茂松菴、廣池軒、流店、一亭一樹眺望各趣が變つて居り、仙鶴悠悠池畔に逍遙して人に馴れて居る。春花秋葉夏晴冬雪、四時の光景一として佳ならざるはない。備樂園は東山公園といひ操山にあり、驛より東南卅町を隔て、居る、電車賃五錢、下車後人力車賃十錢、遙に兒島灣を望み、風光明媚である、人工の美は後樂園には及ばないが、天然の勝却て此に多いやうである、和氣清麿、兒島高徳、楠正行の三靈を合祀した三動神社も茲に在る。市内に岡山寺、國清寺、蓮昌寺の三大刹がある、岡山寺は驛の東南七町、もと岡山城主金光氏の菩提寺で城内に在つたのを、宇喜多氏築城の際今の地に移したのだと云ふ、國清寺は東南廿二町、池田氏累世の香華院である、蓮昌寺は東南十町、日蓮宗の巨刹である。宗忠神社は市の西南一里、人力車賃十八錢、謂ゆる黒住教會の本社で社殿甚壯麗である。岡山より中國鐵道の津山線に頼れば、誕生寺驛に近く誕生寺がある、淨土宗祖源空上人の誕生地で山紫水明の境である。津山は美作山地の中央なる津山盆地に在りて、津山川の北岸に町を爲して居る、美作の中心として重きを爲すばかりでなく、山陰街道の要衝に當つて居る、元松平氏の城邑で、雲齋織、ボール紙を産する、鶴山公園、總社神社等がある。院の庄は津山の西北一里、元弘の昔後醍醐天皇の隱岐に蒙塵せられた時の行在所で、かの兒島高徳が夜櫻樹を削りて、天莫空勾踐、時非無范蠡と題した齋跡だと傳へ、今天皇及高徳を祀れる作樂神社がある、境内には櫻樹が多く誠忠萬葉の花と咲いて居る。岡山より中國鐵道濠井線に頼れば、一宮驛に近く備前吉備津彦神社、吉備津驛に近く吉備津宮がある、山陽線庭瀬驛より北一里を隔て、人力車賃十六錢である、社は今官幣中社に列し、三備三社第一の古社で、

備前のと相距る僅に十町餘に過ぎない。祠宇は頗る古風を遺して、規模の宏大なる建築の莊麗なる、安藝の殿島と其左右を争ふので、長さ百八十間の廻廊がある、社内御釜の御殿あり、賽者阿曾女に請うて吉凶禍福を卜するが例である、社後の丘岡は即ち吉備の中山で、絶頂にある瓢形の大塚は、吉備津彦命の御墓である、一條の小流この山に發し、祠域を横ざりて居るのは古歌に名高い細谷川である。高松水攻の古城址は同線稻荷驛の北八町、天正十年秀吉、清水宗治を此地に圍み、河邊川の水を引いて城兵をして釜中の魚たらしめたのは、史を讀むもの、皆知る所で、今僅に石堰の跡をとめて居る。

豪溪は庭瀬驛の西北五里、人力車賃九十錢、中國鐵道湛井驛より一里廿五町、巖無數横谷川の溪流を歴して屏立し、矮樹稚松巖面に點綴茂生し、幽邃の趣を爲して居る、畫家雪舟の筆致は此風景の感化を受けたことが多いといふことである。

倉敷の倉敷公園、南一町、○帶江觀音、東南一里、
玉島町は縣南廿七町、人力車賃十六錢、四國との交通の衝に當り、備中第一の要港である、港頭柏島の丘上の圓通寺は眺望のよい所である、養父ヶ島は港の南半里、全山古松を以て蔽はれ、戸島神社あり、日光佳である、○吉備匠備匠、東北一里半、○金神、○金光神社、東南三町、岡山の黒住神社

福山、尾道附近
福山は蘆田川の下流に在り、市街は海より離れて居るが、尙潮水溝渠を通じ運漕に便である、もと阿部氏の城邑で天守閣尙も残つて居る、綿絲、生絲、纒綿、素麵等の産がある。

と共に地方有数の流行神である、○沙美海水浴場、東南一里十町、人力車賃三十錢、○寂光院、南廿二町、○笠岡、備中の一要津、生跡養親眞田を流する、○古城山公園、東一町、○廣瀬山、東一里、○神島海水浴場、海上南二里、附近高崎、白石島、北木島、眞鍋島、大飛島、小飛島等あり、島廻りをすれば興が多い、○福山、尾道。

瀬戸内の海岸に至る處風光に富んで居る、中に瀬ノ津、尾道は特に其名を知られて居る、旅客福山驛に下りて、今公園となつて居る福山城に至り、五層の天守閣の尙巍然として雲表に聳えて居るのを仰いだらば、更に南して瀬津に行くがよい、瀬は瀬戸内海の要津で福山の南三里、輕便鐵道賃金二十一錢、神功征韓の時、此地に兵船を艦裝し、瀬を以て神明を祭られた故事によりて瀬と云ふ名が起つたのだと云ふ、名産は保命酒、鱒である、港の南に玉津島、津輕島あり、東に辨天島、仙醉島あり、中に仙醉島の風光が最も、島は皆松、翠色白波に映じて畫を見るやうである、六灣あり、西南の灣中に海水浴場がある。港の海に臨む處に眞言宗の巨刹福禪寺がある、海山の勝景を攬り、特に一樓を設けて對潮樓と名づけて居る、樓の下に横はるは即ち仙醉島で、正徳年間朝鮮聘使李邦この地を過ぎりて、風光を嘆美し、「日東第一形勝」の六字を題したと云ひ、今樓の欄間に掲げてある。寺の後丘沼名前神社あり、社頭の眺觀また對潮樓に譲らないのである。瀬より海岸に沿ひ、西に迂廻すること一里すれば一岬海上に突出して居る、これが阿伏兔の岬で、口無の瀬戸を隔て、田島と相對して居る、瀬戸は濶き二縫で潮流急である、漲潮は南方に向ひ落潮は之に反する、瀬戸内海航行の船は、多く此瀬戸を通るので風帆離烟常に絶ゆることがない、晴暉の上大悲閣あり、觀音を安置してある、水濱より磴道を開き、廊を造りて之を蔽ひ、廊の中段に鐘樓がある、閣は潮より高さこと九十二尺、欄に凭て下瞰すれば、海山の眺望奇絶、身は空外に懸つて居るやうである。

尾道は前後第一の海市で瀬戸内海運船業の中心地である、殊に四國連絡の重要港で、東洋汽船を介して

多度津、今治への連絡便あり、多度津まで四時間を要するに過ぎない、伊豫の道後温泉に遊ばむと思ふ人も茲より高濱への汽船便に頼るがよい、船賃三等九十一錢、市は今人口三萬人を有し、花菴、疊表、酒等を産し、所謂備後表の生産地である。地形は大寶愛宕の二山其後に峙ち、向島其前面に横はりて一海峡をなし、海山の展望まことに温藉である。この風光を見やうとするには、大寶山に在る千光寺がよい、寺の後五六町登れば大寶山嶺、展望吉備第 である、見渡せば幾十の青螺眼下に錯落して、海は正に幾多の平湖をなし、遠くは伊豫讃岐の翠巒煙るが如く、絶勝譬ふるものがない。この地は佛閣多く、四十八寺と唱へて居る。中に千光寺、西國寺、淨土寺を三大伽藍といひ、皆山に據つて居るので望観に富んで居る。西國寺は驛東十五町、堂塔宏壯である、寺内古松の幹に櫻の寄生樹あり、花時異觀を呈する、淨土寺は驛東廿町、瑠璃峰の麓に在り、中國屈指の名藍である。

○糸崎 開港場の一、最近貿易額二百八十七萬圓に上る。
 ○能地の浦の浮網、西南海上三里、大崎下島、生口島の梅林、海上八里汽船便あり、花候紅繻羅として天も亦醉ふ、附近大小の島嶼星羅棋布し、瀬戸内海の美を盡して居る、夏期海水浴に適する。
 ○三原 小早川氏の舊城下、後に山を背ひ前は直に海に臨んで居る、城址は驛の北に接し今公園となつて居る。
 ○妙正寺、五町、城地山に倚り海に就んで眺望佳、西野梅林、西十三町、本郷、佛通寺、東北一里中、人力車賃三十二錢、

臨濟宗の本山、安藝の高野と云つて居る、境内奇巖重疊して老枝樹を交へ、激湍奔流中を貫きて境を二分して居る、東南を伏龍窟、西北を猛虎岩、川を活龍水と稱する、上流三級の瀑あり、誠に塵外の境である。○米山寺、南廿五町、○小早川城址、北八町、○河内、竹林寺、西廿町、○深山公園、北十町、○西條、香妻子の墓、南一里、○海田市、○吳線の分岐點、○府中多郎理官、西一里、神武天皇行在の古蹟である、廣島、宮島間、

嚴島略圖

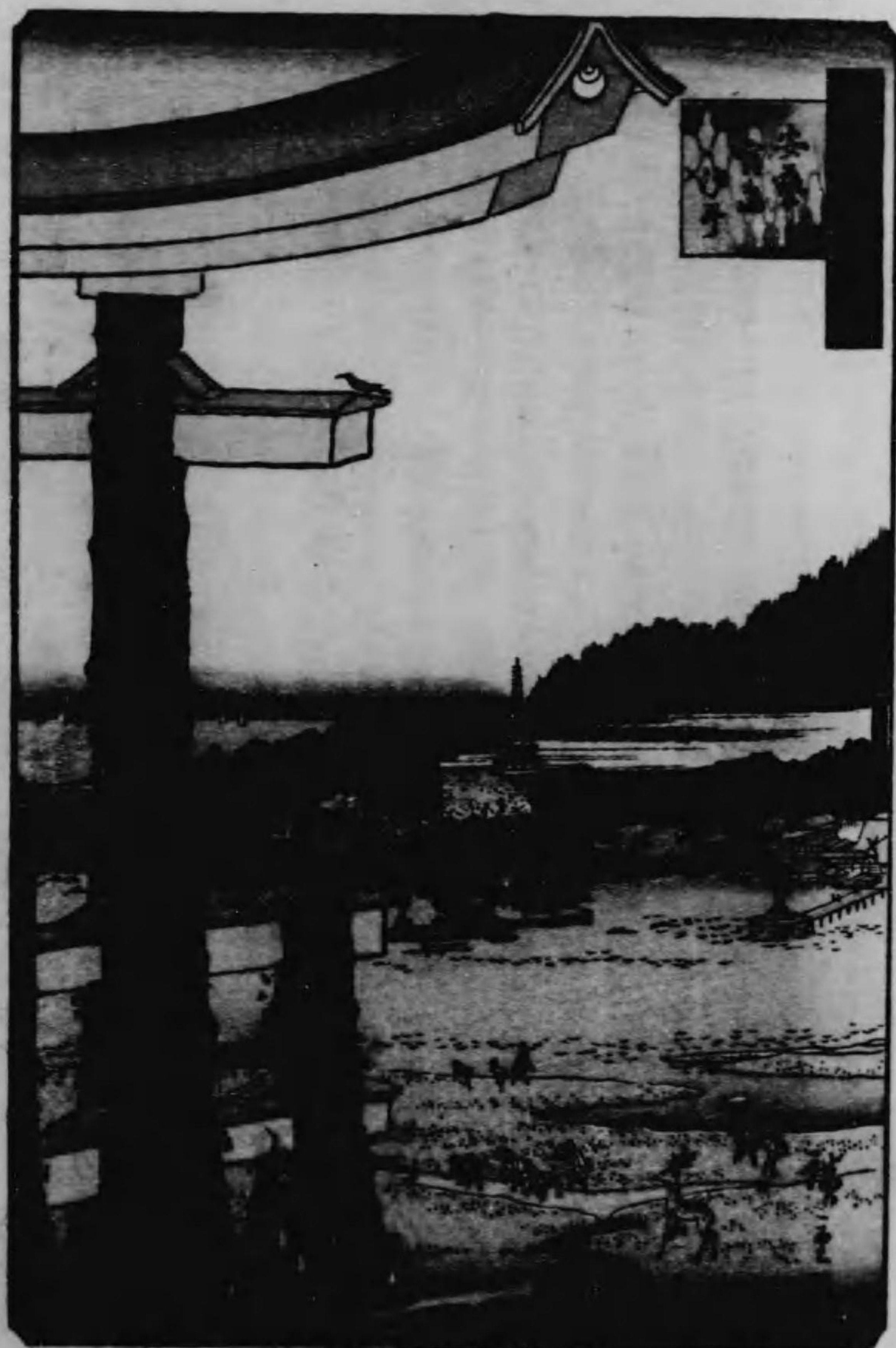


嚴島は、伊豫半島の北端にあり、今人口三萬人を有し、花菴、疊表、酒等を産し、所謂備後表の生産地である。地形は大寶愛宕の二山其後に峙ち、向島其前面に横はりて一海峡をなし、海山の展望まことに温藉である。この風光を見やうとするには、大寶山に在る千光寺がよい、寺の後五六町登れば大寶山嶺、展望吉備第 である、見渡せば幾十の青螺眼下に錯落して、海は正に幾多の平湖をなし、遠くは伊豫讃岐の翠巒煙るが如く、絶勝譬ふるものがない。この地は佛閣多く、四十八寺と唱へて居る。中に千光寺、西國寺、淨土寺を三大伽藍といひ、皆山に據つて居るので望観に富んで居る。西國寺は驛東十五町、堂塔宏壯である、寺内古松の幹に櫻の寄生樹あり、花時異觀を呈する、淨土寺は驛東廿町、瑠璃峰の麓に在り、中國屈指の名藍である。

廣島
及
嚴島

廣島は大田川の成せる三角洲上に立ち、背後に廣島平野を控へ、南は直に海に臨み、宇品港を以て其埠頭として居る。元淺野氏の城市で、人口十四萬三千人を有し、中國第一、本邦第八位の都會である。大田川は市内に入り、四派に岐れて貫流して居るので、宛然水の都と稱せらるゝ。大阪を見るが如く、然も市瀆の風に於ても其籠を大阪に採つて居るやうである。物産は、傘、蚊帳、牡蠣、海苔、藍、綿、山繭袖等とし、就中傘は市の特産で、牡蠣、海苔は大田本川の末なる江波が主産地である。廣島城は驛の西半里、電車賃五錢。毛利輝元の創築したもので、尙天主閣を存し、今第五師團の營城である。二十七八年の役、明治天皇親征駕を廣島に駐め、城中を以て大本營となし、軍國の事を統べ給ひ、我軍大捷武威八表に揚つた。此地實に國史の上に不朽の名を得たのである。三十三年の北清事變、三十七八年戦役に際しても亦策源地であつた。驛の北十二町、樹木の鬱茂せる丘陵は二葉山で、今公園となつて居る。園内舊藩祖長政を祀れる饒津神社がある。人力車賃七錢。淺野侯の縮景園は西九町、人力車賃十一錢。一に泉邸と云ひ、泉石花卉の勝風に世に聞えて居る。比治山公園は西南十町、市の東邊に横はる丘陵である。園内日清の役に際し、臨時廣島帝國議會議事堂内に在つた紀念御便殿を移して、御眞影及當時の御物を奉置してある。江波公園は西南一里、人力車賃二十三錢、市の西南端に斗出せる小丘で海の眺がい。佛護寺は西一里、市内第一の大刹で今本派本願寺別院となつて居る。其他國壽寺、誓願寺、不動院等の名刹がある。

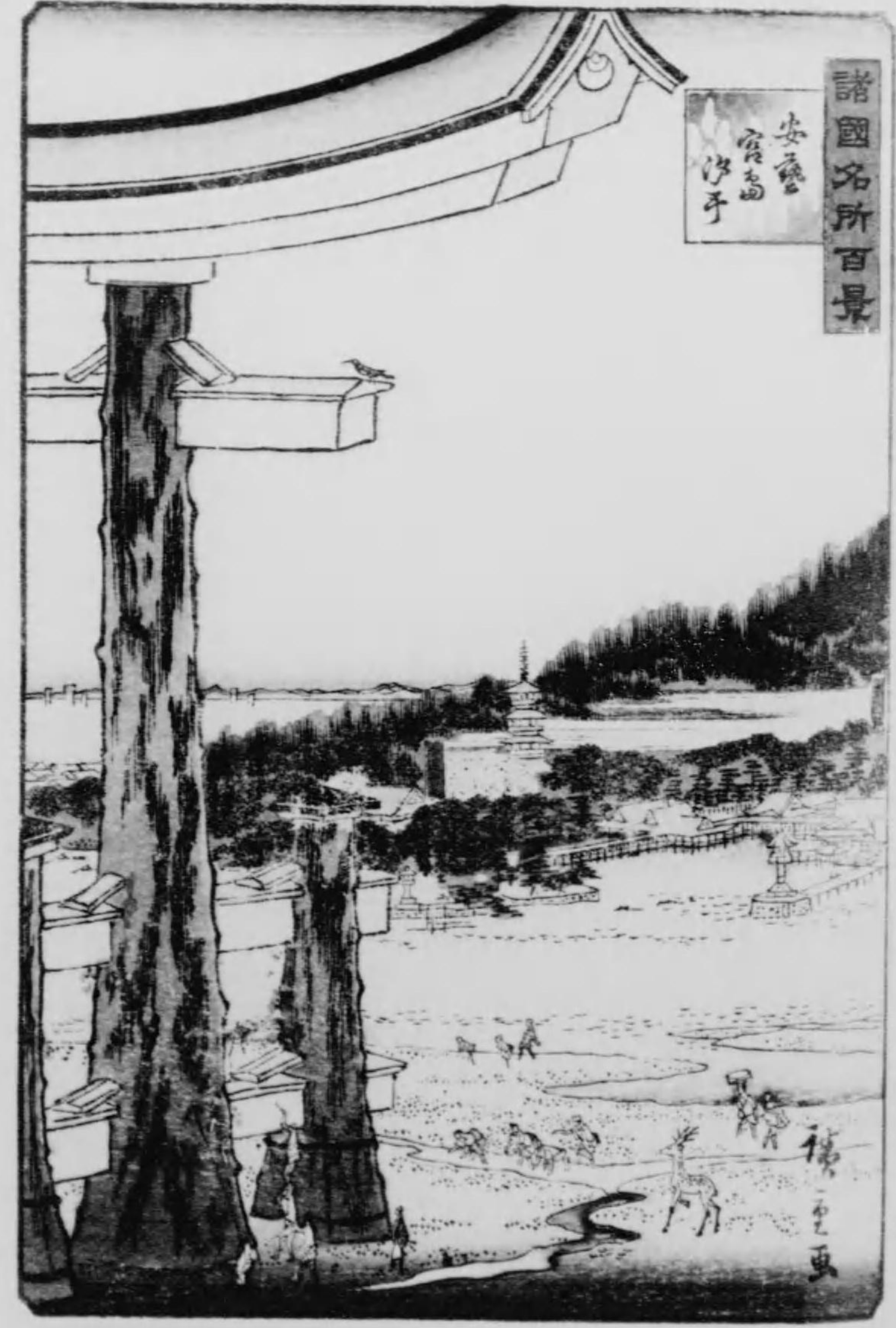
宇品は廣島の海港で、二十七八年戦役以來、軍事上重要な兵站基地として、其名世界に著はれ、市の繁



華を來したのも、亦この港を有するが爲である。廣島驛より宇品支線の敷設あり、瀬戸内海、四國、臺灣航路の要津である。港西の宇品島は橋梁相通じて居る、觀音堂あり、眺望がよい。

廣島を後にして横川、己斐、五日市を過ぎて二十日市に至れば、海濱に老樹鬱々たる丘がある、これが櫻尾城址である、洞雲寺は驛の北五町、陶全姜の墓がある、嚴島に至りて、陶、毛利二氏興亡の址を偲ぶもの、まづ此地を訪はねばならぬ。

藝州の勝は嚴島が第一である、宮島驛に下車すれば汽車の時間と連絡した小汽船がある、十五分にして、風光明媚なこの別天地に運ぶであらう。島は廣島灣の西南、佐伯郡の陸に沿うて、東西三十町、南北二里半、其北偏に嚴島神社があり、風光秀麗な境を占め、殿開海に向ひて、水中に基礎を建て居る。其結構を見るに、大宮及客神社の二大部より成り、大宮、寶殿、其中央にあり、幣殿、拜殿、祓殿、其間にあり、祓殿の前に高舞臺、其左右に平舞臺あり、樂房それについて左右に分れ、門客神社、樂房と並びて左右に立て居る。廊下は火燒前といひ、更に海に突出すること七間餘、遙に海中の大島居と相對し、其一端に一大燈籠を設けてある。寶殿の左右に廻廊あり、屈曲四十八間の長きに互り、一間毎に鐵燈籠を釣つてある、潮來れば廣斥波忽ち生じ、百燈長く照映して、光彩陸離名狀すべからざるの美觀を呈するのである。有名な海中の大島居は、火燒前の前方七十間、軟沙の上に立て居る、満潮の時は、參詣の舟白帆を掲げて潜り入ることが出来る、本殿より左折して廻廊を廻れば客神社で、寶殿、拜殿、幣殿、祓殿、並び備はつて居る、社殿の後方に在る圓形の一瑤池は鏡ヶ池といひ、月夜明鏡の裏、嫦娥其嬌容を映するのである、殿



諸國名所百景

安藝
宮島
沙手

徳重

華を來したのも、亦この港を有するが爲である。廣島驛より宇品支線の敷設あり、瀬戸内海、四國、臺灣航路の要津である。港西の宇品島は橋梁相通じて居る、觀音堂あり、眺望がよい。

廣島を後にして横川、己斐、五日市を過ぎて二十日市に至れば、海濱に老樹鬱々たる丘がある、これが櫻尾城址である、河邊寺は驛の北五町、陶全姜の墓がある、嚴島に至りて、陶、毛利二氏興亡の址を偲ぶもの、此地を訪はばならぬ。

藝州の勝は嚴島が第一である、宮島驛に下車すれば汽車の時間と連絡した小汽船がある、十五分にして、風光明媚なこの別天地に運ぶであらう。島は廣島灣の西南、佐伯郡の陸に沿うて、東西三十町、南北二里半、其北偏に嚴島神社があり、風光秀麗な境を占め、嚴島海に向ひて、水中に基礎を建て、居る。其結構を見るに、大宮及客神社の二大部より成り、大宮、寶殿、其中央にあり、幣殿、拜殿、祓殿、其間にあり、祓殿の前に高舞臺、其左右に平舞臺あり、樂房それについて左右に分れ、門客神社、樂房と並びて左右に立て居る。廊下は火燒前といひ、更に海に突出すること七間餘、遙に海中の大鳥居と相對し、其一端に一大燈籠を設けてある。寶殿の左右に廻廊あり、風曲四十八間の長きに互り、一間毎に鐵燈籠を釣つてある、潮來れば廣斥波忽ち生じ、百燈長く照映して、光彩陸離名狀すべからざるの美觀を呈するのである。

右名な海中の大鳥居は、火燒前の前方七十間、軟沙の上に立て居る、満潮の時は、參詣の舟白帆を掲げて滑り入ることが出来る、本殿より左折して廻廊を廻れば客神社で、寶殿、拜殿、幣殿、祓殿、並び備はつ

關の前方、左右の江濱松並木あり、松に傍うて百八の石燈籠がある、此あたり麋鹿遺迹して人に親しむのである。凡そ此神社の結構は、江山自然の形勝を利用して、殿閣廊廡の排布を爲し、高きに攀ちて俯視すべく、舟に泛びて遠望すべく、江山樓閣相掩映して、無限の妙趣を見るのである。

御手洗川を渡れば大願寺がある、海に沿うて更に西すれば大元神社、境内今公園となつて居る。大元浦の後山には二層の寶塔がある。紅葉谷は公園で、小洞幽邃、御手洗川潺々として石上に奔る處、岸の兩邊楓樹多く、危橋架り、怪岩横はりて景趣をなして居る。宮の東側の塔岡は陶暗賢の陣を構へた處で、北方町家を隔て、毛利氏の戍兵を置いた要害鼻を望むことが出来る、岡に豊公の築造した千疊敷、及五重塔がある、要害鼻は汽船棧橋の上方で、元就は茲に兵を置いて陶の大兵を誘致したのである。海岸に沿うて北に行けば長濱、海水浴に適する。御山は大宮の後なる秀嶺の峰、登路廿八町、頂上の觀望廣瀾である、登路に白糸の瀧あり、瀧の宮あり、夏の夜は螢の多い所である。

島に杉浦、鷹巢浦、腰細浦、青海苔浦、山白濱、洲屋浦、御床の浦の七浦あつて、各浦に江比須祠を祀つて居る、「安藝の宮島まれば七里浦は七浦七江比須」風光の變化に富める、煙波の趣致多き、島巡りも亦興が多からう、和船十人乗一艘賃金二圓、二十五人乗一艘三圓五十錢、巡拜は嚴島神社監督の下に行はれ、一行三船より成り、第一船には神職、第二船には參拜者、第三船には調度を乗せ、未明に觀を御笠濱に解き、夕景網浦に上陸する、拜所毎に茅輪の儀あり、養父崎にて鳥食の式あり、極めて神異なる傳説を有して居る。

● 玖波 ● 大蔵神社、北五町、魚切、蛇喰の勝、西北二里半、小瀬川の上流に在り、大竹 ● 小瀬川戦場、西十町、慶應年間長州征伐の時の戦場、岩園 ● 岩園は、元吉川氏の城下、瀬の西北一里を隔て、居る、電車賃十銭、蚊帳、岩園は岩園牛紙の産地である、錦川の西南を過ぎる所錦帯橋を架してある、橋は一に算盤橋と云ひ、本邦架橋工事中、構造の奇巧と堅牢とを以て聞えて居る、其構造は、東西の迫持法に通つて居ると云ふ、舊城址は横山に在つて、吉川氏の祖を祀れる、吉香神社あり、錦川一帯の風光を見渡される、藤生 ● 黒磯天叟寺、南七町、既望に富む、松岩院、西十町、由宇 ● 大將軍神社、南西廿八町、大島 ● 岩尾瀬、東北一里神代に在り、夏期神代祭を設けて遊覧の人に便して居る、神代よりは十五町、馬車賃七銭、瀬は高さ五大瀑底甚浅く僅に膝を浸するばかりで、水浴に適する、大島の瀬戸、隣近瀬流激甚壯觀を呈する、妙圓寺、西一里、柳井津 ● 室津牛島の頸部に在り、地形優勝な一要害で、柳井津橋、甘露醤油を産する、岩田 ● 室積港海水浴場、西南二里、故伊藤公誕生記念館、西北一里、下松 ● 下松妙見宮、西四町

宮ノ瀬海水浴場、東廿町、人力車賃十四銭、風景天ノ橋立に似て居る、花岡八幡宮、北廿町、徳山 ● 元毛利氏支藩の地經山麓に臨み水陸の便が良く、瀧庵遺蹟を産する、地に海軍煉炭所がある、福川 ● 湯野温泉、東北一里半、黒髪群島、西南海上一里、竹島、東南海上一里、富海 ● 前二帯の海濱海水浴に通ずる、瀧谷寺、北八町、杵崎社、南十町、八崎に在り風光美、三田尻 ● 周防第一の良津、三田尻麓に臨む、宮市と合して今防府と云ふ、附近に鹽田が多い、宮市天満宮、北九町、人力車賃十銭、輪奘善美、城内より酒垂山にかけて今公園となつて居る、四分寺、東十一町 ● 玉祖神社、西一里半、柳生松原、九町、小郡 ● 山口線の分岐點、山口町、山口盆地の中央、榎野川の上流に在り、南方續に開けて他の三面は山に圍まれて居る、大内氏の時繁榮京都を歴する勢であつた、市街整然、小京都の觀がある、毛利氏が萩に築いてから稍衰へたが、維新前毛利氏治所を茲に建て再び繁華に向ふこととなつた、龜山は大内氏の故城で今公園となり、毛利氏宗支藩主の銅像が建て居る、香山園内の露山堂は敬親公の勤王の大事を議せられた處、園の附近瀧庵光

寺、瀧庵寺がある、豐榮神社は別格官幣社で、毛利元就を祭つて居る、社の西に野田神社あり、東に今八幡宮がある、八阪神社は大内氏の祖廟、其祭禮甚賑である、湯田温泉は山口の西に接して好箇の遊樂場となつて居る、船木 ● 持世寺温泉、南八町、厚狭 ● 大瀬の分岐點、赤間石を産する、大瀬は海軍炭坑所在地として有名である、瀧の峠温泉、北東三十町、荒草温泉、東十町、殖生 ● 糸瀬の松原、海水浴場あり、西南十六町、小月 ● 小月橋を産す、東行庵、北一里半、馬車賃十四銭、高杉晋作閑居の地、墓あり、川瀬

温泉、西北四里半、人力車賃一圓二十銭、俣山温泉、北八里半、長府 ● 皇宮神社、西半里、仲哀天皇の豊浦の宮址、人力車賃十八銭、功山寺、西二十町、有明なる糸瀬あり ● 松崎神社、西廿二町、海中に斗出せる丘上に鎮座す、前面滿珠千珠の二島を眺め、風光甚佳、一ノ宮 ● 住吉神社、南一町、殿宇壯麗、老楠天に聳え櫻樹枝を交ふ、勝山城址、北十町、殖生 ● 筋ヶ濱、西北十一町、海水浴場である、下關

下關 中國地方の西南端、下關海峡の北岸に在り。水を隔つるの青山は即ち鎮西、豊前の門司と相對して瀬戸内海の西口を扼し、形勢天與、交通上、軍事上樞要の地點を占め、本邦主要の開港場である、今人口五萬八千人を有し、商港としては對岸の門司港に比して遜色あれど、中國第一の貿易港で、最近の貿易額八十五萬圓である、硯、烟草、雲丹等の名産がある。連絡汽船があつて、對岸の門司へは十五分、朝鮮の釜山へは鮮滿直通急行列車に連絡する爲り、一週三回は十時三十分、其他は十一時間で行かれる。朝前には院直營の山陽ホテルがある、館内各室とも清楚を旨とし、酒場、玉突場、閱覽室、浴室等の設備もあるから、宿泊は無論であるが、汽車汽船の待合せ、入浴食事等にも便利である。市街は後に丘陵を貫ひ、前は直に海に瀕して、東壇浦より西は彦島に連つて居る、其後山に登れば、眼界遠く開け、山光水色盡く

が如く、山陽線中稀に見るの佳景である。

日本戦史中最惨なるもの、平家没落の悲劇を第一とする、今ぞ知る御裳碓川の流れには波の底にも都ありとは、幼沖の天子、空しく壇ノ浦の藻屑とならせられてから、茲に七百年、山は舊によりて青々の容を變へず、水は古の如く蒼々の色を改めない、赤間宮頭を以て懐古の念に耽れば、雙袖自ら濡ふを覺えないであらう。宮は驛東十七町、人力車賃廿三錢、紅石山麓にありて官幣中社である、御陵は境内に鄰して居る。宮の左側紅石山に登る坂口に、平家の一門、清經、資盛、敏經、經盛、知盛、教經、宗長の墓がある、山に登れば眼界愈闊く、豊山は濃にして染むるが如く、筑山は淡にして眉を曳くが如く、豫州の山脈は蜿蜒として遙に霞んで居る、而して瀬戸内海濱一路の青松緑波は、漸く此處に盡き、眼下怒濤天を衝くの奇觀を呈して居るのである。見渡せば左方漁家蟹屋相並ぶ處、波悲しげに岸を打つは即ち壇の浦で、驛東二十六町、人力車賃二十九錢、浦に異蟹あり、甲殼人面を爲して憤怒の相がある、平家蟹といふ。魚あり形鯛に似て金鱗、上に白斑あり雪のやうである、小平家といふ、俗に平家の亡靈、男は化して蟹となり、女は變じて魚となると傳へて居る。宮の左側に巍々として聳ゆるは、日清兩國の使臣折衝の旗亭春帆樓で、講和使李鴻章の旅館に充てた引接寺も亦近くにある、龜山神社は驛東十四町、人力車賃二十錢、直に海に接し、眺望最佳、下関第一勝と云はれて居る。

海峽の西口には彦島の一島横はりて、附近嶮岩が多い。島は壽永の役、平氏が據つて一旦範頼の兵を撃退した處、南方豊前との海門を大瀬戸といひ、與治兵衛岩、巖流島がある、北方町の西偏小門との海門を小

瀬戸といひ、距離凡五十間、一竿を投すれば或は達するがとも思はれる、潮流最急にして奔馬のやうで、兩岸怪岩屏風を樹てるが如く、小赤壁をして居る、小門海水浴場を設けてある、驛西二十町、人力車賃二十五錢、附近の漁夫は夏秋の交、夜々小舟に松明を焚き、網を以て魚類を捕ふのであるが、漁火散じては螢火の如く、集つては火團の如く、また一美觀を呈するのである。

播但線 飾磨—姫路—和田山

●飾磨 家島群島前面に甚布し、風景甚佳、海水浴に適する
船賃二十五錢、●天神 ●松原神社、東一里、●酒の天神、●牛町、●白河法皇御幸處、東五町、●龜山 ●手柄山公園、西北七町、●本徳寺、東一町、●野里 ●白岡梅林、北五町、●廣峰神社、北廿五町、廣峰山上に在り、眺望佳、●壽山、山麓まで一里半、山上園、教寺あり、幽静な

る別天地で、避暑に適する、●増位温泉、北七町、人力車賃十錢、●溝口 ●中村温泉、西北廿町、●鹽田温泉、西一里半、●寺前 ●太田の瀧、西北二里、●生野 ●附近に生野銀山があるので名高い、●新井 ●勸王志士南八郎(本名川上彌一)の墓、南半里、●竹田 ●朝来山の櫻、東八町但馬吉野と云つて居る、●虎臥城址、西十町。

宇野線 岡山—宇野

●鹿田 ●宗忠神社、西半里、人力車賃十二錢、●茶屋町 ●藤戸ノ渡、西廿町、人力車賃十五錢、源平の戦、佐々木盛綱

渡瀬を渡りて平軍を走らせた處、今只一條の細流があるばかりである、古今地的變遷の一證として、地文學上多大の興味があ

る。●由加^{ゆが}の由加神社、西南一里十町、●宇野^{うの} 兒島半島の南端、四國高松への連絡汽船あり、一時廿分を要する、近

吳

線

海田市—吳

●小屋浦^{こやうら} 夏期海水浴場あり、●吳^{くれ} 廣島灣の東側、海軍鎮守府所在地、造兵廠、造船所あり、往時海岸の一小邑、今形大なる軍港となり、人口十萬一千人、本邦第十位の都會となつた、中國に於て既に岡山市を超え、將來或は廣島市を凌駕せんとするの勢がある。江田島^{えだ}は西三里、海軍兵學校がある、北方廣島市と相望む間に似島^{しのしま}が浮んで安藝の小富士とい

時樂港成り、瀬戸内海の要津となつた、風光佳、海水浴に遊する。

はれて居る。江田島の南方にある倉島^{くらしま}は、元一雄嶽を爲して本土と接続して居たのを、平清盛が舟行の便を計らむ爲、これを開鑿したのだといふ。これ即ち瀬戸内海路地の一なる瀬戸^{せと}の瀬戸で、對岸藝西^{えいせい}町との間五十間餘に過ぎない。潮流激しくて帆船は順潮の時でなければ、容易に通過することが出来ない附近風光明媚である。

須磨を出て明石は見えず春の月

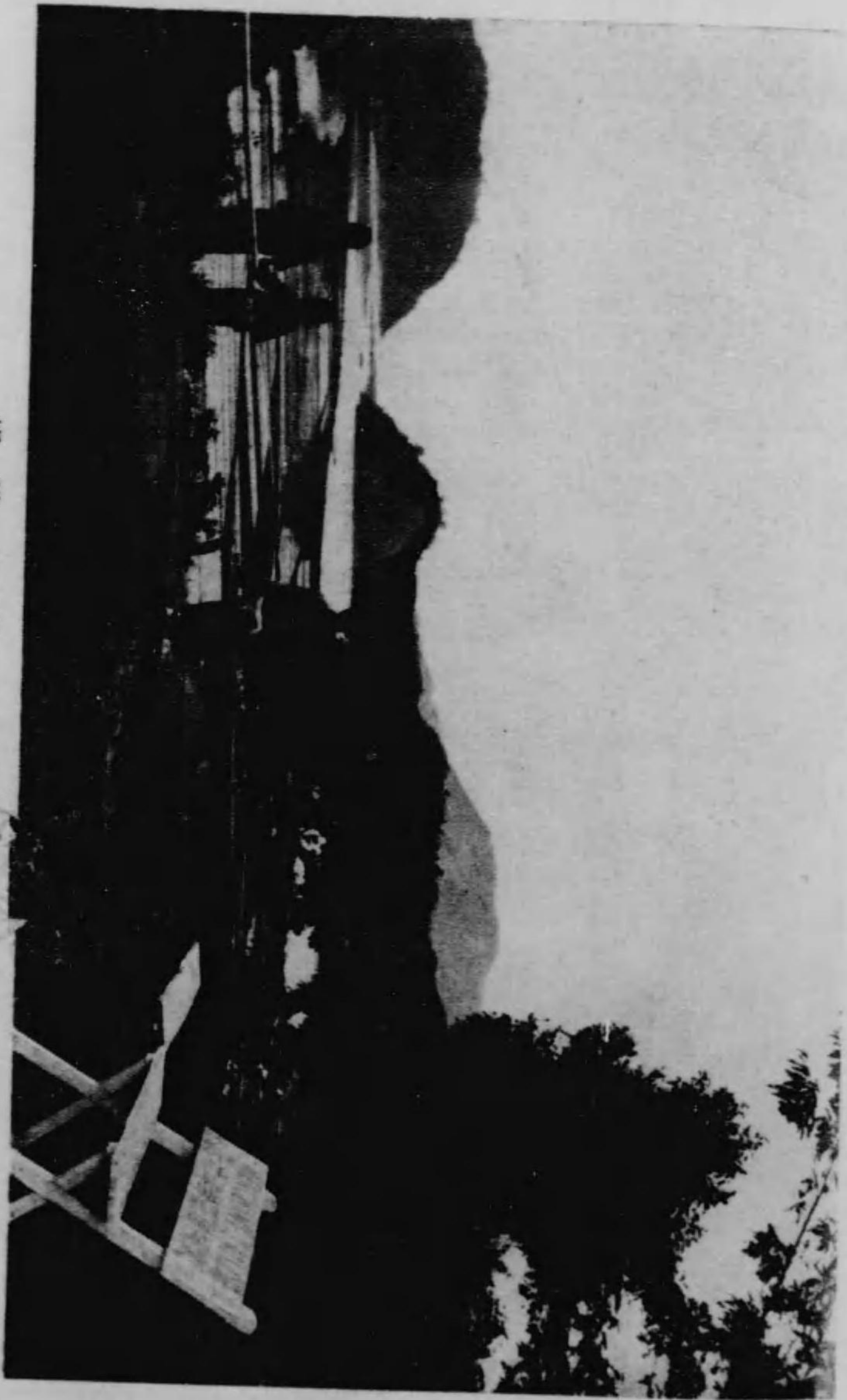
子規

薰風やともしたてかねつ嚴島

蕪村

三日月の一點寒しいつく島

支考

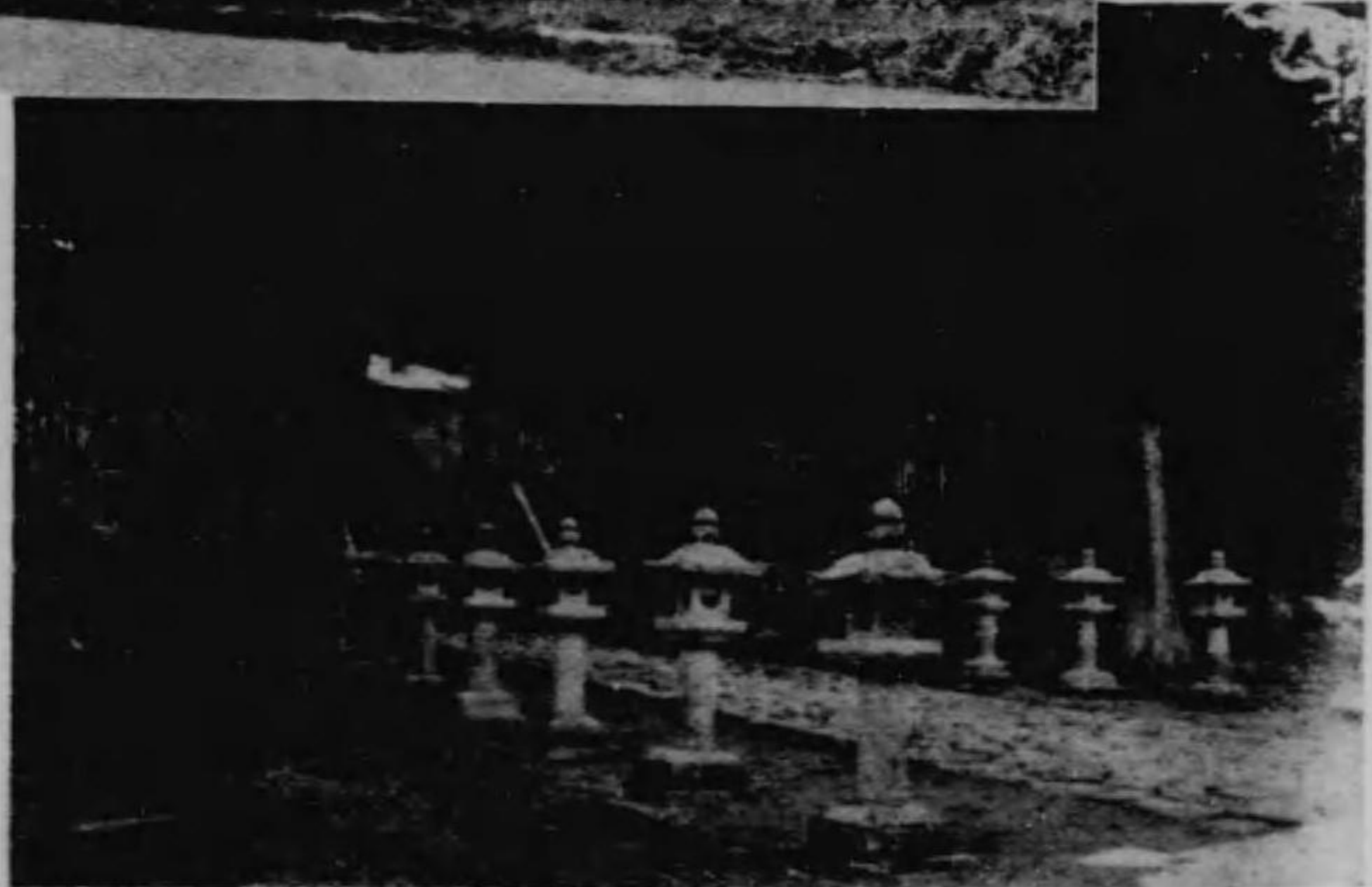


望眺の園公山

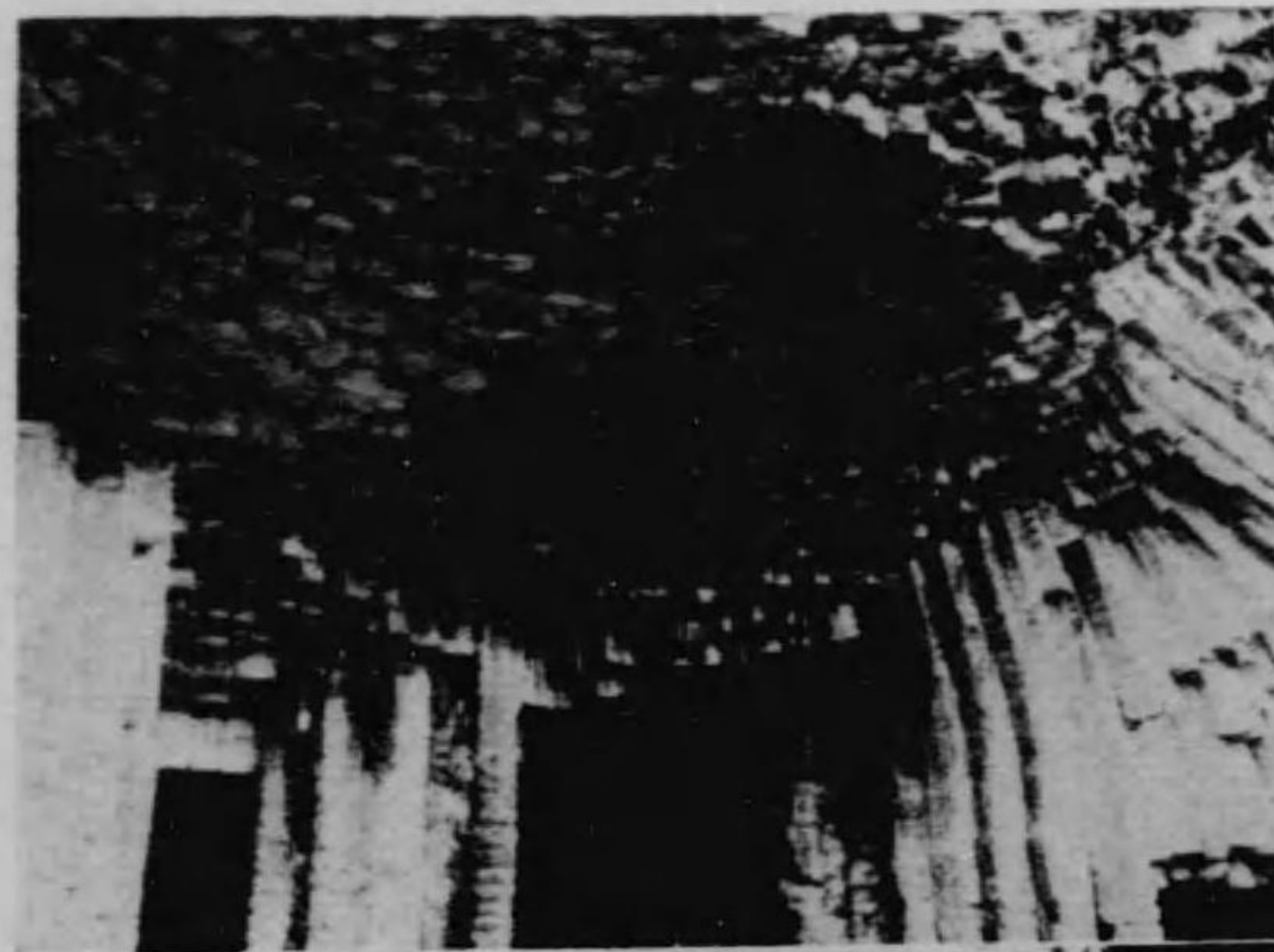
浦富海岸の奇岩



鳥取城址



櫻谷神社



玄武岩洞

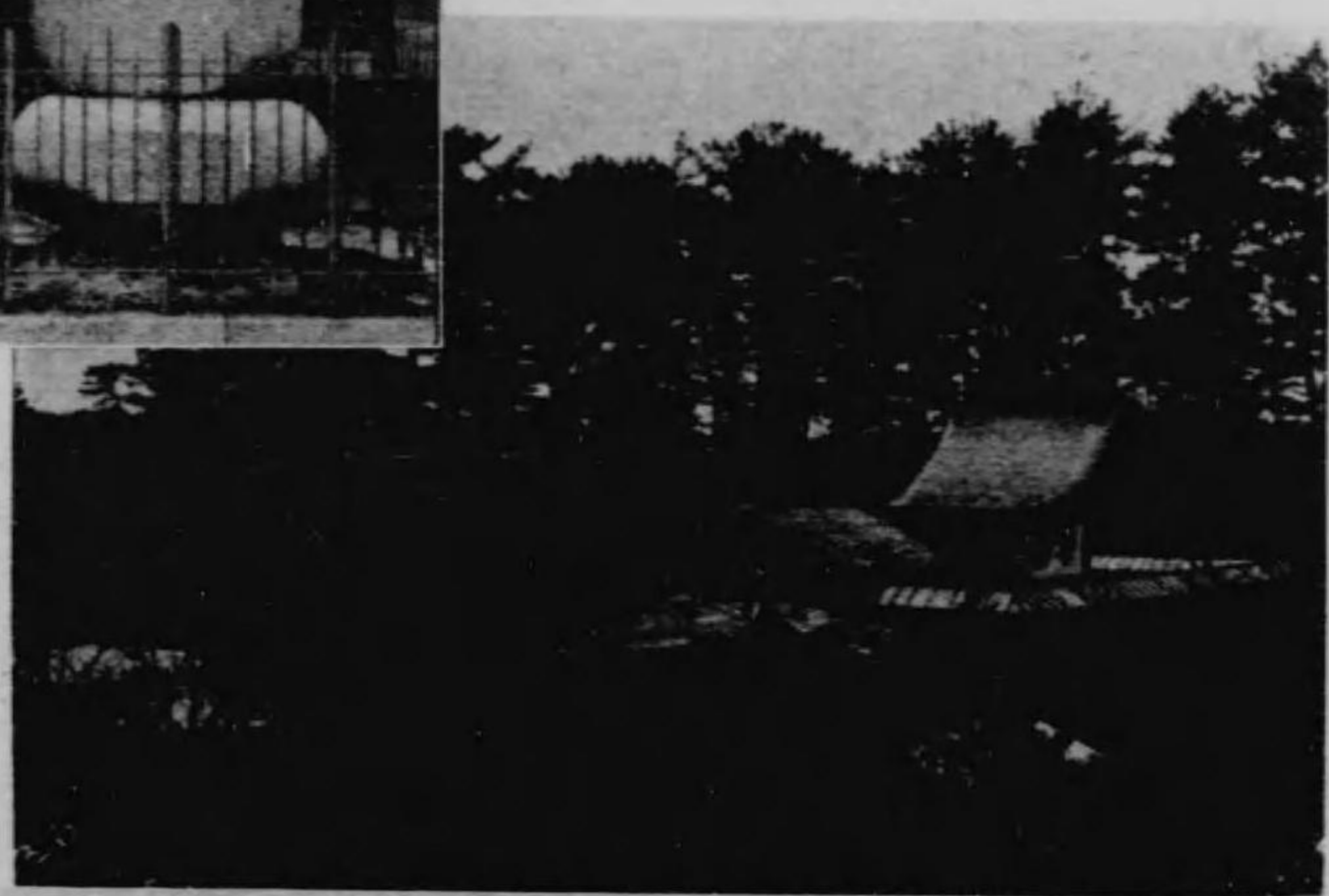
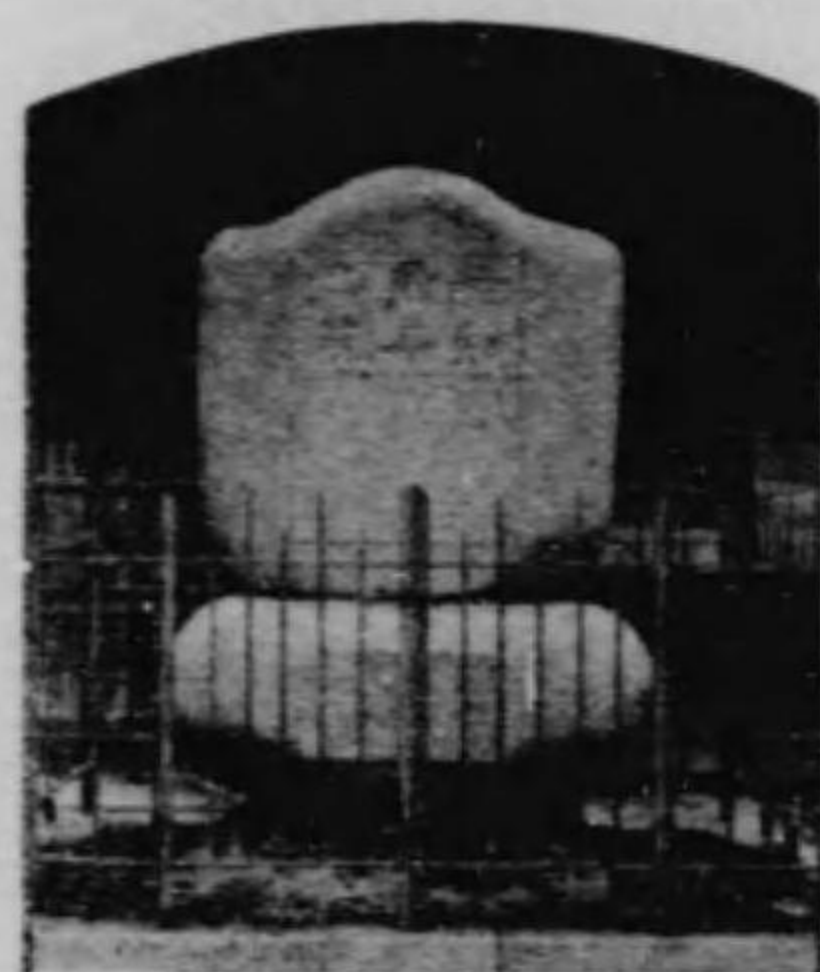


城崎瀬戸海岸



餘部鐵橋

元弘帝御著船碑



名和神社



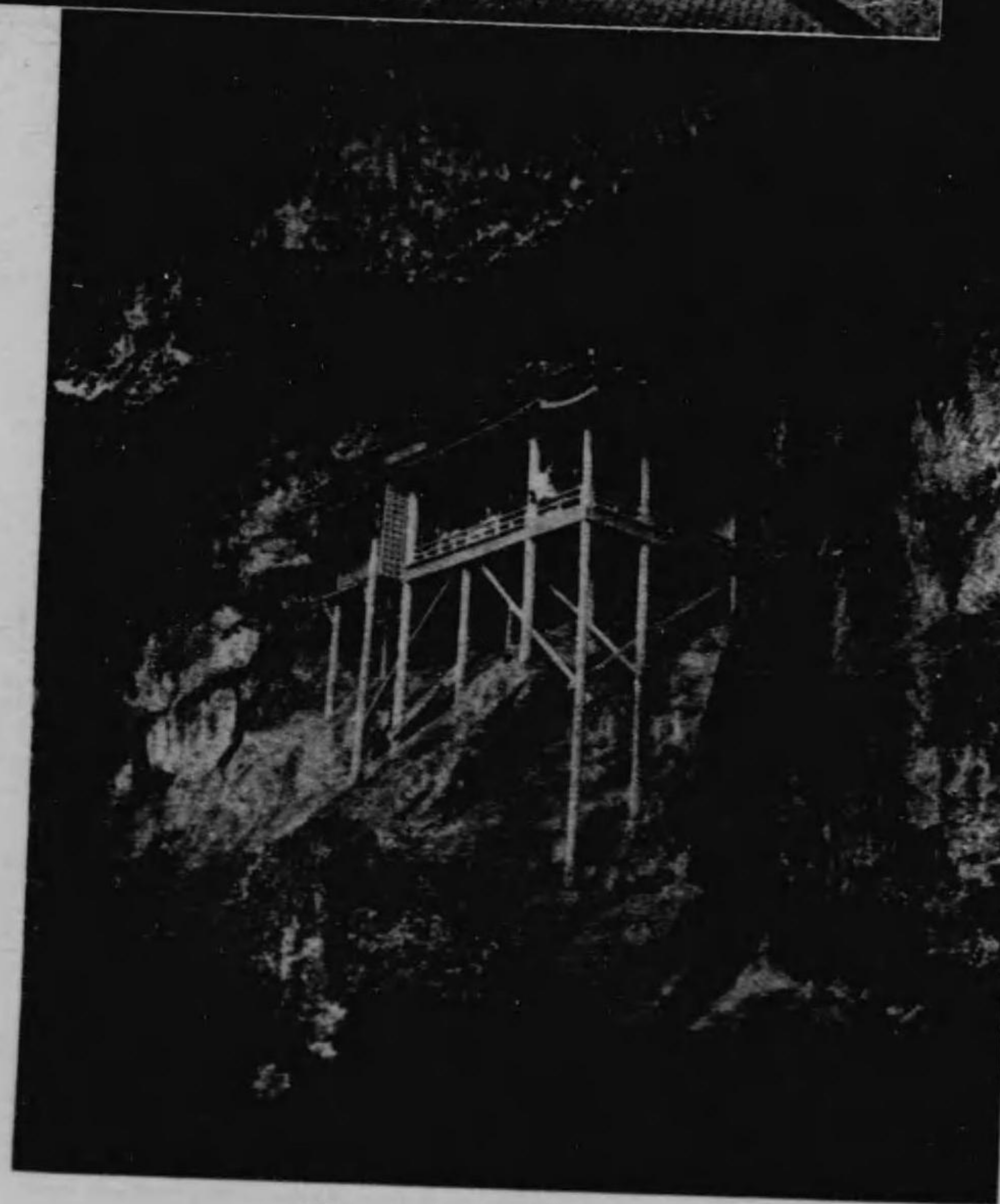
大山遠望



大山阿彌陀堂



東郷温泉



三佛寺投入堂

瀧戸の神窟



一畑寺



鱒淵寺

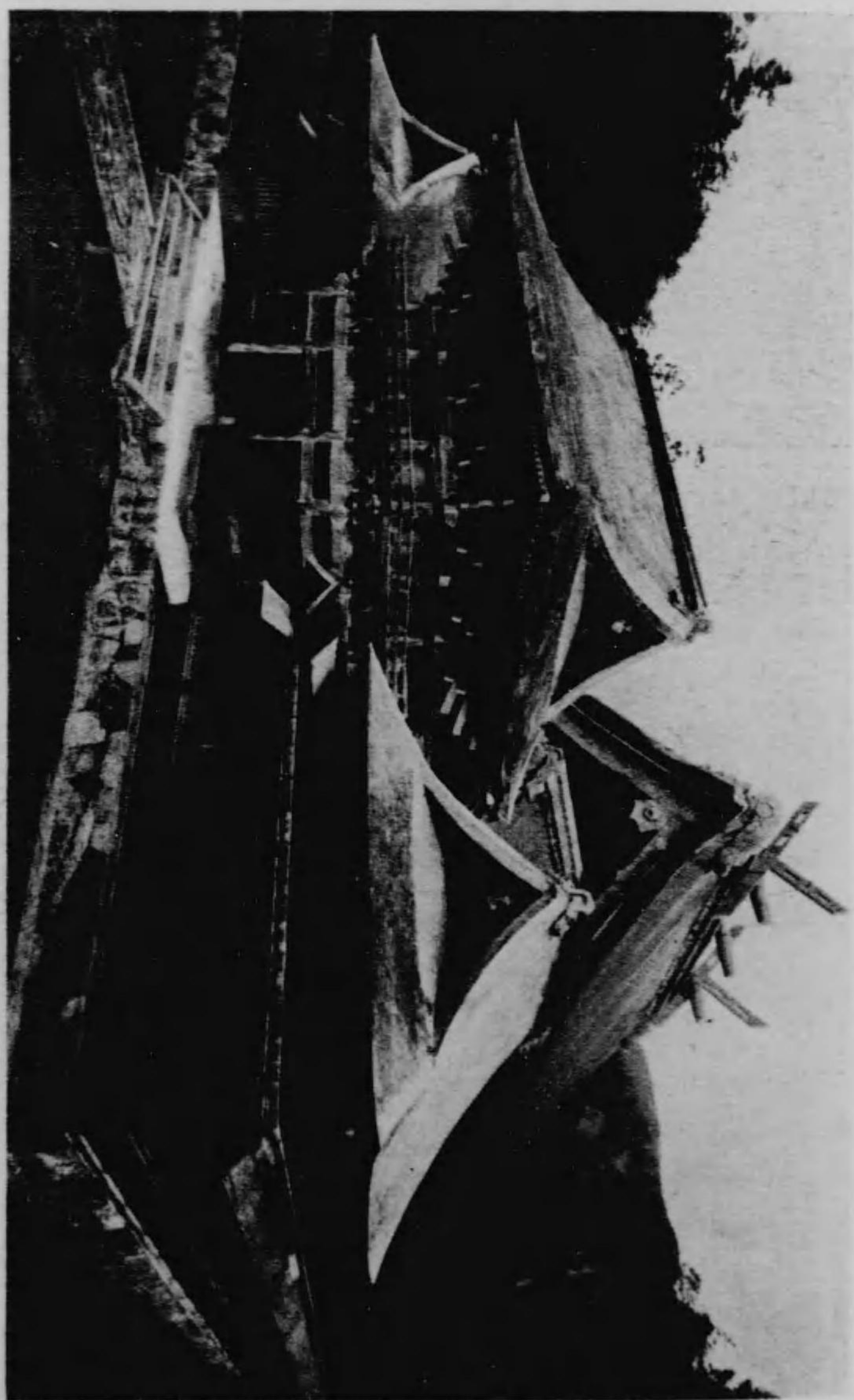
清水寺



尖道湖



嵩山眺望



門樓及殿本社大雲出

媛田稻物賣社大雲出



刻彫の鼠栗門足八社大雲出



日ノ御崎神社



望遠山瓶三

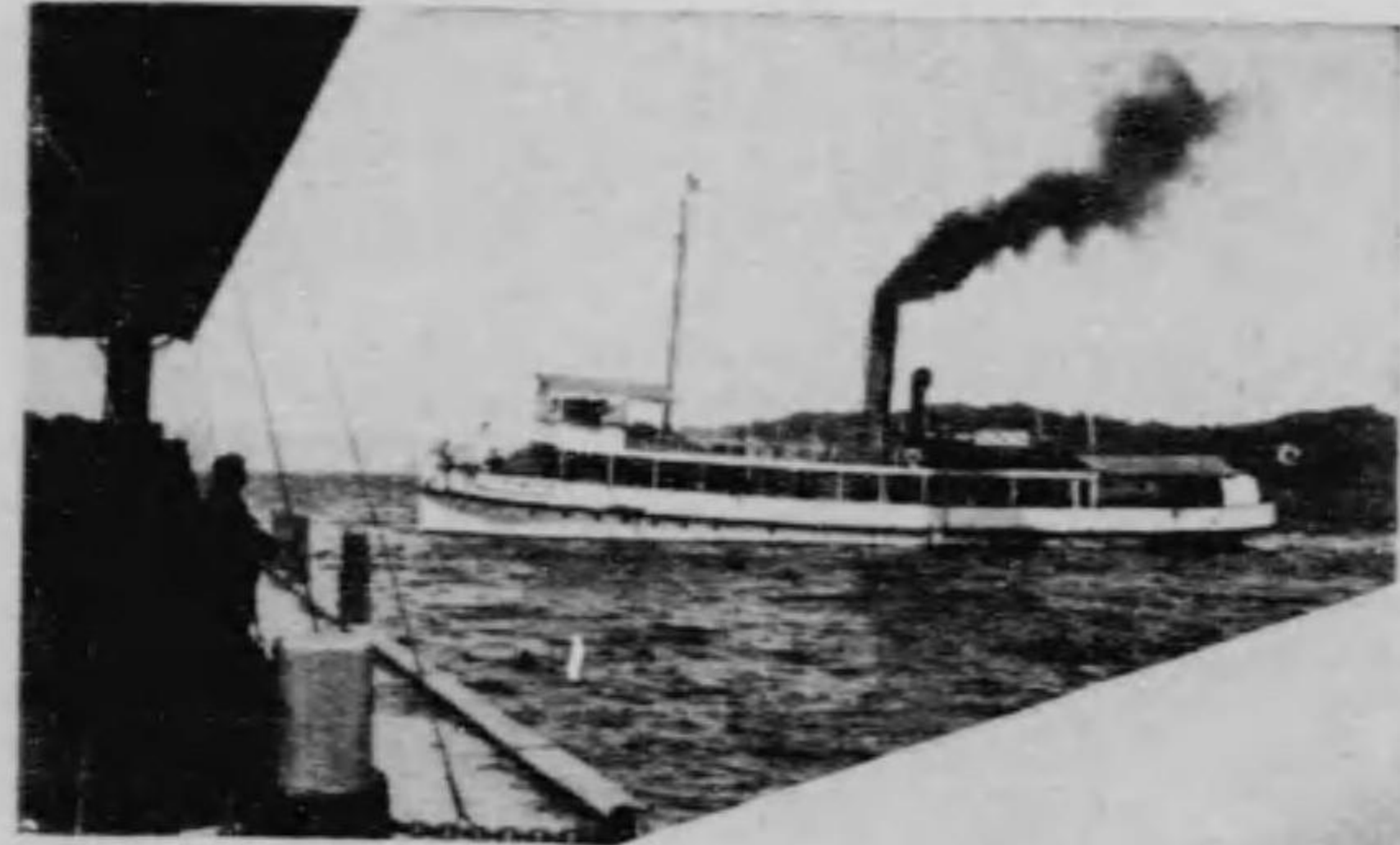
山陰線

山陰線とは

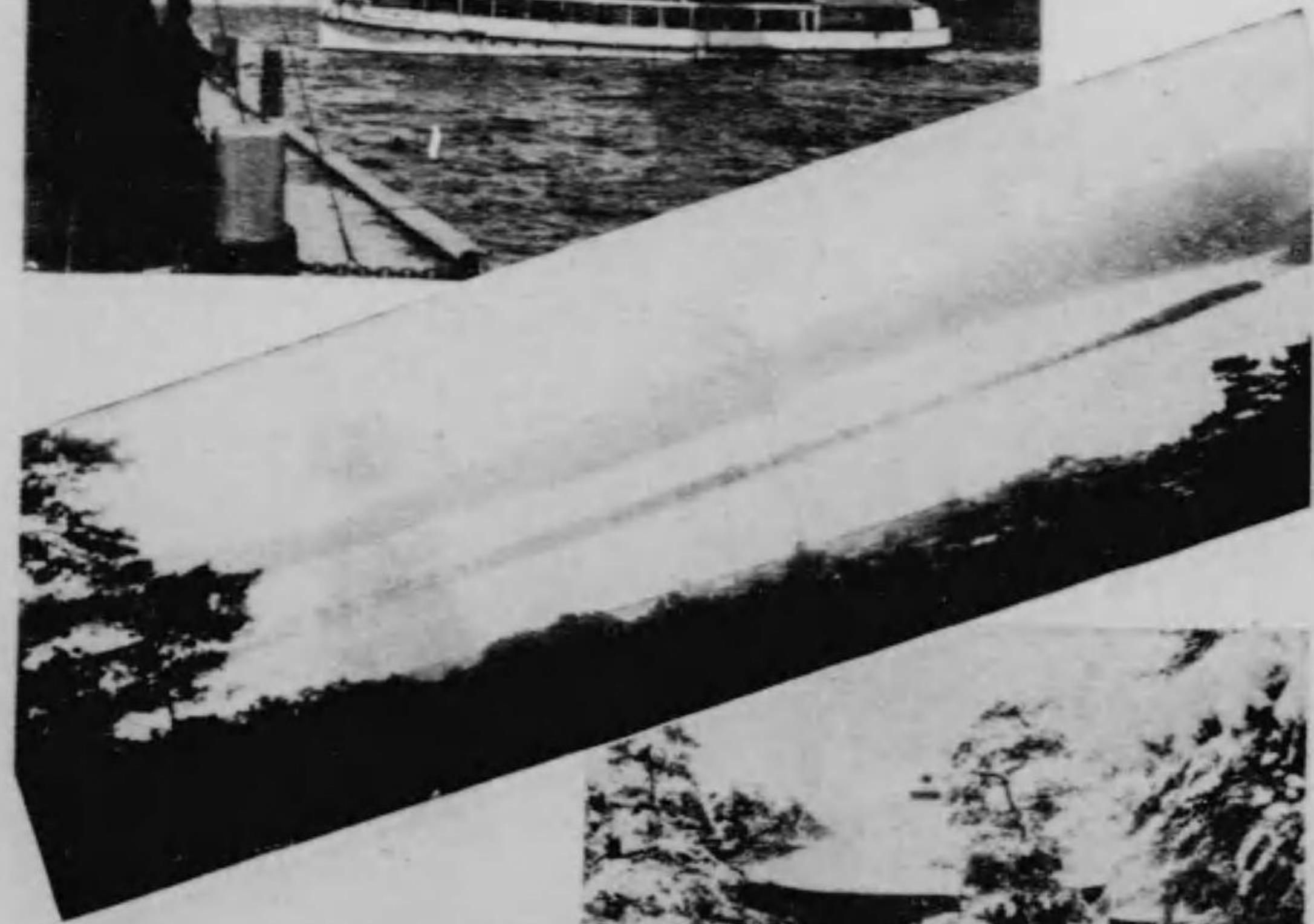
- 一 山陰本線 京都、小田間二四九哩六分。
- 二 舞鶴線 綾部、新舞鶴間一六哩四分。舞鶴、海舞鶴間一哩。
- 三 倉吉輕便線 上井、倉吉間二哩六分。
- 四 境線 米子、境間一〇哩八分。
- 五 大社線 出雲今市、大社間四哩七分。

の總稱で、其本線は京都を起點として保津川の溪谷に沿うて山陰に入り、綾部に至りて舞鶴線を北に岐ち、本線は西して福知山にて福知山線と會し、和田山にて播但線に合し、これより北して圓山川に沿うて城崎溫泉地に至り、竹野に出で、初めて蒼茫たる日本海の煙波に接するのである。これより西米子に至るまで、汽車は絶えず日本海に沿うて走り雄壯な風光が多い、鐙驛は懸崖の上に在り、展望雄大にして眼下狂瀾の岩に激するを見る、斷崖の下岩に縋つて軒を列ぬる漁村の見ゆるは平家の落武者村で、旅客は車窓限りなき興趣を覺ゆるであらう。鐙驛より

宮津連絡船



天の橋立



雪の文珠堂



美保關

西に走ること約一哩、辨天荒神兩山の溪間、落武者村なる餘部の村落を過ぎて、延長一〇一五呎、高さ一二五呎、恰も紅霓の如く中空に架けた餘部の大陸橋を渡る、雲上祖徠の語は正にかゝる處を形容した詞であらう。久谷、濱坂より居組、岩美に至る間、千仞の絶壁道を壓して聳立し、奇岩怪石怒濤と其雄を争つて居る、景致勝絶天下稀に見るの奇觀で、車窓目を休むるの邊なき風光である。

鳥取を後にしてからは、湖山池の風光あり、東郷湖の景致あり、優麗なる大山の山容また車窓の眺に入りて、風光更に壯美を加ふるのである。米子は境支線の北に岐る、處で、本線は更に西して中ノ海に沿うて松江に至り、更に茲に秀麗なる宍道湖の風光を見ること、なる、日本の雄壯な風光を後にして、この温雅な光景に遇ふ、山陰の風光亦多趣なりと云ふべしである。松江よりは汽車宍道湖畔に沿うて走り、出雲今市に至り、茲に大社線を岐ち、本線は小田に至つて止まるのである。列車の運行は京都より大社へ一回、大阪より松江へ一回、大社へ一回の直通列車あり、大社へのは夜行である、京都大社間約十三時間、大阪大社間約十三時間十分間を要する。倉吉輕便線、大社線は本線に附記してある。

山陰本線 京都—小田

京阪間、山陰間は東海道本線京都の部を指す。山陰間は東海道本線京都の部を指す。山と稱し松平氏の城邑であつた、龜山城址は町の北端に在り、明智光秀の營所、本能寺襲撃の計畫をした處だと云ふ、穴屋寺、金剛寺共に南一里餘穴太に在り、法寶谷、西南一里、花崗石の奇巖起伏し、頗る奇觀を呈して居る、出雲神社、北一里半、丹波一ノ宮、今國幣中社に列す、國部、もと小出氏の城邑である、山陰四國、翠嵐白雲常に来りて磯頭に通ふ、國部城址、東五町、今公園となつて居る、環瀨西三里、國部、國部の奇巖、北十三町、國部、舞鶴線の分岐點、もと九鬼氏の城邑であつた、和知川鮎池、東十四町、人力車賣十錢、和知山、和知山線の接續點、もと朽木氏の城邑で、和知川に臨み水陸運輸の便を占む、丹波第一の都會である、和知山城址、東三町、元伊勢宮、西北五里、伊勢内外的大神は古茲に顯座せられたと傳ふ、社殿の構造、伊勢に同じく宮川、五十鈴川、宇治川、天の岩戸等がある、大江山西北六里、往昔山賦酒香童子の遊んだ所で、洞穴も随つて居る、嶺上よりは遠く若州の峯巒を望み、近く興福の村落を指點せらる、鬼ヶ城、東北二里半、大江山の出城で、一族茨木直

子の住んだ所だと云ふ、上夜久野、女武石、東十三町、由利院道西口の山麓に在り、頗る偉觀、養父、養父神社、東三十町、和天山、播但線の接續點、養父、養父神社、北十町、八咫、國山川鮎池、國部、國部、二里廿六町、人力車賣四十五錢、昔七八年戰役の初年より十數羽の鶴山腹の松上に巢を構へ、爾來毎年五七月の間雛鶴を生む、養父、元京極氏の城邑で豐岡川の西岸に在り、拂行李を産出し近時海外へも輸出する、雅成親王御墓、西五町、後鳥羽の皇子家久の亂に坐して茲に瀕され給ふ、大石良雄妻の墓、東廿町、正福寺に在り、人力車賣二十錢、城崎、有名な温泉地、國山川の西岸、來日嶽の麓に在り、津居山を南に距る一里、海山の勝を兼ねて居る、空氣清朗、氣候快適、山陰第一の温泉である、温泉寺、東山公園等の勝地がある、津居山の瀬戸の海岸も風光がよい、人力車賣二十錢、有名な女武洞は南一里、豐岡から城崎に至る間、車窓より國山川の對岸を望めば、傾斜たる丘阜の半腹に奇異なる石窟の見ゆるのがそれで、夏朝は女武洞驛を設くる、洞は全長四十間、左中右の三段に分れ、宛然千百の石柱縱横に積み重ねたやうにもあり、又鱗果のやうでもある。

志賀氏の日本風景論に「支武岩壁立の最顯著なるは、但馬の支武洞にして、八角七角六角五角なる黒色堅緻の支武岩柱、高さ二十尺乃至三十尺なるもの、轟々として排列する、萬千條なるを知らず、柱は七八寸乃至一尺毎に、横に裂理あり、故に疊々として、幾多平石を累積するが如く、眞個に天巧の極」と書いてある。●竹野 海邊海水浴に遊ぶ、●鷹野神社、北八町、竹野海邊に在り、●加島山、西北十町、北海に突出した小半島で眺望甚快調である、●香住、●御神山、北十五町、山脚蒼海に迫つて居る、風光佳、公園としてある、●大乗寺、東南十町馬車賃五錢、當寺各室の襖は皆畫伯圓山應舉、及其門弟の筆に成り、竊する畫幅又豈く圓山派のものであるから世に應舉寺と呼んで居る、密英法師が京都で應舉を扶助したので、後其眞直に開いたのだと云ふ。●鐘、●山峽の猫額地古茶山海の交通なき一漁村、住民は平家の末裔と傳へ、風習他に異つて居る、●渡部、●西約一里、船賃十五錢、●辨天、●荒神兩山の路間に架した本邦嚆矢のトレスルス式鐵橋、●酒、●坂、●湯村温泉、●南二里半、馬車賃二十五錢、●居組、●雪の白、●酒七町、●藍色佳、●岩見、●岩井温泉、●南一里、馬車賃十錢、

蒲生川の清流に臨んで居る、●浦富海岸、西北半里、馬車賃十錢、浦富より網代に至る海岸二哩の間、風光は陸前の松島に似て豪壯は寒る寂に勝つて居る、●觀音、●榮輝、●門、●千貫松の瀟島特に知られて居る、●浦富海水浴場、二十四町、●金栄神社、一里、●權現山に在り、●島取、●千代川流域に位置を占めて居る、●舊池田氏の城市で、松江に次いで山陰第二の都會である、今人口三萬三千人を有し、●商、●生糸を産する、千代川口に買賣港あり、一里半を隔てて居る、港には買賣神社がある、眺望甚佳、●島取城址、十五町、久松山に在り、市街を俯瞰せらる山麓に泉邸がある、●櫻、●鶴神社、東北十六町、●鹿嶋の地、人力車賃十六錢、●宇倍神社、東南一里、人力車賃二十三錢、●國幣中社に列し、●稻葉山の麓に在り、武内宿禰を祀る、今五圓紙幣に刺してあるのは本社である、●稻葉山は在原行平の歌で名高い●渡邊歌馬の墓十五町與禰寺内に在り、●荒木又右衛門の墓、十七町、●支忠寺に在り、●安徳天皇御陵墓參考地、東南二里、●摩尼寺、北一里三十町、●摩尼山頭に在り、因州第一の靈境、人力車賃四十錢、●吉方温泉、十二町、市の南端に在り、人力車賃十二錢、●湯山、●湯山池、十町、●車窓其風光を見るに

とが出来、●吉岡温泉、二里、●養本、●白兔神社、一里十町、神代史に有名な素戔魂を祀つてある、●酒津、●海水浴場八町、●酒村、●酒村温泉、東北二町、●鷹見温泉、●南三町、●鹿野町、●南一里半、馬車賃十錢、山中鹿之助の墓ある幸盛寺及鹿野城址等がある、町の南方に●鷲峰山登えて居る、山は支武岩より成れる消火山で海拔三千四百尺、山勢雄偉である●清谷、●八葉寺、一里半、岩洞の奇あり、●長尾山下の絶景、●半里、日本海の風色雄大、●松、●東郷湖、●驛前に在り、●周圍三里山岳影を映じて風色鮮である、●東郷温泉、五町、●湖前に在り、●淺津温泉、●船上半里、渡船あり、●上井、●倉吉輕便線の分岐點、倉吉は倉吉平野の中心市場で、生絲の産地である、●打吹公園は舊城址に在り、●亭榭泉石甚佳、園の一隅に長谷寺あり、●三徳山三佛寺、●東三里半、●人力車賃四十一錢、●伯州第一の靈境、途中三朝川溪流の勝がある、●奥の院の一閣投入堂は方歇間、石壁創立の上、大巖窟の中に建て、あ

つて奇巧を極めて居る、●三朝温泉、●東二里十町、●人力車賃二十四錢、●關金温泉、●西二里半、●馬車賃二十錢、●赤坂、●船上山、●二里廿町、●山麓まで人力車賃三十五錢、●大山系々中の一高峰で、名和長年が元弘帝を奉じて義旗を挙げた處、山中の智積寺は、行在所の跡である、●下市、●退休寺、●三十町、●曹洞宗の巨刹、●御來屋、●名和神社、●西南十六町●人力車賃九錢、●名和長年一族を祀る、●實路櫻樹多く花の隨處をなして居る、●社前の一角より澎湃たる日本海を望めば、元弘帝の蒙塵の苦難を嘗めさせられた陸奥の小島は、杳然として煙波の間に横はり、公が勤王の義旗を翻した船上山は巍然として雲表に聳えて居る、●元弘帝御著船處、●西七町、一基の碑あり、●淡江、●海水浴場、●驛前一帶の海濱、●古代の石馬、●十二町、●天神垣神社内に在り、●末吉城址、●北東一里、●山中鹿之助の據つた所、●彼は遂に茲で毛利氏に降つた、●大山

大山

大山は驛の東南約三里半、山陰線旅行者の忘るべからざる風光の一である。山は一に大神山と稱し、伯耆富士又出雲富士と云つて居る、火山通有の圓錐形を呈し、巍然として海拔五六五三尺山陰山陽第一の高峰である。餘脈は北東に續きて、船上山、勝田山等而起し、更に北西に走りて鍋山、

山陰本線

高麗山等と成り、一の火山群を形成して居る。山麓は曠漠たる器野で最牧畜に適し、例年時を定めて牛馬の糞市を開き、大山村には軍馬育成所の設がある。赤碓より船上山に登った人は直に此山に登るべく、大山驛よりは南して山麓尾高村より登るのである。尾高まで馬車賃五錢、尾高よりは脚趾漸く仰ぎ、大山原の曠野に出るので大山村に至れば、曠野盡きて大山寺の伽藍がある。天台宗の聖地で、養老年間の創設に係り、後慈覺大師錫を留めて始て大山寺と號した。今の本堂及阿彌陀堂は遠く天承年間の遺營に成り、後稱縮少して再建したが、棟樑柱礎皆創立當時のものを用ゐたから、依然として千年の古建築たるを失はない。寺域は大山の中腹に位し、眺曠の快筆にも盡しがたい。本堂の東數町大神山神社あり、大己貴命を祀つて居る。神社の島居より右折し、行くこと半里、横腹と云ふ所より愈峽峻な登山道となる。滿山草多く樹木に至て稀で、登路極めて峻嶮、草を把持して漸く登る處もある。大山寺より絶頂まで一里半、六七時間にして達することが出来る。山の東北面は火口の潰裂したもので、障壁が屏立して居る。下山は此方面より砂礫を踏んで奔下すれば、僅に五十分で大山寺に歸着せられる。頂上の曠目頗る雄大で、北は正方形の船上山より隱岐の小島の八重の潮路に泛べるを見、西は中海と美保灣との間、名にし負ふ長汀五里の夜見ヶ濱、曲浦遠く速なりて波の打寄ると見ゆる一線白く曳いて宛然布を晒せるが如く、出雲石見の境上に雙ゆる三瓶山亦眸中に入り、東は三國山以下但馬、丹波の峯巒を認め、遠く加賀の白山に及ぶべく、南は作州の諸峰を見下し、尙四國淡路島に及ぶのである。凡そ山陰山陽兩道に崛起する名山巨嶽皆容を整へて仕ふるが如く、實に中國第一の名山である。

國 本 陰 附 山 陰



●米子● 境線の分岐點、元加藤氏の城下で中海に面し夜見半島の頸部を占めて居る。境と共に山陰に於ける良港で、木綿の取引が盛である。○米子城址、西北十町、人力車賃十錢、港山の頂に在り、山海の眺望佳、大山の英姿、夜見半島の翠松、中海の蒼波皆一眸の裡に入り、一大畫圖を展べたやうである。○米子公園、西北十四町、中海の沿岸に在り○皇子内親王の墓、東南一里、馬車賃十二錢、安養寺に在り、後醍醐天皇の皇女男裝して聖殿に渡らむとして果さず、留りてこの寺を開かれたといふ。安養寺、○中海、米子より安來、荒島を経て坂屋

**突道湖
呼及出
雲大社**

出雲は古王者の地で、八雲山の麓大社殿として神威殿かである。突道湖は其東に在りて煙波洗洋十三里、湖を廻りて形勝の地が多い。突道湖と中海との間、狭長なる地頭がある。松江市は其處に位置を占めて山光水色の美を領して居る、情しいかな久しく交通の便に缺けて居た爲め、此雲山碧水に遊ぶ人が少なかつたが、近年此線の開通があつて京阪地方との連絡を全うし、鎖された山陰の風光も、世に開放せらるゝこととなつたのである。

松江は松平氏の舊城市で山陰の首府と稱して居る。大橋川市の中央を貫通して、市を末次、白濁の二部に分ち、突道湖と中海との交通を連絡して居る。今人口三萬六千人を有し、生絲、八雲漆、陶器、人参、瑠璃細工等を産する。市街は直に突道湖に臨み、北に突道山脈の蜿蜒たるあり、山光水色畫を見るやうであ

に到る間、汽車は中海に沿うて走つて居る。周圍十六里十一町本邦第四の大湖、大規模其他の島があり風光がよい。○十神山、安來港頭に聳ゆる名山、○南山公園、町の南一帯の山丘、○清水寺、東南一里半、馬車賃十二錢、推古朝創建の古刹、雲州第一の伽藍、○雲園寺、東南一里半、後醍醐天皇の勸願寺で、高麗傳來の古鐘を蔵する。○月山城址、西南三里、馬車賃二十四錢、廣瀬町に在り、戰國時代中國に旗を振うた尼子氏の根據地、月山城址、尼子經久の墓、大夫神社、布部山等、富田川一帯の谷地、尼子氏悲劇の跡が多い。●松江小田大社間●

る、試に長さ百間恰も虹の懸けたやうな大橋々上に立ちて、四邊の風光を眺むれば西には尖道湖の滲茫たるあり、東には伯耆富士の靈姿あり、湖に面した南岸の家屋樓臺は、皆影を倒にして曇氣樓を幻出して居る、其眺望の佳絶なること瑞西のジュネーヴなるモンブラン橋と比する人もあるのである。千鳥城址は今城山公園といつて居る、驛北半里、人力車賃十四錢、五層の天守閣高く老松の間に聳え、城壕尙依然として水碧く、夏時蓮花亂發して美觀を呈する、天守閣は今開きて人の上ることを許してあるが、閣上の眺望は、思ふに山陰無比の絶景で、松江市の瓦葺より尖道湖畔の風景を一時の中に收め、中海を隔て、伯耆の大山宛然富岳の姿を望むが如き、誰か快哉を三唱せざるものがあらう、其他天神公園補師浦、床几山等は直に尖道湖に臨んで風光の勝を占めて居る。湖は東西四里南北一里半、東馬場瀨の瀬戸を経て中海に通じ、周廻十三里の鏡面には伯耆富士が常に其麗姿を粧うて居る。湖中の一小島を嫁ヶ島といつて、月明の夜遊舟並に集まるのである。渡船賃五錢。湖上には赤壁十六禿などいふ奇勝があり、一步に一景十歩に十景、花繁々柳葱々、鳥闕々魚澄々、戸重々樓亭々、船搖々人來々、無聲の詩にも有聲の繪にも、寫しがたきは此風光である、松江を本邦十二景の一に數ふるのも、要するに此湖の勝景があるからである。

市附近には名勝の地が多い、潜戸の神窟は北三里、日本海岸に在り、懸崖百尺海中に突出し、洞門自ら開けて小舟を通じて居る、佐太大神誕生の靈蹟であると傳へる。大神を祀つた佐太神社は西北二里半、人力車賃五十錢、神名火山麓に在り、社前の馬場は佐太河畔に達し、櫻樹道を挟んで花時甚美觀を呈する。嵩山は東一里、田野の間に屹立して居る、海拔二千七百尺、山頂の眺臨頭る雄大、錦海の煙波を脚下に見、大

山を雲外に仰ぎ、大根島の青螺其前に横ばり、夜見半島其東方を限る、更に西は松江市を隔て、雲雲湖の清波を望むべく、雲州の江山殆ど双眸の中に集まるのである。出雲第一の靈刹一畑寺は尖道湖の北岸に沿うた小境の北一里に在り、薬師如来を本尊として居る、古より眼病に靈驗があると云つて賽者常に絶えぬ、眼下尖道、中海の雨水、藍を湛へて眺望秀麗である。佐々木高綱の墓は乃木村、養光寺内に在り、南二十町を隔て、居る、宇治川先陣の勇將も梶原景時の舌頭に罹つて、轡阿落魂並に命を終へたのである。八重垣神社は南一里半、人力車賃三十錢、縁結びの神として其名を知られて居る。熊野神社は更に南一里半、熊野山の北麓に在り、素戔嗚尊を祀つてある、今國幣中社で古來出雲大社と並稱して熊野大社と云つて居る、紀州に熊野の大神を祀るのも、こゝから移したものだ云ふ。市外の天倫寺には古梵鐘を藏して居る。

松江より汽車は尖道湖に沿うて走つて居る、玉造温泉は湯町驛の南十五町、人力車賃十五錢、後には要害、花仙の二山を貫ひ、前には玉造川の清流を帯びて居る、山中より産する青瑠璃は天下一品の名がある。直江驛の西廿町、斐伊川の東口には萬九千神社がある、人力車賃十五錢、毎年十月諸神出雲大社より佐太神社へ神集ひの後、本社へ移り給ひ、夫れより諸國へ神去り給ふと傳へて居る、斐伊川は古の鏡の川で、素戔嗚尊の大蛇退治に因みを有する雲州第一の大河である、汽車この河を渡る時、車窓神代史を偲ぶ人多からう。

出雲今市よりは大社線あり、杵築に至つて止まつて居る、鰐淵寺は驛の北一里天台宗の古刹で、推古天皇の朝智春上人の開基である、境内幽邃閑寂、溪山烟霧の眺望、出雲國中此の右に出づるものはない。神門

寺は驛南廿町、弘法大師の眞筆と稱する伊呂波四十七文字の一幅を藏し、一に伊呂波寺と云つて居る。今市の次驛知井宮の南一里、神門川の上流には立久惠の奇勝がある、兩山相迫る所、溪流其間を貫き、怪巖峭立して一大屏風を列ぬるが如く、奇松其間に點綴して奇古蒼潤の妙を極めて居る。

出雲大社は今官幣大社に列し、杵築町に鎮座ましまして居る、驛北二十町、馬車貫八錢、宮は古日本の王者、大國主命を祀り、創建遠く神代にあり、天照大神の勅を奉じて諸神が之を經營せられた、いはゆる三十二丈造りと稱するものがそれで、垂仁の時本社を皇宮の如く改造して、十六丈の宮制といつた、今の社殿は明治七年造營せられたものである。

大社驛に下車して杵築の町を過ぎ、大鳥居より阪路を過れば祓橋がある、賽路の左右には古松長く連つて居る、更に碧銅の大鳥居を過ぐれば即ち社境で、四面荒垣を繞らし、内に拜殿、社務所、會所、八足門樓門、神饌所、續火殿、觀祭樓を初め、大小の攝社末社整々相望んで居る、八足門の内更に瑞垣玉垣を二重に對して中央に本殿あり、即天日隅宮である、本邦初期の建築法で、祠宇の構造全く他の神殿と趣を異にし、椽木高く空に聳え、不均齊式の構造基奇にして而も頗る莊嚴である。樓門に刻んだ葡萄に栗鼠の浮鏤は左甚五郎の作で、日光の眠猫と共に双絶と稱せられ、觀祭樓上に在る稻田緩の塑像は、明神暗齒長髮地に曳き、劔を按じて片足つまだてたるさま、溫和貞淑の相尊く拜まれる。社境は三面丘陵を以て圍まれ、後丘を入雲山といひ、龜山、龜山其左右に列なり、長松空を蔽うて俗塵を遮り、幽禽雲に啼いて靜なること太古の如しである。杵築の海濱は伊那佐濱、武藝神と經津主神とが、大國主に迫りて、國邊の語否を問は

れた舊蹟である、一帯の沙汀彎曲して三里濱とも云つて居る、船を催うて日御碕神社に賽することが出来、宮は杵築より三里、稻佐濱より船にて一時間で行かれる、船賃十二人乗一艘往復一圓五十錢、上宮には素盞鳴尊、下宮には天照皇大神を祀り、今國幣小社に列して居る、境は丘陵に據り、松林社頭を蔽ひ、西南一帯日本海に面し、海上大小の島嶼岩礁起伏し、風景がよい、附近に日御崎燈臺がある、妙見山桃林は杵築より南一里、神門川の海に入る所にある、附近一帯喬松多く桃園廣く連續して居る。

石見地方に遊ぶのには本線の終點たる小田驛に下車して、西南に向へる石見街道に頼るがよい。大山と並稱せらるゝ名山三瓶山の前面に聳ゆるを見つゝ、石見に入れば波根に湖がある、湖水の日本海に通ずる處を鰐走と稱して橋を架けて居る、兩岸峭壁屹立して翠松を簪し、海上には柱岩の奇觀あり、風光甚愛すべきものがある。太田、大森、大家、淺利を經、江川の河口に架する長さ九十間の江津橋を渡れば郷津、西南に連りて都濃村がある、日本海々戦の際、露艦イルチツシ號の擱岸せる處である。濱田は石見第一の都會で、海灣を擁し溪流を帯び、地勢は狹少であるけれど江山の風致がある、城址は龜山にあり、今遊園として觀望に富んで居る。

濱田より尙西南に進めば益田町あり、畫家雪舟終焉の地で墓は大喜庵にある、高津は高津川口にあり、海濱の風光明媚である、柿本神社あり、人丸終焉の地と傳へて居る、津和野は石見西南の一市、峰巒四面を圍繞し、津和野川中央を貫流し、幽靜なる別天地をなして居る、南方野坂峠を越ゆれば山口縣に入り、徳佐を經て山口に達するのである。

舞鶴線 綾部—新舞鶴・並舞鶴—海舞鶴

本線には舞鶴軍港と天の橋立の名勝とがあるので、京都、大阪より直通列車の運轉があり、京都よりは約四時間、大阪よりは約五時間を要する。

舞鶴 舞鶴港頭に在り、日本海第一の要港、もと牧野氏の城下で町は東西に分れ、東舞鶴は東一里を隔て海軍鎮守府あり、新舞鶴を隔てある、船渠もあり、造船所もある、舞鶴

よりは丹後の宮津、若狭の小浜への連絡船便あり、海舞鶴其爲に設けられて居る、心種園、南三町、元の田邊城址で、古今傳授の松がある、

天の橋立

萬松一路海に浮ぶこと凡二十八町、上下概ね枝梢を齊しうして、一字を碧水の上に描き、遠く之を望めば長洲海波に映じて水中松あるが如く、碧水天と連りて天上亦橋あるに似たるもの、これ丹後の天の橋立の風光である。橋立は宮津の北一里餘、與謝海の西側なる門洲状の沙嘴である、舞鶴より宮津へは院の連絡汽船便あり、一時四十分で到着するのである。汽船賃二等五十三錢、三等三十六錢、連絡船上舞鶴灣内の風光に浴しつゝ、左顧右眄日本海に出でむとして、又與謝内海に遣入ると忽ち前面に着松一帯蒼鬱畫の如く、細く長く海面に浮んで居るのが見える、これ松島、殿島と共に皇國の三勝と稱せらるゝ天ノ橋立で、晝夜陰晴、春夏冬雪、皆この景を粧ひ、二十四節悉く其美を異にして居るのである。宮津は松平氏の舊城下で、宮津灣に臨み、三面皆山を以て擁せられ、天ノ橋立が其前面に見える、遊覽

舞鶴及宮津附近圖



舞鶴及宮津附近ハ
陸軍要地帯ナカ
故ニ歩隊本部二十
万が一編製團ヨリ
ナ地名ヲ略記シタ
ルニ過キス山嶺ノ
起伏海岸線ノ形状
キ大略ニ表ヒタリ

の客常に來りて賑かである、特別輸出港の一で丹後縮緬を特産とし海産物が多い、文珠は天の橋立南方の岸頭で、文珠閣がある、遙に成相寺に對して畫中の景物を添へて居る、かの崇神の御代に天照皇大神の暫し鎮座せられた、與謝の宮はこの境域であるとの説もある、附近には酒樓茶店が多い。文珠の渡を渡れば即ち天橋の沙洲で、樹は若きあり老いたるありて、梢の高さは均しからざれど、枝を垂るゝこと地を去る各數尺、宛然一字を畫いて居る、松林中に橋立神社があつて其傍に磯清水とて清冽な靈泉がある、岩見重太郎が父の仇を討つたのは此邊だと云ふ、尙進めば皇太子殿下行啓の記念亭がある、このあたりより天橋の幅次第に狭く、松も又疎となり、江尻に至りて全く盡きて居る。

橋立の景は樗崎と成相山に登りて俯瞰せれば其價值を斷することは出来ぬ、樗崎よりは横一文字に、成相山よりは斜に縦一文字に見える。江尻より府中なる國幣中社籠神社に詣て、成相山に登れば中腹に成相寺がある、與謝の江山全景を萃むる處である、人は云ふ松島の景は富山にあり、橋立の景は成相山にありと、賽路の傍傘松の蔭より眺望するのが第一である。其處には一の臺石を設けてある、試にこの臺石に乗つて橋立を後にし、立ちながら身を屈めて股間より窺うて見よ、一里の松翠波光に映じて、與謝の入江を劃する處、水中天あり、天上水あり、上なるが海が下なるが天か、天ノ橋立股眼鏡は、實に天下無雙の奇觀である。

宮津より但馬街道を辿りて口大野を過ぐれば峰山、元京極氏の城邑で、四面丘巒の間にある、之より久美濱を経て山陰本線の豊岡に出らるゝ、久美濱灣は灣口が狭く蘆を括つたやうで、宛然湖水の觀をなして居

る、町の東方甲山に熊野神社がある。灣内の風光は更なり、東は丹後西は但馬の海岸を望み、青松白沙小橋立の觀がある、只地僻にして訪ふ人のないのを惜むのである。

境

線 米子—境

近境附

本線の沿線一帯の地は即ち夜見ヶ濱である、濱は美保灣と中海との間を隔離する一條の堆洲で長五里瀾一里に滿たない、沙濱は一大弓状をなして居るから、また弓ヶ濱とも云ふ。一帯の蒼松雲の如く連りて風光優美、詩人は之を大天橋と呼んで居る、天ノ橋立に比して、其景致更に雄大であるからである、この絶景を見るには、いはゆる伯耆富士の名ある大山の中腹が、島根半島の鷹尾山がよい、鷹尾山は境の對岸島根半島の脊梁となれる連峰中の高峰で、内外海洋の偉觀と伯州大山及び夜見ヶ濱大天橋の風光を双眸に收め、眺望の雄壯比すべきものがない。

境は夜見ヶ濱の尖端に在り、東は渺茫たる大海に臨み、西は中海を介して尖道湖に通じ、前面島根半島障壁を爲して、自然に北海の風濤を防いで居る、山陰に於ける有數の要津で山海の景勝を占めて居る、開港場の一で最近の貿易額三十一萬圓である。

美保關は島根半島の東南端、境より汽船にて四十分を要する、汽船賃十四錢、其間伯耆富士は前面に聳立して、其秀貌を美保灣の碧波に瀆し、夜見ヶ濱の大天橋は右に長翠を曳きて、風光の美を盡して居る、舟が

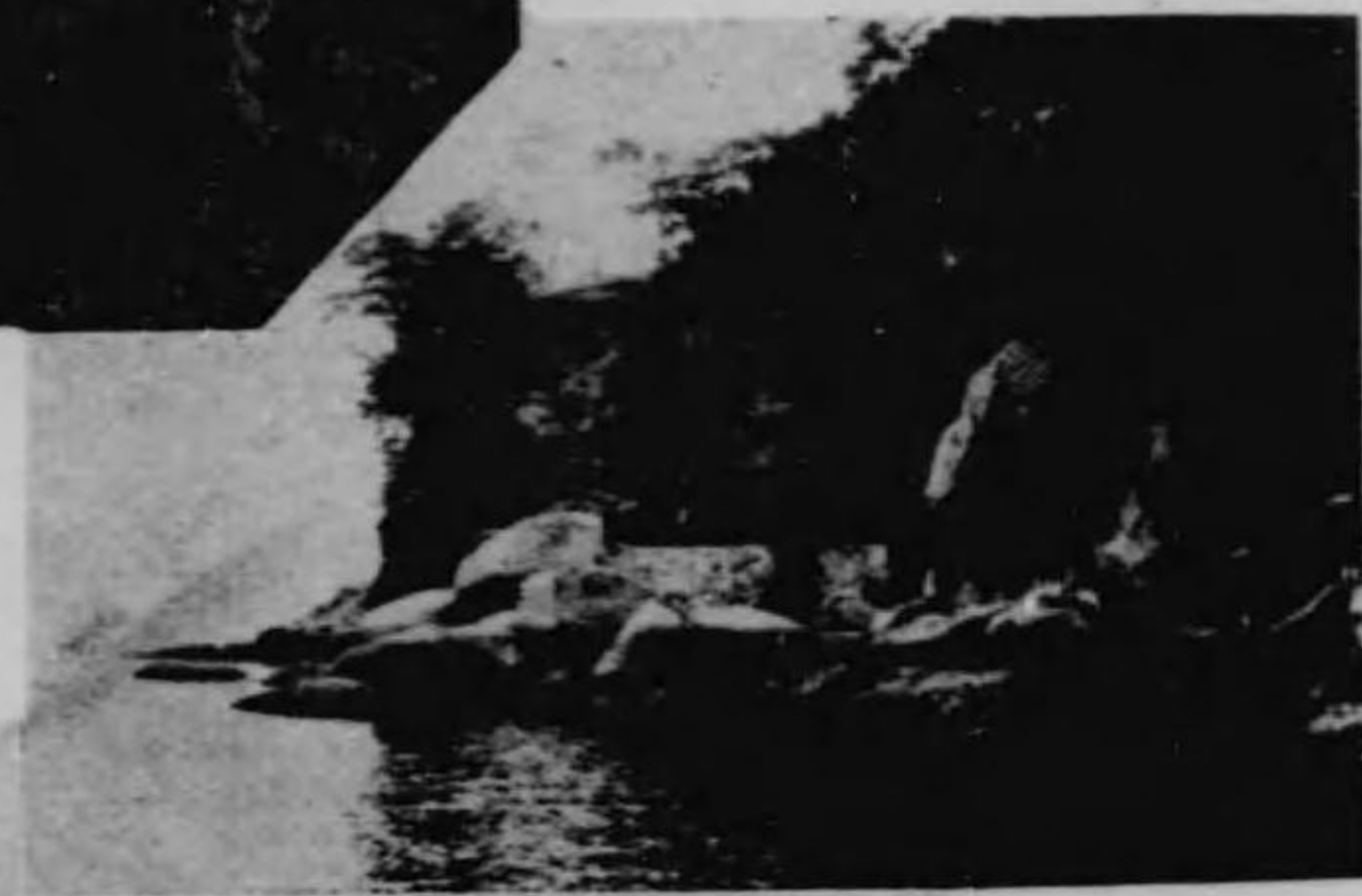
美保關に近づくると五本松の峰が見ゆる、「關の五本松一本伐りや四本あとは伐られぬ夫婦松」と云ふのがそれである。港は灣に沿うて狭長な街衢を爲し、三面山嶺に圍繞せられて居る、「知るらめやうきめをみほの浦千鳥鳴くくしぼる袖のけしきを」と、これは後鳥羽上皇御遷幸の途次、美保關で詠せられた御歌で、後醍醐御遷幸の時も暫く此に風を待たれたことは、史を讀むもの、皆知る所である。此地はまた山陰に於ける遊樂地であつて、暮靄港口を籠め、新月松樹に上るの時、紅燈靜波に掩映して絃歌樓上に湧くのである。町の西南海に面して老松青を拖き、中に一つの鳥居がある、これが即ち國幣神社美保神社で、事代主神及其妃美保津姫命を祀る、毎年四月七日に蒼柴籬の神事、十二月三日に、諸手船の神事を執行する、これ事代主神が大國主神の命に従ひ、國土を天神に譲り、蒼柴籬を海中に作り、船の權を踏みて、自ら隱退し給うた故事によるので、社頭神代史の一頁を繕くも、興多きことであらう。

美保關より北、日本海に面する處、雲津、七類、片江、千酌、野波、加賀の各浦あり、大島小嶼星羅する處、怒濤奔來奇觀をなす、中に雲津浦が最高い、浦の岸濱十八町餘、赭黒の岩層傾斜頗る急峻、高さ十丈、累々乎として將に墜ちむとするかと思へば、突如として豎龍の將に騰らむとするが如きものもある、葱々たる松樹之に倚りて眠り、萋々たる瀑布之を衝て碎け、北風海面を掃て濤聲殷々又轟々、眞に塵外の壯觀である。七類灣は深く陸地に浸入し、大島小嶼羅列し、岩上の松、岩に激する白浪、白帆の遠く浮べらるさま一幅の畫である、野波の北端は即ち多古鼻で、海上に斗出すること一里、瀬崎の漁村がある、瀬崎より沖宿に至る海岸には懸崖絶壁多く、松樹其間に纏繞して屏風を列れ、其下側は北海萬疊の波濤に侵蝕

寒霞溪の石門



土庄の江漏



田鹽及山劍五



栗林公園

境線

せられて十餘の洞門を開いて居る。洞門は高さ數丈窟内相通じて自由に船を入るべく、天然の奇工波濤の彫鑿實に驚くに堪へて居る。

おそろしや丹後丹波の蚤の宿
山ざくら丹波の風はまだ寒し
八朔や天の橋立たばれ髪斗
大江山若菜の禮に女筆かな
ふみも見し鬼住宿の栗のいが
家々の留守居よるなり大社
今市の市日と云へば時雨かな

牛 雅 芭 序 嵐 其 許
隱 因 燕 令 雪 角 六

高松 附近 岡山より宇野に至れば連絡汽船ありて高松に導く、其間僅に一時二十分間、瀬戸内海の眺望、身を一大畫圖中に置くの感を起さしむる、船が高松に近づくと、五劔山の巖嶽たる山容、已に前に高く、右に接して源平の古戦場、屋島が見える、兜島、大島、女木島、男木島等の翠嶺が畫の如く、碧瑠璃盤に散在して居る間を過ぐれば、瓦葺粉壁美しう海波に映じて、高松は、や眼前にあるのである。小豆島寒霞溪の奇勝を探らうと思ふ人は、高松より土庄又は坂手への汽船に頼るがよい、寒霞溪は土庄よりは四里、坂手よりは二里、岩を削りて作った石段を登り行けば、溪流眼下に激し、白雲山嶺に舞ひ、

讚岐線

— 高松観音寺及多度津 — 琴平

四國に於ける鐵道は、現時既に開通せるもの、院に屬する讚岐線、徳島線及私設伊豫鐵道のみである、近頃讚岐線も徳島線も稍延長したけれど、尙何れも局部的で、未だ相連絡して四國の幹線を成すものはない。
 讚岐線は高松を起點として西し、丸龜多度津を経て観音寺に至る線と、多度津より琴平に至る線とを云ふので、高松観音寺間は三四哩九分、多度津琴平間は六哩九分である、尙観音寺より川之江までは鐵道工事中である。

中津海水浴場



琴彈公園



善通寺本堂



琴平神社

瀬戸内の海夢の如く島影を浮べ、濠海讃山の美皆矚目の中に萃まり、一步に一景十歩に十景、百歩にして景百變するのである。洞門、怪岩、瀑布、溪流之に加ふるに水天鬚髯の眺望あり、秋葉錦繡を織るの時最
 美觀を呈する、豊の耶馬溪は、夙く山陽の妙文に因りて、天下に紹介せられたけれど、この神斧鬼鑿の風
 色は、世上説くもの少なきを見れば、自然の景も亦幸不幸を免かれぬものと云はればならぬ。

高松は四國の大埠頭、松平氏の舊城市、玉藻城の白堊が海を壓して美しく立てるを見て、眼を刮せざ
 るものはならぬ。地は中國との最近距離の連絡點で、山陽線宇野との間に院所屬の連絡船あり、近時榮
 港も新に成つた、人口は四萬三千人を有し、漆器、保多織、燐寸等を産する。栗林公園は南半里、人力車
 賃十八錢、元松平氏の遊息所、林泉の美夙に世に聞えて居る、後に紫雲山を貢ひ、六の池水と十三の山坡
 とを巧に布置し、叢林其四方を遶つて居る、亭榭あり、坐して紫雲山の嵐翠を把ふべく、俯して小西湖の
 沈璧を掬するに足る、近時大に治園の計畫あり、本園の將來また見るべきものがあらう。

高松に遊ぶ人は、必ず屋島に行かればならぬ、これ昔に其風光の四國に冠たるのみならず、又日本屈指
 の絶勝であるからである、然も地は源平二氏の決戦地たりし所で、風光歴史を得て更に佳なるを覺ゆるの
 である。高松より一里半にして古高松村、電車賃十錢、村の北一條の干潟を隔つる海島は即ち屋島である。
 元暦二年二月源義經屋島を襲ひ、火を行宮に放ち、平軍盡く舟に上りて、西走赤間關に赴いた、濤聲瀾語
 今尙古を悲しんで居る、屋島寺は殿堂莊麗長松落々として之を護つて居る、寺に什寶多く源平合戦の古器
 を傳へて居る。獅子の巖は寺の西に在り、風光賞觀の位置、茲處を以て全島第一とする、巖頭に立て見

高松の近海圖



渡せば、前には男木島、女木島を始め大小の島嶼の碁布するあり、遠くは山陽の連山淡雲縹緲として雲の靡くが如く、右は壇ノ浦一帯の風光眼下に展けて、仰げば五剣の峰頭天を突くあり、左は國見山の連峰東西に蜿蜒し、近くは高松市の瓦葺より海に泛べる玉藻城の一廓、宛然畫圖を見るやうである、附近には那須興市の祈石あり、佐藤繼信の碑あり、景清鑑引の址あり、親しく七百年前の歴史を讀む心地がする。五剣山は讀の名山で驛東二里二十五町、電車賃十三錢、屋島と壇ノ浦の一曲浦を挟んで相對して居る。山頂は著しく削磨せられて絶壁をなし、遠く望めば、拳狀の岩柱の突起せるが如く、所謂五劍矗立の奇形なして居る、山の半腹千手院あり、矚目雄大である。

高松より徳島まで陸路十八里、阿波街道、志度街道がある、志度街道を辿れば六里にして志度町、名刹志度寺があるので名高い、電車賃金十九錢、町に平賀源内の遺宅あり、源内の遺品を存して居る、源内焼と云ふ陶器を産するものも、亦彼の指導に由ると云ふ。津田町は志度より二里、町と鶴羽町との間、積翠の長帯を曳けるは津田松原で長さ殆ど一里、平滑なる沙濱に松樹線を拖いて風景畫くが如く、淡路島髣髴として雲烟の間に隱見して居る。

●無鬼 ●香西の浦、北廿五町、風光明媚、●嶋岡 ●一ノ宮、東二里、●法然寺、東二里半、●四分 ●四分寺、東二町、●國分八幡宮、東十四町、金比羅利生記に名高い田宮坊太郎仇討の趾、●龜の宮天満宮南二里、●鴨川 ●白峰

寺、北二里、人力車賃三十五錢、崇徳天皇の白峰御陵あり、内海の水一帯鏡の如く、鹽田の諸島點々其石を散せるが如く既望願住なり、●木丸御所址、南十町、人力車賃十錢、崇徳上皇行在所、●城山神社、南九町、●丸龜 ●元京極氏の城市、往

時は琴平参詣の要津であつた、今人口二萬七千を有し、花庭、園圃、竹細工等の産がある、○丸龜城址、南十町、○中津公園西半里、附近海水浴場あり、夏季臨時中津驛を設く、○田宮坊太郎の墓、南四町、支那寺内に在り、○井上通女の墓、南二町、大音寺内に在り、○多度津、瀬戸内海に臨む、玉島尾道よりする琴平参詣の上陸地である、汽船三等玉島三十四錢、尾

道七十錢、●金藏寺、○金倉寺、東三町、智恵大師の誕生所●善通寺、弘法大師誕生地として名高く、特に第十一師團設置以來繁華の地となつた、○善通寺、西十町、馬車賃五錢、五岳山誕生寺と稱す、弘法大師の風々の聲を擧げた地で、今の寺城は父善通の邸宅であつたと云ふ、境内廣瀨寺宇各所に響え、洵に讃州第一の巨刹である、●琴平及觀音寺

金刀比羅宮、觀音寺及道後温泉

琴平は有名な金刀比羅宮あるが爲に繁華な地で、市街は高低參差して象頭山腹に及んで居る、宮は驛西十四町、象頭山の中腹に在り、大已貴命を祀り、崇徳天皇を配祀してある、近世海内無比の靈祠と稱し、群俗の崇敬極めて厚く、賽人の多いこと、伊勢大廟に亞ぐといふことである、報賽祈願の男女四時市中に填充せる中に、赤銅色の顔逞しく、髪を大髻に結んだ、船乗の往き來するのが、特に目新らしく、繪馬堂の中にも風波難船の類が多いのは、此神の海神と仰がるゝからである、船の海路に迷ふ時、此神を念じて著岸を祈れば、暗夜必ず一團の火現はれて導くと傳へて居る。麓より祠前に至る迄九町、華表、燈籠、鼓樓等道を挟んで居る、賽路の入口に鞘橋あり、鼓樓の傍には清少納言の墳がある、數千級の長燈上り盡せば、神殿、拜殿、繪馬殿、參籠所、社務所等、皆近時の改築に成り、壯麗眼を驚かすのである、拜殿珠垣の邊より北望すれば、近く讃岐富士、八栗、五劍の山を看、青螺幾點烟波十里の風光が見える、琴平公園は驛南七町、山海の風光がよい、園と相對するは金刀比羅宮

神事場で一境別に開け、地清く砂白く、老松盤旋溪聲靜かである、琴平よりは徳島線の終點たる阿波の池田へ自動車の便あり賃金二圓三十四錢。

多度津より西海岸寺驛の北一町、屏風浦海岸寺あり、弘法大師の舊蹟で、海岸は海水浴に適して居る、觀音寺驛に至れば驛北十二町觀音寺川の海に注ぐ所に、巨刹觀音寺及琴彈八幡宮がある、人力車賃十二錢、寺は神惠院と號し琴彈山の北麓に位し、弘法大師が琴彈八幡の神託に因つて建立せられたもの、本尊は大師の刻せられた正觀音である、山は高くはないけれど、山勢優美白砂を衣とし、奇巖怪石の間翠松鬱々として茂つて居る、石燈千餘級頂上に八幡宮がある、山頂の四角に在る象鼻巖は眺望最佳、伊吹、大島の青螺近く前に浮び、遠くは山陽の峰巒より九州の一角まで依稀の間に認むべく、左方に煙靄淡く籠めて紫の色ほのかなのは伊豫の連山、右方に長蛇の蜿蜒として海に走せ入つて居るのは三崎の岬角で、沖に霞める白帆の影、磯に潮引く海士の舟など又畫中の景である。

川之江町は觀音寺より四里半、馬車賃三十五錢、東豫の一名邑で鐵道は近く開通の豫定である、吉野朝の頃河野氏の一族茲に勤王の兵を擧げた、川之江の西は妻島村と云ひ、其東宮山に輕太子の墓と傳へて居るものがある、川之江より立川街道を南すれば馬立村に仙龍寺がある、弘法大師修行の遺跡と稱し、山溪の勝を相して堂宇を建て、地境頗る幽邃また山間の一仙洞である。

道後には四國第一の温泉、尾道より汽船にて高濱に行けば伊豫鐵道の便あり、四十分にしてはや温泉に達するのである、高濱は松山市の前港で興居島長く前に横ばり、伊豫不二其影を海波に映じ、風光の美旅客

の思を惹くのである。汽車高橋を後にすれば、やがて海岸をはなれ、一帯の平野前に展げ来りて、松樹蒼鬱たる丘陵中、松山城の白壁が目に見えて来る。松山は久松氏の舊城市で市の中央に城山の一丘陵あり、市街は其麓を縫うて居る、今人口四萬千人を有し、伊豫耕を産する、俳人子規の故郷である。

道後の發見は遠く神代にあり、海内の温泉中その最古に聞ゆるもの、此湯の右に出づるものはない、加之景行、仲哀、齊明、天智、天武、舒明諸帝の行幸を忝うしたとは、此地の人の大に誇りとする所である。凡そ四國には十餘の温泉があるが、多くは冷泉で温泉に乏しい、獨り此地の熱泉を湧出すること、誠に天造地設の奇と謂ふべしである。伊豫のゆの湯桁はいくつ數しらすかぞへずよます君ぞ知るらむ、昔時は湯が諸處に湧き出で、其所々に湯桁を架したと云ふことで、源氏空蟬の巻にも「いで／＼およびを屈めて十はた三十よそなど數ふるさま、伊豫の湯桁もたど／＼しかるまじう見ゆ。」と見えて居る。今は浴場六區あり、中に最華麗を極めて居るは新湯である。聖德太子の建てられた温泉碑は、後世埋却したけれど、其文は釋日本紀に載つて居る。附近の散策地には伊佐爾波神社、道後公園、石手寺等がある。

金刀比羅奉納人のすゝめに

花高し懸けたてまつる朝霞 也 有
苗代や第一番は善通寺 子 規



小 歩 危 の 勝

德島
附近

德島に行くには大阪又は兵庫より小松島への汽船便に頼るがよい、小松島より德島へは僅に二
十分にて達せらるゝ、この航路は大阪商船と阿波共同汽船との共同經營で、汽車汽船連絡切

德島本線 德島—阿波池田

記してある。
沿うて南方に屈曲し、大冒危、小冒危の峻を経て土佐に入る。小松島輕便線の記事は本線に附
岐の琴平より來る街道、伊豫の川之江より來る街道、共に池田にて土佐街道に合し、吉野川に
の總稱で、其本線は德島を起點として吉野川の南岸を走り、池田に至りて止まるのである、讃
二 小松島輕便線 德島、小松島間六哩九分。
一 德島本線 德島、阿波池田間四六哩。

德島線とは

德島線

船 絡 連 と 驛 島 松 小



祖 谷 の 蔓 橋



岡 の 田 邊 三 川 野 吉

符を發賣して居る、汽船賃大阪、兵庫より共に二等一圓五十錢、三等九十五錢である、小松島の海岸には横須の松原があつて海水浴に適する、町の東海岸日峰堂立す、驛より八町、山嶺は四方絶壁となり處處松樹の盤回するあり、眼下には波濤の澎湃たるを聞く、山の麓は即ち餘戸浦で、源廷尉が元暦二年平氏追撃の爲め暴風を犯して上陸した處、彼は阿波國守の軍を茲に破り、大阪山を越えて讃岐の屋島に行つたのである、丈六寺は地藏橋驛の南三十町、人力車賃十九錢、勝浦川に臨んで居る、曹洞宗の巨刹で結構宏莊である、徳島は峰須賀氏の舊城市で、吉野川の吐口なる三角洲上に位し、紀伊水道に臨んで居る、四國第一の都會で人口六萬六千人を有し、阿波縮、綿ネル、白木綿、紺緋、細織等を産し、藍、材木、砂糖の集散地である、驛の東三町山あり深樹鬱蒼として吉野川を帯にす、山勢孤圓之を望めば猪の伏するに似て居るので、滑山と云つて居る、これ峰須賀氏の舊治城の址で今公園としてある、紀の峰呼べば應ふべく、淡の海俯せば揃すべく、四望一盡眺曠長美である、城山の西南大瀧山に持明院あり、勝景市中第一である、人力車賃十錢、南海の勝は鳴門の壯觀を以て第一とする、この壯觀を見むには、淡路の鳴門崎、又は大毛島の孫崎に行くがよい、徳島よりは北四里、巡行船の便がある、船賃往復四十錢、人力車賃撫養まで一圓七十錢、玄海洋の蒼龍が馬關海峡より入つて、瀬戸内海に浮游し、淡路島と阿波との間の隘門を通つて、南海に出でむとする處、恰も南海の猛虎の、また瀬戸内海に進入して來るのに會ひ、龍虎相遯へて茲に一大奮闘を起し、海面未曾有の大盤渦を起す、鳴門の壯觀はかくして、人をして魂飛神驚、萬髮倒に立たしむるの光景を呈するのである。

蓋し本邦潮流速力の最強、鳴門の右に出づるものはない、大潮の際は一時間七海里乃至八海里半、而も風候に因りては、十海里以上十一海里に達することもある、淡路の鳴門崎と大毛島の孫崎の間、相距ると十五町、其中間に石灘が横はつて居るのを、中瀬と云ふ、長さ二町二十四間幅十間、やゝ形體を露はして居る、島あり、西なるを裸島といひ、東なるを飛島といふ、潮流大速力を以て之を通過する時、中瀬に碍へられて、激しく浪を飛ばし、渦を捲きて狂奔する、其音數里外に響き、千輪の雷車を一時に鳴らすかとも驚かるゝのである。

見よ南海の猛虎、徐々として來りて岩礁に激する時、其高きこと一丈許、内海の蒼龍、これを海峡の壑き處に迎へ撃ち、相持し相闘ひ、怒號叱叫相驅逐するの壯觀を、正にこれ龍門千尺の瀑布逆天に流れて、銀河に落ち合ふかと疑はれ、灘谷の巴左右に流れて、淵穴の深き金輪も見ゆるかと怪しまれる、龍虎相擊つて倒るゝ時、大小數十百の盤渦を作る、其大なるものは直徑一町に至り、小なるものも十數間に下らず、呀然として相吞吐し、分れては合ひ、合ひてはわかれ、奔流數里長鯨の百川を吸ふが如しである、滿潮の時、南海より來り、干潮の時、内海より來る、月齡の初滿潮の時最觀るに、海潮盈虛せざる時は、海士釣を垂れ蟹女貝を拾ふ、往來の船の帆を掲げて渡るさま、翻々として蝶の落花を追ふに似て居る、靜觀動觀收めてこの、峽にあるのである。

撫養町は大毛島の西南、小鳴門水道に當る要津で、江渠を以て吉野川に通じて居る、附近齋田鹽を産する、撫養の東岡崎の里浦に清少納言の墓と云ふのがある、五輪塔の石碑で別で小さな宮がある、此地はも

と彼の父清原元輔の采地で、晩年茲に來りて天年を終へたと云ふ。撫養より西撫養街道を辿れば、二里にして池谷の天王山下土御門の御陵がある、それより西一里坂東に至れば、大麻山の翠微眉を歴して攀え、山麓大麻比古神社あり、阿波一の宮で今國幣中社に列し、社殿壯麗である。

●徳本 ● 蜂樂師、南十町、○新居不動寺、北十五町、
●府中 ● 常樂寺、南廿五町、○國分寺、南二十町、○觀音寺、
西九寺、○大日寺、南一里五町、●石井 ● 龍學寺、南廿町、
●鴨島 ● 藤井寺、南廿七町、○熊谷寺、北一里半、●西
麻植 ● 切幡寺、北一里廿町、●山瀬 ● 劍山、南十里、
四國第一の高峯既望雄大である、●川田 ● 岩津洞、西三町、

吉野川の風光佳、○高起山、南二里、櫻の名所、●穴吹 ●
○八幡神社、北二十町、社地高煙既望に富む、●貞光 ●
○息部神社、南二里、○鳴鶴土釜の跡、南二里、人力車賃三十錢、
●辻 ● 多美山、南二里、多美四十八福の跡あり、○徳島
寺、西北一里十町殿堂壯麗である、山麓まで人力車賃廿五錢、
●阿波池田 ●

池田附近

池田は山間の要害地、讚豫土交通の衝に當り、吉野川を上下する船舶も亦多く輻輳するので、一種河港の繁華を呈して居る、三好氏茲に在りて阿波を治し、長曾我部氏亦白地に居城して四國を兼併した。白地は池田の西、吉野川の左岸に在りて水を隔て、相望んで居る。雲邊寺は曙の西北二里雲邊寺山頂に在り、空海の開創である。元親嘗てこの山に登りて四州を望み、呑噬の念禁する能はず、遂に兵を起して讚を打ち豫を平げ、覇をこの地に稱するに至つたのである。

土佐西街道は白地より吉野川に沿うて南して居る、川口は池田より二里、伊豫川の吉野川に會する處に在り、水運の河港である。西字より以南は山路愈峻に、吉野川の溪流峡谷を爲して深く流れ、大岩危、小

岩危に至れば山崖高く壁立し、流水狹穿して低く、恰も井底を走るが如く、水鳴り石動き、宛然柳州八記の中に在るが如き思を爲すのである、池田より小歩危まで四里人力車賃七十錢、大歩危まで五里、人力車賃九十錢、

土佐國境に近き下名より川を渡りて東すれば祖谷村、蔓橋の奇がある、池田より下名まで六里人力車賃一圓、祖谷は吉野川の一支、松尾川の山谷で、劍山の西北麓にあたる、劍山は海拔七千四百尺、其裾長く六派の山脈を曳いて六溪流あり、分れて六方に走つて居る。溪流の大にして奇絶なのは即松尾川で、溪を隔て、東西祖谷村がある、溪澗左右絶壁をなし、橋梁を架することが出来ないので蔓を編んで釣橋を設くるもの都て十三橋、中に最闊えて居るのは善徳橋である。長さ三十三間、之を望めば雲棧の中霄を渡るが如く、直下十八丈水石激怒せる上に懸つて居る、渡りて中頃に至れば、橋搖々として軽く颯り、身は次第に天上に登るかと思はる、住民は平國盛の遠裔だと傳へ、赤旗二旗を藏して居る、村に舊家七家あり、御屋敷と稱しいづれも正平中の繪旨執達狀を傳へ、細川氏に抗敵した、蜂須賀氏入部の後も、唯招撫を加ふるに止めた。僻遠なる深山、外界の文化に感化の縁なきこと茲に七百年、言語風俗中世の遺風を留めて居る。

黄鳥の淡路へわたる日和かな

子規

鹿兒島線

鹿兒島線とは

- 一 鹿兒島本線 門司、鹿兒島二三七哩一分、及貨物支線。
- 二 室木線 遠賀川、室木間六哩九分。
- 三 篠栗線 吉塚、篠栗間六哩四分。
- 四 宮地輕便線 熊本、肥後大津間一四哩。
- 五 三角線 宇土、三角間一五哩九分。

の總稱で、其本線は帝國鐵道幹線の一部をなし、門司を起點とし、九州を縦貫して鹿兒島に達するのである、其間小倉よりは豊州線を南に分岐し、折尾にては筑豊線と交叉し、遠賀川よりは室木線を南に岐ち、吉塚にては東に篠栗線を岐ち、鳥栖よりは長崎線を西に分岐し、本線は更に南して熊本にて宮地線を東に岐ち、宇土より三角線を西に岐ち、八代よりは球磨川に沿うて人吉に至り、矢嶽を越えて大隅に下り、國分より鹿兒島灣に沿うて鹿兒島に至つて止まつて居る、列車は門司、鹿兒島間三回の直通列車あり、約十時間半を要し、別に長崎より鹿兒島へ

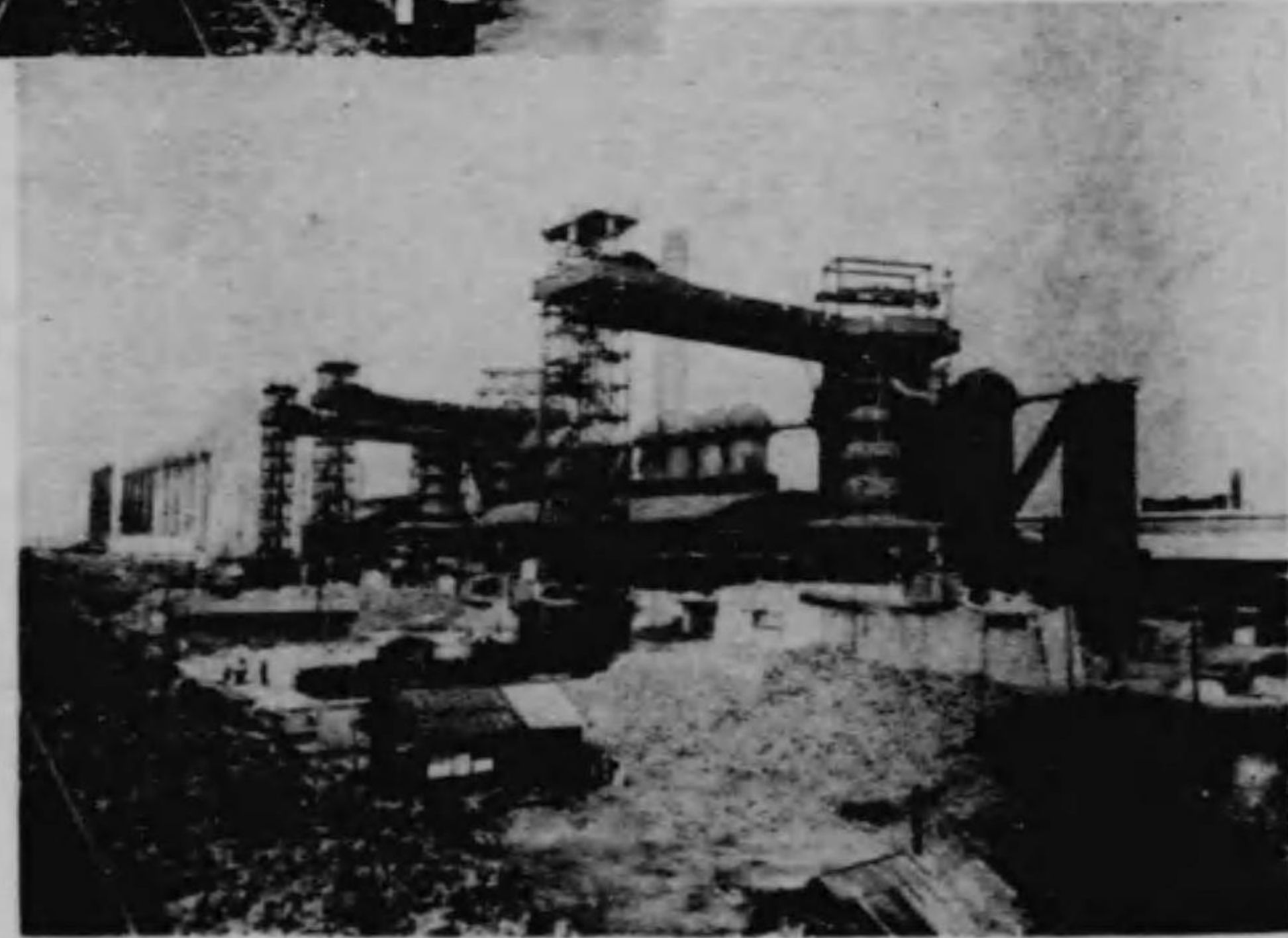
門司停車場



門司驛附近石炭堆積の光景



菊の高濱



八幡製鐵所

博多西公園



海の中途



太宰府神社梅園

津屋崎海水浴場



香椎宮



千代の松原

阿蘇山文晝筆

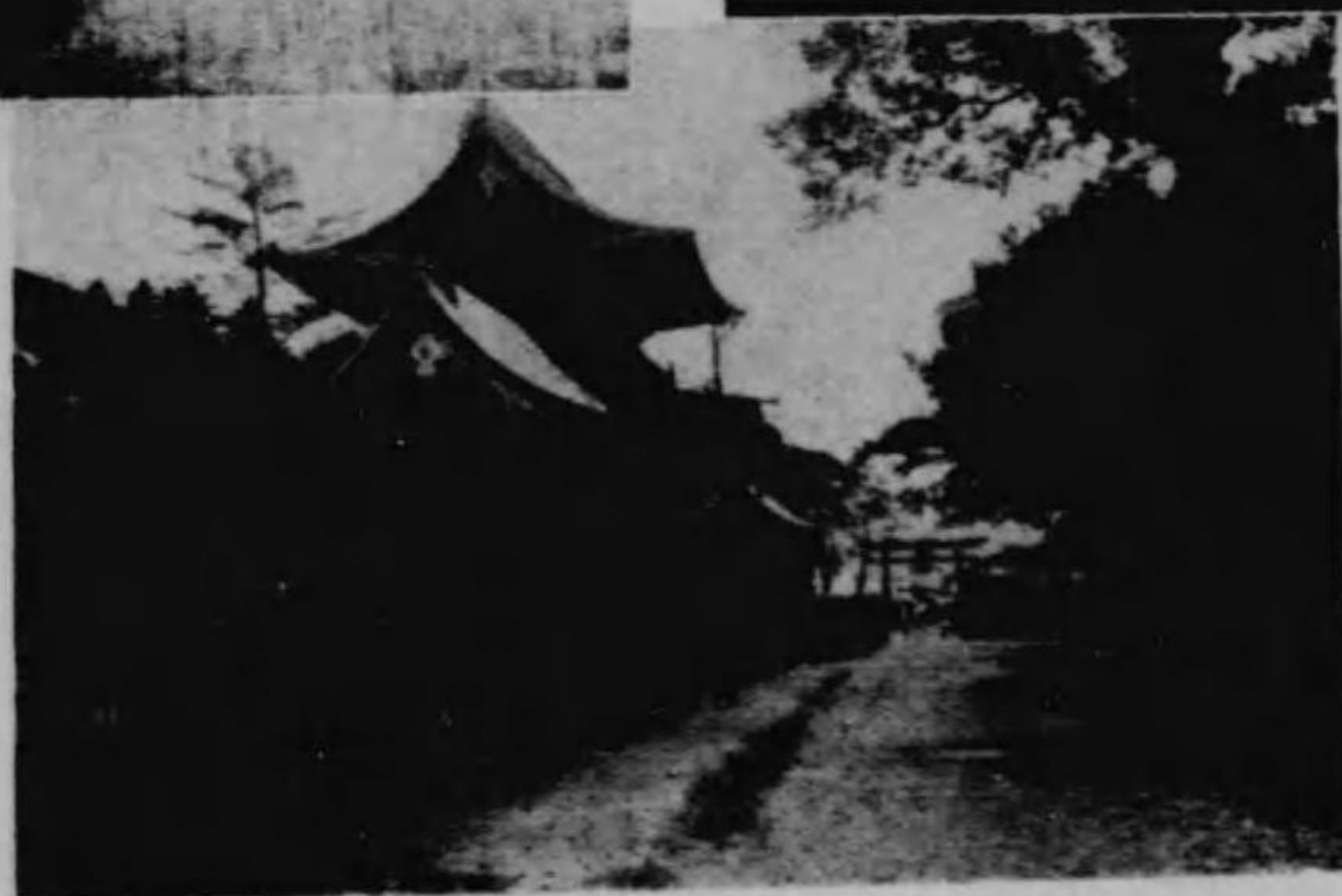


阿蘇山
文晝筆

數鹿流瀧

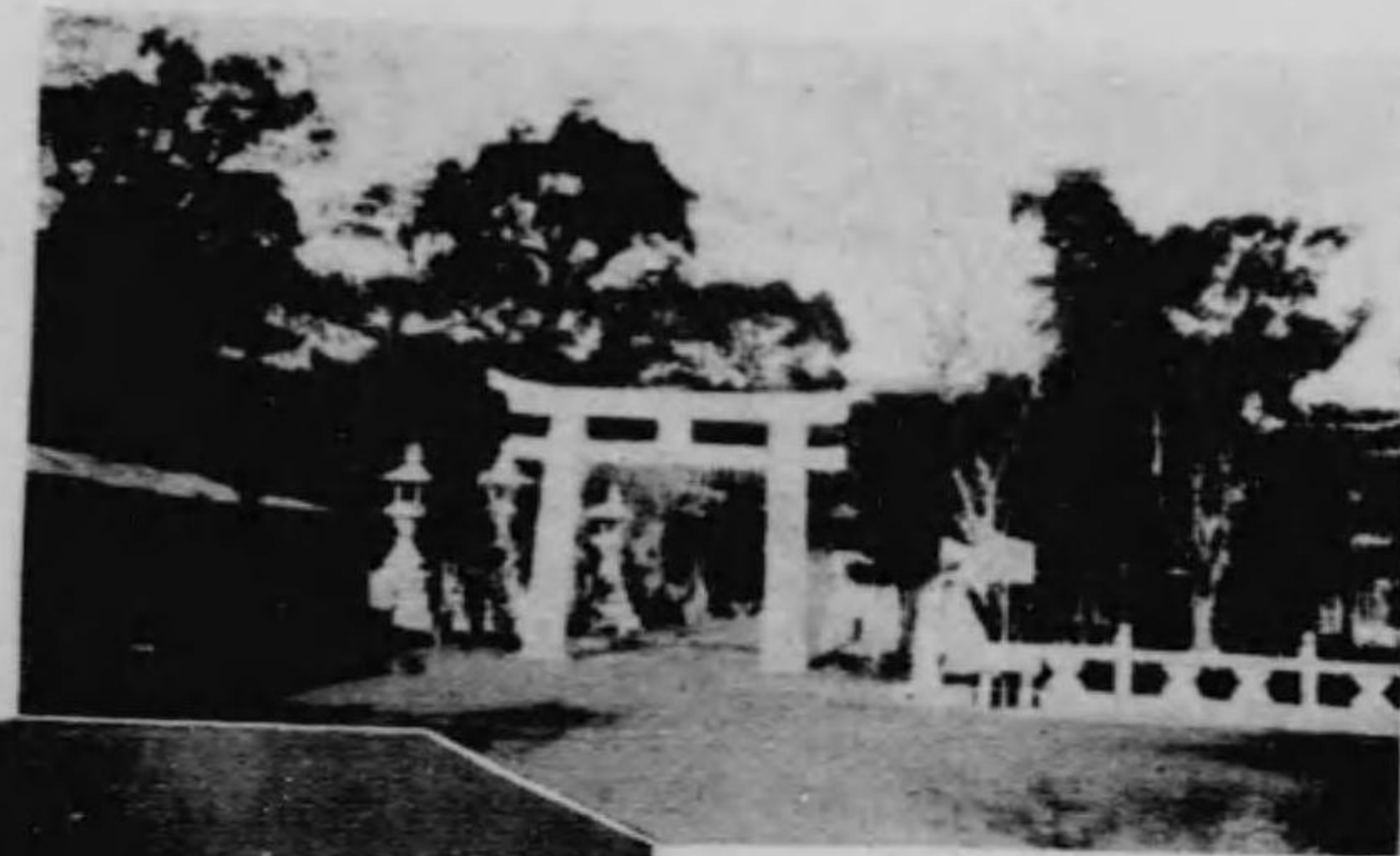


阿蘇山噴煙



阿蘇神社

水天宮



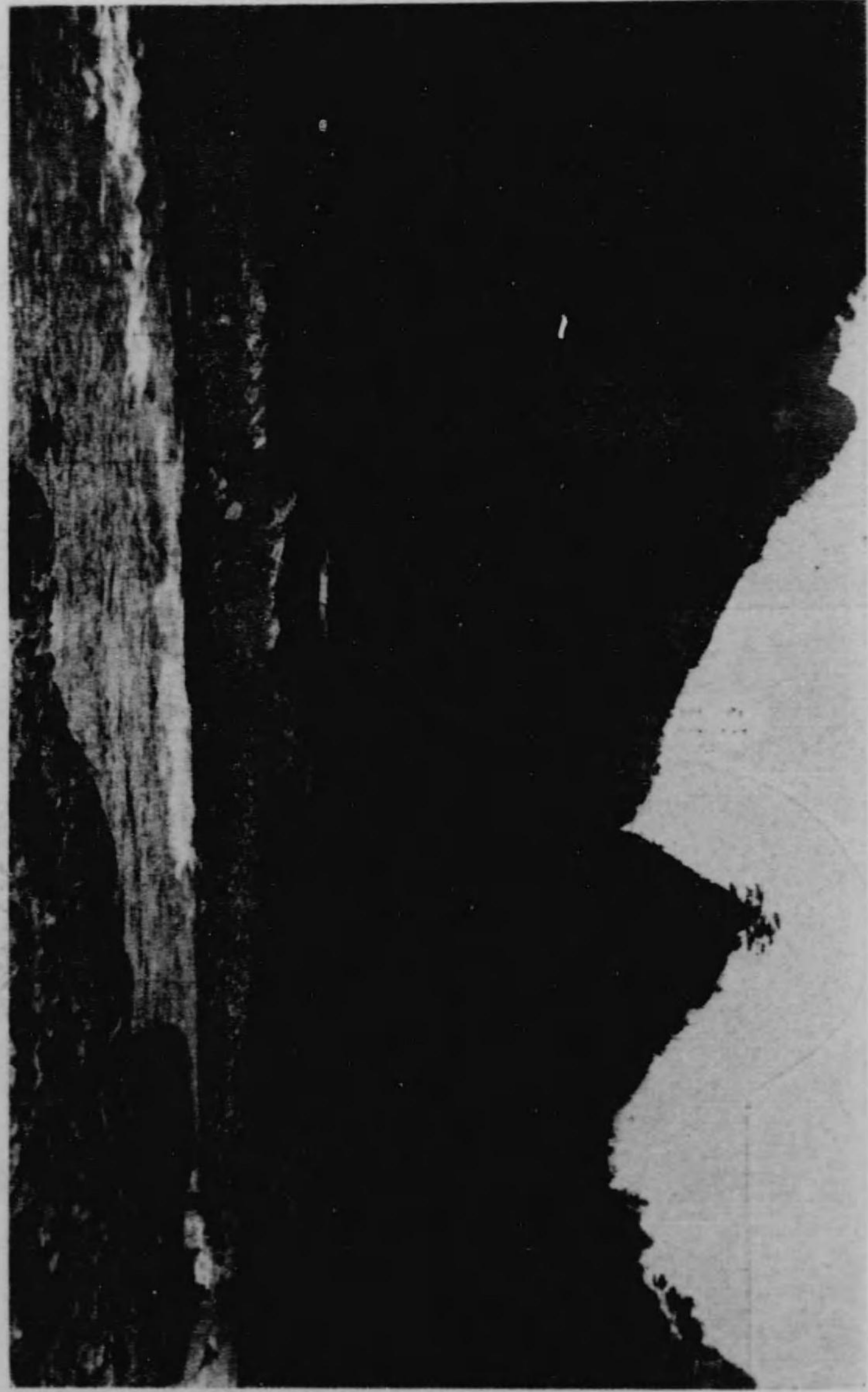
山鹿燈籠

熊本水前寺



畫圖湖

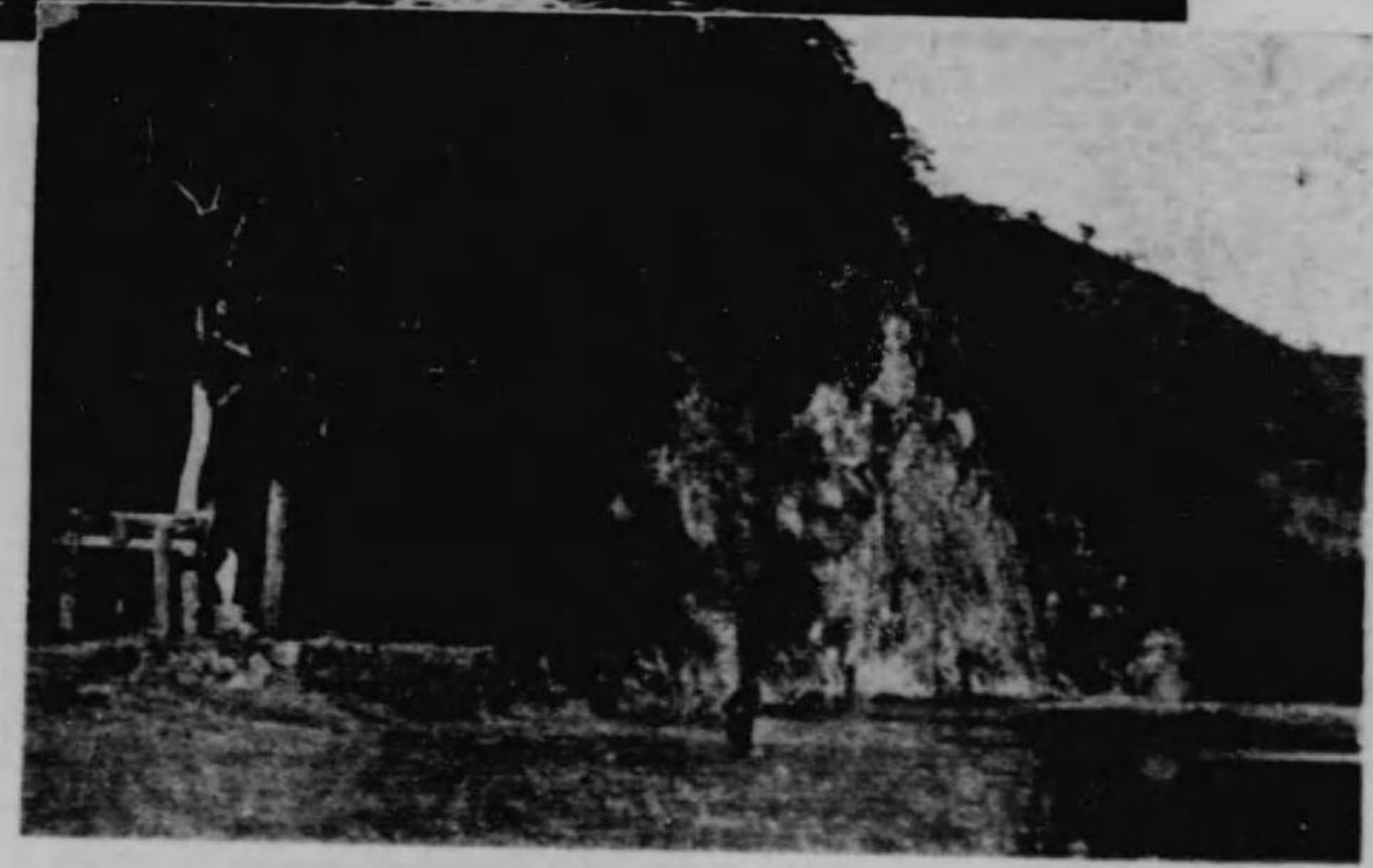
近附岩公正清川磨球



大慈禪寺

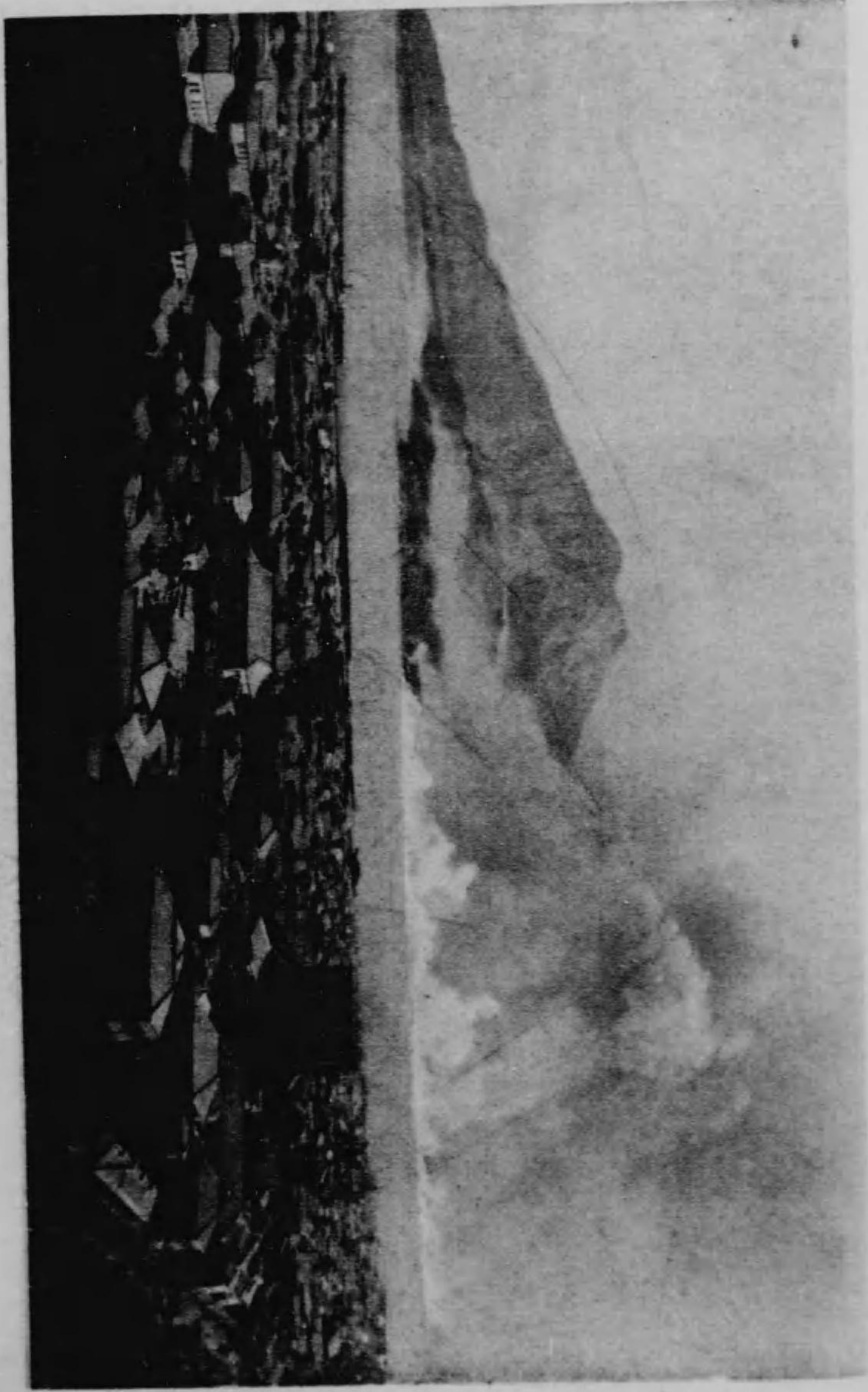


七瀧



立神の懸崖

大正三年一月櫻島噴火の光景



球磨川遙拜の瀨



日奈久温泉



神瀨の岩屋

霧島明善温泉

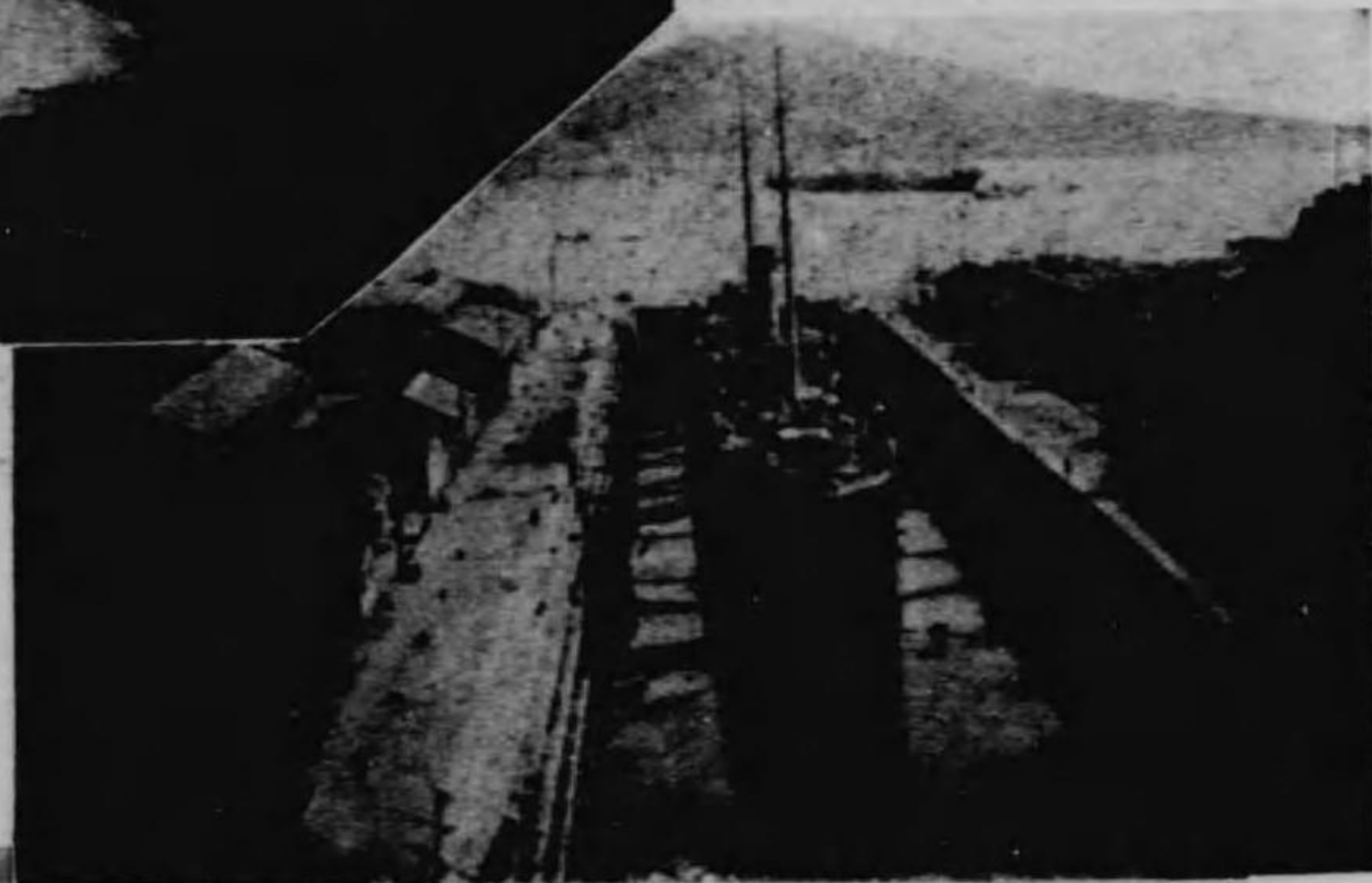


人吉附近の球磨川

大村灣の風光



長崎三菱造船所第三船渠



同風頭揚の賑ひ

松原神社



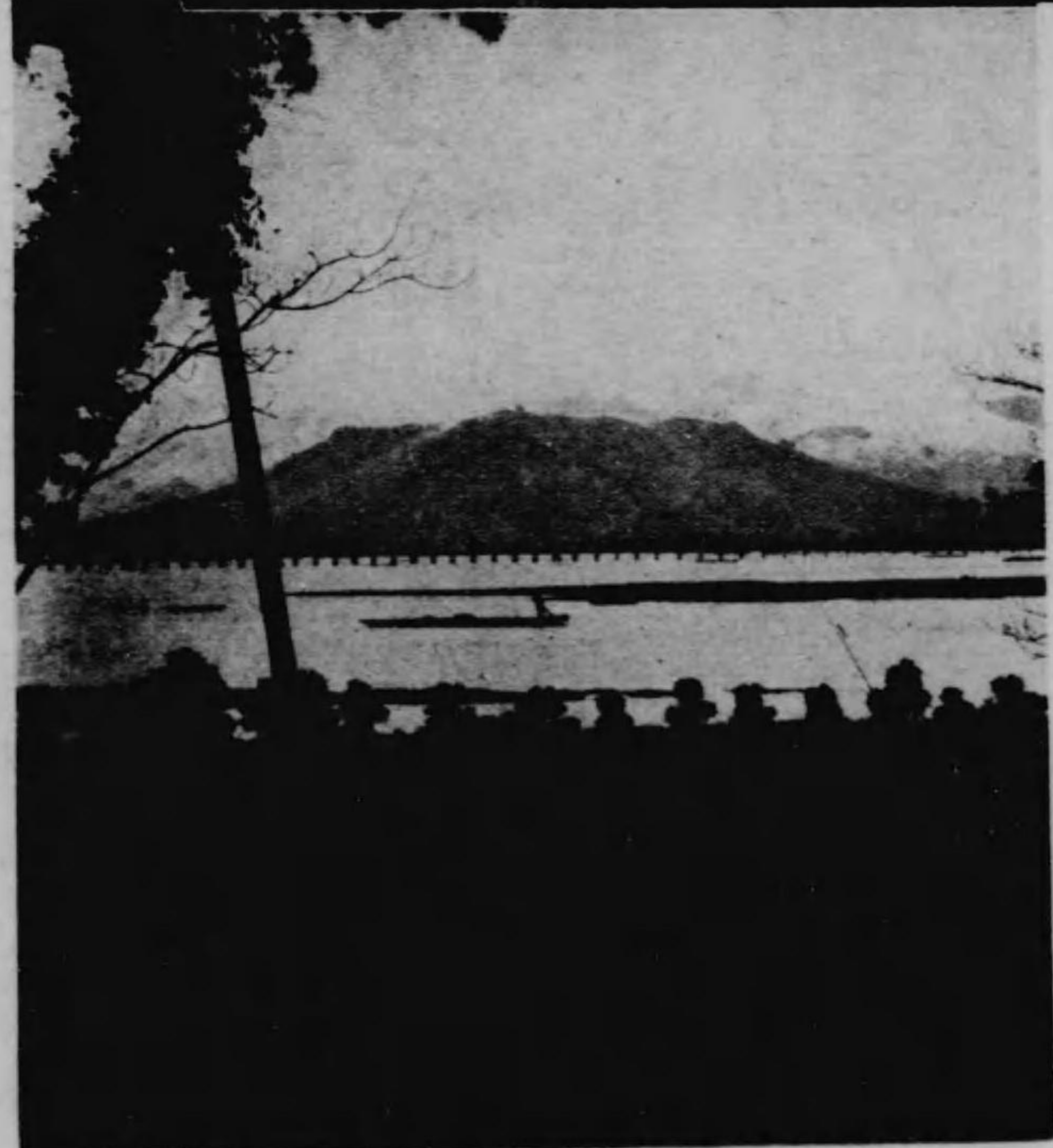
花の山櫻温泉雄武

荷稻徳祐



有田香蘭社工場

小 城 櫻 岡 公 園 の 雪 景



領 巾 振 山

小 濱 温 泉

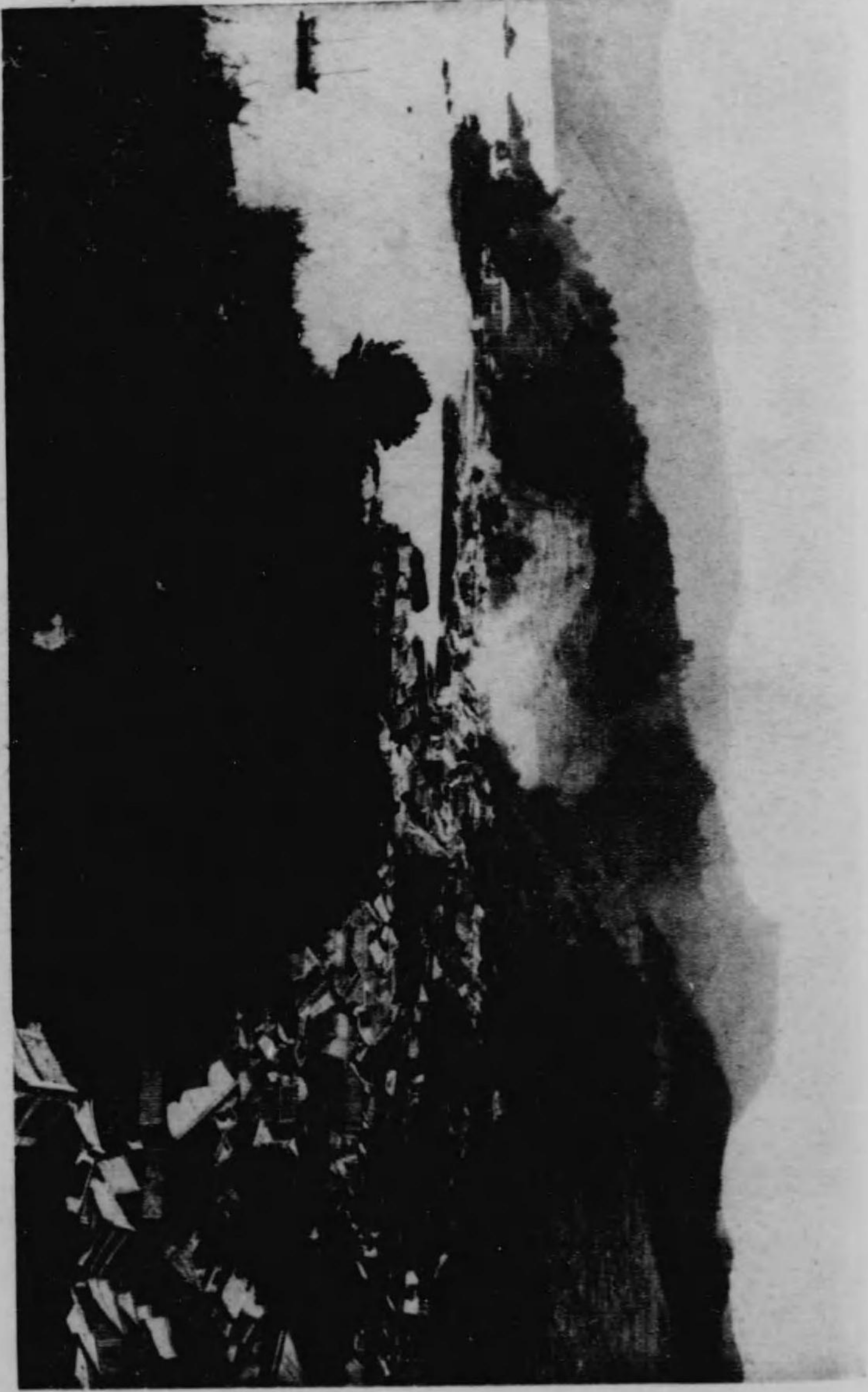


温 泉 嶽 温 泉



島 原 港 の 一 部

景全關の賀佐



飛兔溪馬耶新

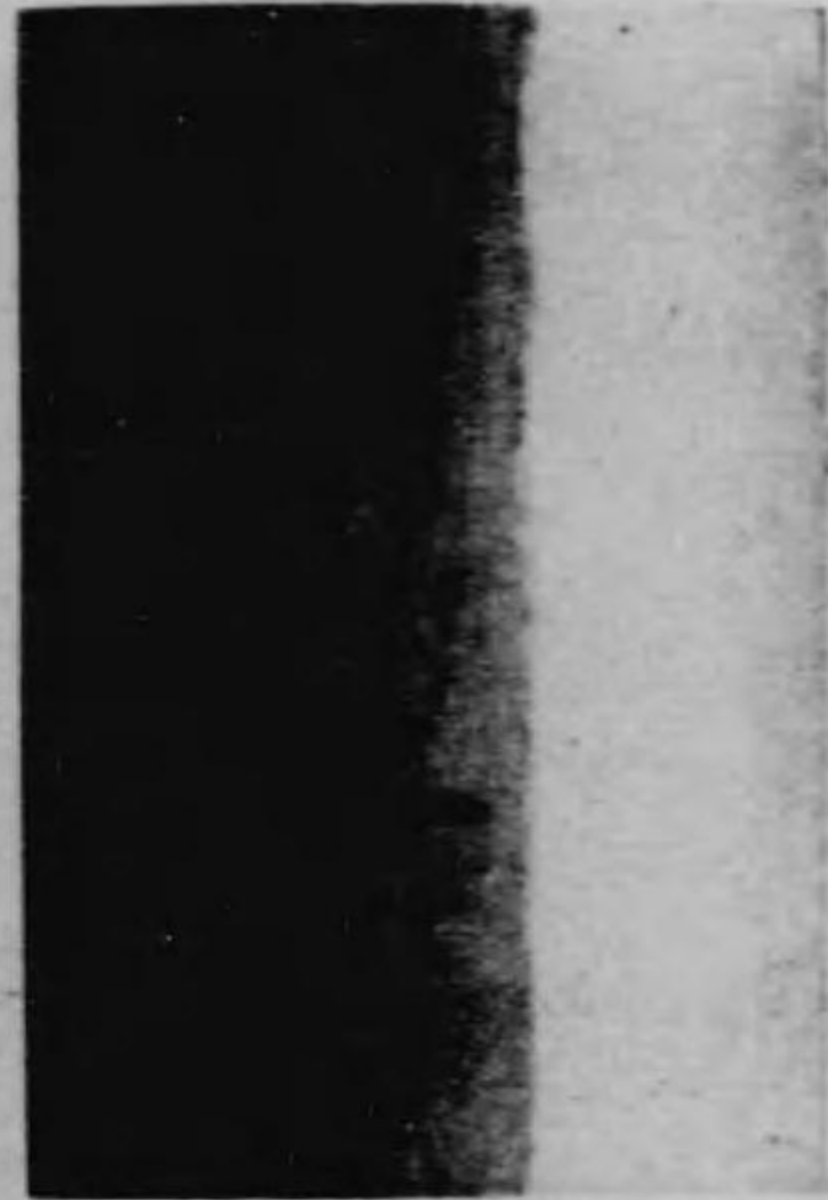


新耶馬溪深瀨谷



木神山彦英

車列炭運線豊筑



内橋驛松若



別府温泉海地獄



別府海岸の沙湯



港菴菌分大

神武天皇御降誕地



霧島山より見たる都城方面

照島

の直通一回あり、約十七時半を要する。

汽車門司を發して海岸に沿うて西に走れば車窓の右に筑豊諸地の煤炭の累々たるが見える、汽車運び來り汽船搬び去りて綿々盡きず、人をして直に九州の富を想はしむるのである、大里の海濱白沙青松長く連り、風光頗る佳、企救の高濱と云ふ、濱を後にすれば玄界灘の怒濤澎湃として六連、馬、藍、白洲の諸島眼界に入り來るのである、戸畑より汽車は洞海の東南岸に沿うて走り、八幡の製鐵所線路の右に見えて、無數の煙突林立し、煤煙天を覆うて居る、對岸の若松港亦近く指せられる。香椎、箱崎の間、一水緩に流れて海に入るを見る、川は多々良川、尊氏西奔の時、肥後の菊池氏が吉野朝の爲に、屢少貳大友と戦うた所、汽車は此間を走りて、海の中道を右に見つ、進む、風光明媚である。

箱崎より博多に至る間は即ち千代の松原、満目の赤松千態萬様、筥崎宮、龜山上皇、日蓮の銅像等皆車窓の眺に入りて、汽車亦畫中のもとなつた感じがする。博多よりは鐵路南し、菅公に因深い天拜山を右に、寶満山を左に見つ、進んで行く、この間山野田蕪の間、多く楡樹を見る、晩秋の眺、紅楓より美を呈するのである。筑後川は九州第一の長流、川を渡れば久留米である、大牟田を過ぎて長洲に至れば、有明海初めて見えて快云ふべからず、海の彼方に幾々として聳ゆるのは島原の鎮山温泉嶽、これより八代に至る間、幾度か車窓の人を楽しましむる

のである。高瀬より南木葉、植木の邊は、明治丁丑の役の古戰場、彼山此水悉く血戰奮闘の跡である、此間汽車は右に三ノ嶽、左に田原坂の丘陵を見つゝ進むのである。熊本を後にして左窓東北を望めば、群峯天を指す中に、中央の一山、熾に煙を噴くのを見る、これ阿蘇の靈峯である。八代よりは、鐵路球磨川の峡谷に沿って走り、絶勝目を新にするのである。人吉の盡頭、三度球磨川を渡りて矢嶽に至る間は、球磨川畔と共に九州に於ける難工事で、急傾斜の山嶽を登るに際し、軌道を螺旋狀に敷設し、其中間に水平面を設けて大畑驛を設けてある。矢嶽の隧道を出れば、霧島の峯巒波濤の如く連り、眞幸平の平野遠く見えて景致雄大である、汽車はこれより急勾配の線路を下りて眞幸を経、益々南して錦江灣頭の國分に至り、灣に沿うて西南鹿兒島を指すので、其間櫻島徐に山容を變へて、絶えず車窓の眺に入り風光畫を見るやうである。

鹿兒島本線 門司—鹿兒島

●門司 ●九州の最北端、海峡を隔て、下関と相對し、瀬戸内海及九州の咽喉を扼し、本邦重要の海門である、二十年前の一漁村今人口五萬六千人を有し、貿易港として其發達の速な事全國稱

有で、二十三年に於て三十四萬圓であつた貿易額は、大正元年には四千二百六十四萬圓に達した。●甲宗 八幡宮北十町、電車賃四錢、●和布刈神社、西北半里、對洋橋ノ浦と相距離歌町、

潮流激甚、風光明媚である、●大里 ●柳の御所、南二町安徳天皇の行在所、●小倉 ●豊州線の分岐點、馬關海峡西口の南端に在り、小笠原氏の舊城市で今十二師團司令部がある、人口三萬二千を有し、古來小倉船を産出して居る、幕府時代には九州藩藩主東上の船場であつたが、門司港の開けてより、漸次其繁榮を衰はるゝこととなつた。●勝山城址、南三町今十二師團の營所、●永照寺、東七町、眞宗、九州の本山と稱す、●延命寺、東廿町、電車賃七錢、海岸の丘上に在り、眺麗甚佳、境内宮本武藏の碑あり、對洋齋島の東に在る岸柳島は、當年武藏が仇敵岸柳を仆した處である、●篠崎 八幡宮、西南十五町、●月畑 ●筑豊炭の輸出港と成つてから、若松と共に急激な發達をした、●名護屋御、北五町、風光佳、●八幡 ●驛前製鐵所あり、構内三十萬坪、製品及材料運搬の爲めに敷設したる軌條の長さ五十哩を超え、一年製作高十五哩に達して居る、●黒崎 ●福壽寺、東南十二町、●折尾 ●筑豊本線の交叉點、●則松園泉、南十五町、人力車賃十五錢、●陳の原屬、東北二十三町光蓮寺内に在り、人力車賃十八錢、●遠賀川 ●室木線の分岐點、●蘆屋の濱、北一里半、神武天皇東征

の途次、暫く駐まり給うた所、神武天皇社あり、支那海嶺の風光雄大、●八劍神社、東六町、日本武尊體勝を征せられた時の遺蹟だと云ふ、●海老津 ●三里松原、北一里半、白沙清き海邊、聖松三里に連る、●赤間 ●宗像神社、西北一里半馬車賃二十四錢、官幣大社である、●福岡 ●宮地嶽神社、北十六町、馬車賃道賃六錢、開運の神として參詣の人が多い、●津屋崎海水浴場、西一里、馬車賃道賃十錢、支那を右にして海の中道左より遶る前面に延びて眺麗佳園、●香椎 ●香椎宮東南八町、人力車賃十錢、官幣大社、神功皇后を祀る、境内は仲哀天皇の皇后と共に、熊鷹を征討あらせられた時、行在所を置かれた舊蹟で、皇后御手我と傳へられた腰杉がある、●名島西三十町、人力車賃二十五錢、水邊帆柱石と名づくる奇石がある、附近一帯の海岸は多々良濱で、元寇十萬の兵船が錨を連ねて押寄せた所、●海の中道、古賀、香椎の間より白砂三里海中に斗出して、博多灣の北極を爲して居る、風光天ノ鶴立に似て景致更に大、山陽も曾て「此景何に擬てか西辭に在る」と憚んだ、博多鐵道の便がある、●箱崎 ●二日市間 ●

博多及附近
宰府

博多は今福岡市の一部で那珂川を隔て、相對して居る。即ち川の西部は福岡で黒田氏の舊城市、東部は博多である。地は古の那珂川で、薩摩の坊の津、伊勢の安濃の津と共に本邦三津の一に數へられ、支那貿易の市場として、其名夙に海外に聞えた。殊に太宰府に近く、最要衝に當つて居たので、守護職を置いて外敵防禦の要地として居た。文永、弘安の役に此地が重要な防禦點であつたことは皆人の知る所で、維川氏領國の世にも尙九州商業の首腦であつた。今人口八萬二千人を有し、舊近貿易額六十六萬圓あり、博多織、博多人形、博多焼等を産する。市の内外には電車の便がある。驛より東箱崎まで七錢、西公園まで九錢である。市の東、一帶の松原は所謂千代の松原で、今東公園とも云ひ、滿目の赤松千態萬様、琴聲空に絶ゆることなく、松管地に敷いて、砂の軟かなる蒲團の上を歩むやうである。園内に吉塚、箱崎の二驛があり、吉塚は篠栗線の分岐點となつて居る。吉塚驛の近くに、元弘紀念館あり、龜山上皇及日蓮上人の銅像がある。弘安の役龜山上皇「身を以て國難に代らむ」とお祈りになつた。俯仰此事六百年、誰か御像に對して感慨なきものがあらう。九州帝國大學あり、大學附屬病院あり、崇福寺あり、寺は臨濟宗の巨刹で黒田氏累代の墳墓がある。箱崎驛の近くには官幣大社箱崎宮がある。宮は應神天皇の胞衣を埋めた所で、廟前の箱松は即其舊蹟である。廟の四邊大樹森然として蒼滑かに塵飛ばず、海に向へる一扁額に「敵國降伏」の文字、實に醍醐天皇の御宸筆に成つて居る。仰望を正さぬものはなからう。櫛田神社は博多驛の西二町、菊池寂阿探題北條英時を攻めむとて馳せ上つた時、社前に至りて馬進まず、矢を放つて神屏を射れば、馬忽ち進んだ。武夫の矢猛心のひとすぢにおもひいるとは神はしらすや。

聖福寺は北五町、千光國師が宋より歸りて我邦に禪法を傳へた最初の古刹で、後鳥羽天皇の宸筆「扶桑最初禪窟」の額を山門に掲げて居る。福岡城址は驛西三十町、其石壁は元寇襲來に備へた多々瓦葺の邊岩の石を取て築いたもので、海岸を距れて居ること數町。四方池水に圍まれ西方海潮を通じて居る。市の西北端海に突出する所に西公園がある。驛より一里、博多灣の景勝悉く眸中に入り、筑紫富士の眺、畫のやうである。有名な芥屋の大門は博多より西七里、途中五里の間輕便鐵道の便がある。芥屋浦の地北に延んで盡くる所、峭然として高く巨巖の洋中に突出して居るもの、皆支武岩より成つて居る。驚濤此岩の北東を噴んで洞を穿つて居るが、洞口より凡五十間の間は洞腹稍廣く小舟を入ること出来る。洞頂洞底六角或は五角石を以て編み、到る處龜甲紋を織つて居るのである。博多よりは鐵路海岸を離れて南に走る、これより二日市に至る間、沿道の地は悉くこれ太宰府の舊跡である。博多灣頭の古蹟を盡し來つて、又新一古蹟を迎ふ、足九州に入りて偏に行旅の遅々たるを覺ゆるであらう。雜餉隈の東北一里半、宇美神社あり、人力車賃三十五錢、應神天皇御誕生の舊蹟であるといふ。これより二日市に至る間、汽車は水城の跡を横きつて行く。水城は天智天皇の外寇に備へる爲めに築造せられたもので、今僅に其堤塘を存して居る。音に名高き天満宮は、今太宰市神社と云ふ。二日市驛より東北廿五町、輕便鐵道の便あり。賃金七錢、大島居を入りて磐石の賽路を歩し、左折して二ノ華表を入れれば心字の池あり、石鼓橋を架してある。廟は壯麗雄偉を極めて居る。梅樹あり掃を繞らす。東風吹かば匂ひおこせよ梅の花あるじなしとて春な忘れそ。所謂飛梅と云ふのは即これである。近年社背に遊園を拓いて、一

段の雅致を添へて居る。神社の西北數町、築山と稱する小丘の邊、稻田の間大なる礎石を露はし、敗瓦片々狼藉して居る、これが太宰府の古址で、北には都府樓の址あり、南には府門の礎がある、九州二島の政務を執行し、併せて對外の警備を司つた大政廳、當年の倭令何處にかある、遊杖、こゝに至りて斷礎を撫し、敗瓦を拾へば、感慨無量の想がするであらう。都府樓樓看瓦色、觀音寺獨聽鐘聲、嘗て菅公の吟詠に入つた、鎮西第一の大伽藍であつた觀音寺も、朝夕の鐘聲は今尙當時の韻を改めされど、輪奐の美の見るべきものはない、觀音寺に鄰して戒壇院がある。尙此附近龍門神社、岩屋城址、學業院、國分寺、太宰少貳の館址、菅公館址等見るべきものが多い。

太宰府に養する人は多く武藏温泉に浴するのが常である、温泉は二日市の南五町、武藏川の支流を挟んで居る、其西南に聳えて居るは天拜山で、菅公此山に登りて冤を天に訴へたと傳ふ、山麓には武藏寺山腹には龍王の窟がある。

●鳥栖 ●長崎本線の分岐點、○太田山觀世音、半里、●久留米 ●筑後川の下流、筑後平野の要地を占む、有馬氏の舊城市で今第十八師團所在地である、人口三萬六千人を有し、久留米縣を産す、傘狀露島露島亦名産である、○露山神社、東北七町、舊城址に在り、筑後川に臨んで居る、境内樹木が多い、○梅林寺、西三町、○水天宮、西七町、人力車賃十三錢、筑後川に臨んで日光往、東京に在るはこれの分詞である、○高山彦九郎の

墓、東十二町、遍照院内に在り、○廣榮園、東十六町、名産露島露島を培養して居る、○高良山、東南一里半、軌道賃十錢、高良玉垂神社あり、神社の後泉に周圍十餘町の石燈を廻らすは神龜石、古史に廣城の瑞龜と云ふのがこれである、北麓野念寺あり、九州の日光と稱する、○善導寺、東三里、軌道の便あり賃金十八錢、淨土宗九州本山である、●羽大城 ●船小屋露泉、南廿六町、人力車賃二十錢、矢部川に臨んで風

圖之山火蘇阿

